2900　**序道頼**(ついでのみちより、姓;森もり、通称;八十八)?-?　江戸新材木町の狂歌作者、
1787南畝「狂歌才蔵集」入;200、少々道頼と同一？、
[先繰せんぐり(順ぐり)に昔の人は入れかはりひとつの月をのぞきからくり](才蔵集;三200)
対鳧(ついふ・宮城)　→　*御楯*(みたて・宮城みやぎ、藩士/国学/歌)　Ｋ４１７１
2917　**槌右**(ついゆう)　？-　？　大阪の俄;1775「未年俄選ひつじのとしにわかせん」入
追蠡(ついれい・市島)　→　*屏山*(へいざん・市島いちじま、詩人/弾琴)　２７４０
通(つう・池田)　→　*輝*(てる・池田いけだ/一条いちじょう、廷臣室/歌人)Ｆ３０２９
通(つう・井上)　→　*通女*(つうじょ・井上、歌人/詩/書)　２９０１
通(つう・楢林)　→　*重兵衛*(じゅうべえ・楢林、阿蘭陀通詞)　Ｙ２１３５
通(つう・遠藤)　→　*鶴州*(かくしゅう・遠藤、藩士/儒者)　Ｈ１５２９
通(つう・柳川)　→　*楊江*(ようこう;号・柳川やながわ/源、文筆)　４７７９
通(つう・橋本)　→　*香坡*(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王)Ｆ１９３４
津宇(つう/づう・小野)　→　*お通*(おつう・小野おの、正秀女/歌人)　１４１７
G2901　**通阿**(つうあ・)　1764 - 1854長寿*91*　筑後竹野郡の歌人;賀茂季鷹門、
柘植仁厚のぶあつ門の師
通阿(つうあ)　→　*明通*(みょうつう/めいつう、僧/歌人)　Ｇ４１５９
通愛(つうあい・福島)　→　*秋郷*(あきさと・福島ふくしま、商家/歌人)　Ｉ１０３６
通阿彌(つうあみ)　→　*明通*(みょうつう/めいつう、僧/歌人)　Ｇ４１５９
2918　**通庵**(つうあん・竹中たけなか、名;敬)?-?　江前期美濃の医者:半井通仙院瑞堅門、「医学入学説」、
1686「医病両鑑問答」92「古今養生録」、「黄帝内経素問要語意翼」編(1740刊)、
[通庵(;通称)の字/号]字;子昌/昌甫、号;瑞伯
2919　**通庵**(つうあん・東条とうじょう、名;庸胤)?-?　江戸期信州の医者、「甲信周族考」「草医腐談」、
「家世旧聞」「経験類聚方考」「三省堂方函」著、
[通庵(;号)の字/別号]字;士継、別号;杏翁
通安(つうあん・土居)　→　*通安*(みちやす・土居どい、武家/連歌)　Ｃ４１７１
通安(つうあん/みちやす・西河)→　*梅庵*(ばいあん・西河にしかわ、藩士/儒/詩)３６５１
通維(つうい・中院なかのいん)→　*通維*(みちこれ・中院/源/久我、廷臣/日記)Ｂ４１４８
通為(つうい・中院なかのいん)→　*通為*(みちため・中院/源、廷臣/歌人)　Ｂ４１８２
通為(つうい/みちため・林)　→　*淡水*(たんすい・林はやし、医者/教育)　Ｉ２６９０
通尹(つういん/みちただ・立花)→　*鑑寿*(あきひさ・立花たちばな、藩主/歌人)　１０８０
通尹(つういん・河野)　→　*通尹*(みちただ・河野こうの、儒者/詩文)　Ｂ４１８０
通胤(つういん・中院なかのいん)→　*通胤*(みちたね・中院/源、廷臣/日記)　Ｂ４１８１
通印(つういん;号)　→　*瑞玄*(ずいげん;法諱・通印、僧)　Ｅ２３４４
通因(つういん・館)　→　*通因*(みちよし・館たち、藩士/国学/詩歌)　Ｊ４１７０
通永(つうえい)　→　*通永*(みちなが、姓不詳/連歌)　Ｈ４１１４
通英(つうえい・河野)　→　*春察*(しゅんさつ・河野こうの、儒者)　Ｋ２１７８
通易(つうえき/みちやす?・長野)→　*馬貞*(ばてい・長野ながの、医者/俳人)　Ｆ３６３４
2920　**通円**(つうえん;法諱)　？-　？　僧;権律師/連歌、1356刊「菟玖波集」1句入
[いつとなくわがなきぬらす小夜衣](菟;恋849/前句;うらみは夢のわかれにぞある)
通遠(つうえん・越智)　→　*通遠*(みちとお・越智おち/河野、武将/連歌)Ｂ４１９４
通縁(つうえん・久我)　→　*通誠*(みちとも・久我こが/源、内大臣/歌)　Ｃ４１０２
通翁(つうおう・石野)　→　*広通*(ひろみち・石野/中原、幕臣/歌人)　Ｈ３７２７
通央(つうおう・成田/竹村)→　*通央*(みちなか・竹村/成田、藩士/故実)　Ｃ４１０８
通音(つうおん・鈴木)　→　*朱玉*(しゅぎょく・鈴木すずき、藩士/俳人)　Ｙ２１６０
通夏(つうか・中院/久世)→　*通夏*(みちなつ・久世くぜ/源/中院、廷臣/歌)Ｃ４１０９
通雅(つうが・大江)　→　*通雅*(みちまさ・大江おおえ、歌人)　Ｃ４１５１

通雅(つうが・花山院)　→　*通雅*(みちまさ・花山院/藤原、太政大臣/歌)Ｃ４１５２
通雅(つうが;字)　→　*日演*(にちえん;法諱、日蓮僧)　３３７９
2921　**通海**(つうかい;法諱/初法諱;宗円、通称;宰相法印、大中臣隆通男)1234-1305*72* 真言醍醐寺の僧、1257遍照院の憲深より伝法灌頂を受/1281法印/権僧正/83宝池院定勝より伝法灌頂受、1300賢助に具支灌頂を授、「正嘉三年仁王経法記」1286「大神宮参詣記」、「清滝権現講式」
2922　**通海**(つうかい;法諱、藤原宗経男)?-?　真言醍醐寺の僧;権僧正/歌;続門葉集入、新後撰1294、[むすびおく露もしづくもあだしののよもぎがもとをはらふ秋風](新後撰;十七1294)
2923　**通観**(つうかん/つかん、釈)　？－　？　僧/万葉三期歌人:巻三327/353、[み吉野の高城かたきの山に白雲は行きはばかりてたなびけり見ゆ](万葉;三353)
2924　**通貫**(つうかん・山田、通章男)?-　?　江中期幕府連歌師;1743吉宗還暦「御賀おんが千句」参
通寛(つうかん/みちひろ・江嵜)→　*晩香*(ばんこう・江嵜/江幡えばた、詩歌人)Ｈ３６６０
通貫(つうかん/みちつら・坂倉)→　*澹翠*(たんすい・坂倉さかくら、詩人)　Ｉ２６９１
通貫(つうかん/みちつら・中院なかのいん)→*通村*(みちむら・中院/源、廷臣/歌人)４１２１
通貫(つうかん・越智)　→　*通貫*(みちつら・越智おち、国学者)　Ｂ４１９２
通桓(つうかん・甲田/河野)→　*通桓*(みちたけ・河野/越智、医者/勤王)Ｂ４１７５
通侃(つうかん・黒川)　→　*通侃*(みちきよ・黒川くろかわ、庄屋/国学)　Ｊ４１０１
通煥(つうかん・野上)　→　*仁里*(じんり・野上のがみ、儒者/教育)　Ｑ２２０６
通岸道慶(つうがんどうけい)　→　*道慶*(どうけい・村上、闘争調停)　Ｄ３１２０
通基(つうき・久我)　→　*通基*(みちもと・久我こが/源、内大臣/歌)　Ｃ４１６６
通琦(つうき・口羽)　→　*杷山*(はざん・口羽くちば/大江、藩士/儒)　Ｅ３６３４
通熙(つうき・久世)　→　*通熙*(みちさと・久世くぜ/源、廷臣/記録)　Ｂ４１５７
通熙(つうき→みちひろ・井上)→　*蘭台*(らんだい・井上いのうえ、儒者/折衷学)Ｃ４８９１
通禧(つうき・東久世)　→　*通禧*(みちとみ・東久世ひがしくぜ、廷臣/尊攘)Ｃ４１０１
通魏(つうぎ・宮沢/源)　→　*通魏*(みちたか・宮沢、医/国学)　Ｂ４１７１
通義(つうぎ;字)　→　*日鑑*(にちかん;法諱・永昌院、日蓮僧)　Ｂ３３１５
通義(つうぎ・河野)　→　*通義*(みちよし・河野、藩士/暦算/武術)　Ｃ４１８８
通儀(つうぎ・河野)　→　*通儀*(みちのり・河野こうの、町役/歌人)　Ｊ４１１０
通祇(つうぎ・座光寺)　→　*為礩*(ためかた・座光寺ざこうじ、領主/歌人)Ｘ２６２８
通誼(つうぎ・林)　→　*有通*(ありみち・林はやし、国学;尊攘思想)　Ｆ１０８１
通機堂(つうきどう)　→　*解記*(げき・佐藤、商家/和算家)　Ｇ１８８６
通躬(つうきゅう・中院なかのいん)→　*通躬*(みちみ・中院/源、廷臣/歌人)　４１１８
通久(つうきゅう/みちひさ・高橋)→　*松園*(しょうえん・高橋たかはし、商家/儒詩)Ｈ２２３１
通久(つうきゅう・永野)　→　*通久*(みちひさ・永野ながの、医者・国学)　Ｊ４１９７
通居(つうきょ・松田)　→　*東門*(とうもん・松田、藩士/儒者)　Ｈ３１４４
通喬(つうきょう・河野)　→　*通喬*(みちたか・河野こうの、幕臣)　Ｂ４１７０
通恭(つうきょう・河野)　→　*涼谷*(りょうこく・河野、醸造業/俳人)　Ｈ４９５１
通郷(つうきょう・波多野)　→　*通郷*(みちさと・波多野、室町幕臣/連歌)Ｂ４１５５
通郷(つうきょう/みちさと・浅加)→　*久敬*(ひさたか・浅加あさか、国史・国学・歌)Ｂ３７２１
通堯(つうぎょう・正木)　→　*通堯*(みちたか・正木まさき、藩士/鷹匠/歌)Ｂ４１７２
通欽(つうきん・築山)　→　*通欽*(みちただ・築山、藩士/剣術家)　Ｂ４１７７
通具(つうぐ・源)　→　*通具*(みちとも・源みなもと、廷臣/歌人)　４１１２
通訓(つうくん・河野)　→　*通訓*(みちくに・河野/越智、幕臣)　Ｂ４１４３
通兄(つうけい・久我)　→　*通兄*(みちえ・久我こが/源、廷臣/記録)　Ｂ４１２１
通景(つうけい・介川)　→　*通景*(みちかげ・介川すけがわ、藩士/詩文)　Ｂ４１３１
通経(つうけい/みちつね・鈴木/稲葉)→　*迂斎*(うさい・稲葉いなば、儒者)　Ｂ１２３０
通卿(つうけい・桜井)　→　*竜淵*(りゅうえん・桜井さくらい、儒者/詩歌)　Ｄ４９０２
通卿(つうけい・中島)　→　*竜橋*(りゅうきょう・中島なかじま、藩士/儒者)Ｄ４９３６
通慶(つうけい・津田)　→　*通慶*(みちよし・津田つだ、藩士/馬術家)　Ｃ４１８４
通繋(つうけい・中院なかのいん)→　*通繋*(みちつぐ・中院/源、廷臣/日記)　Ｂ４１８７
2925　**通賢**(つうけん)　？－　？　連歌、1464?盛長催「熊野千句」参

2926 **通軒**(つうけん・中島なかじま、名;為貞)1682-1729*48*　水戸の儒者;大串雪瀾・酒泉さかいずみ竹軒門、1700彰考館入、1726彰考館総裁;大日本史編纂に従事、「大日本史職官志稿」、「通軒遺稿」、[通軒(;号)の字/通称]字;子幹、通称;瀬戸之助/平次

通顕(つうけん・河野)　→　*通顕*(みちあき・河野こうの、武将/連歌)　Ｈ４１１８
通顕(つうけん・伊達)　→　*茂村*(しげむら・伊達だて、歌)　Ｓ２１８８
通顕(つうけん・沢井)　→　*通顕*(みちあき・沢井さわい、国学者)　Ｊ４１２３
通賢(つうけん;法諱)　→　*李由*(りゆう・河野こうの、真宗僧/俳人)　４９０５
通賢(つうけん・久米)　→　*通賢*(みちかた・久米、藩士/暦算/測量)　Ｂ４１３５
通賢(つうけん・屋代)　→　*通賢*(みちかた・屋代やしろ、幕臣/国学)　Ｂ４１３６
通賢(つうけん・田崎/小野崎)→　*尚甫*(しょうほ・小野崎おのざき/田崎、藩士/詩)Ｌ２２５９
通憲(つうけん・藤原)　→　*通憲*(みちのり・藤原、信西、廷臣/学者)　４１１４
通憲(つうけん;法諱)　→　*顕令*(けんれい;道号・通憲;法諱、臨済僧)Ｎ１８１１

2927 **通幻**(つうげん;道号・寂霊じゃくれい/じゃくりょう;法諱、俗姓;源or藤原)1322-91*70* 京(or豊後)の僧;1332(11歳)叡山で出家(;寂霊名)、のち曹洞僧:加賀大乗寺明峰素哲・総持寺峨山韶碩門、峨山の法嗣/丹波永沢寺開山/能登総持寺住持、妙高庵結庵;総持寺輪番制確立、1386越前竜泉寺開山、「通幻禅師語録」「通幻禅師漫録」「通幻霊禅師総持語録」著

2928 **通元**(つうげん;法諱)　？-　？　僧:上人/歌人:1384成立「新後拾遺集」812、[初瀬山嶺みねのひばらもうづもれて雪の下なる入逢の鐘](新後拾遺:八812)

2929 **通玄**(つうげん;道号・法達ほうたつ;法諱、俗姓;鈴木)1635-1704*70* 陸前松島臨済僧;雲居希膺門/法嗣、保福寺住寺/妙心寺の首座/1671越後柏崎安国寺住持/1703松島瑞巌寺住持、陸前善応寺開山、「通玄和尚語録」著、
[通玄法達の号]　幻幻斎/松頓

2931 **通玄**(つうげん;法諱、俗姓;加藤)1656-1731*76*　讃岐多度津の真言;高野山僧/事教二相に精通、のち河内蓮光寺に住;著述に専念、「折中記」「豊浦文集」「行者霊験記」「修密問辨」、「大疏裂網」「中院秘訣」「辨惑通衡」「菩提心論須知鈔」1703「教誡律儀指要鈔」外著多数

2930 **通元**(つうげん・甲賀こうが、号;健斎、祐賢男?)?-?　江中期1716-48頃京の医者/漢方剤の研究、1720「医方紀原」33「刪補古今方彙」、「方彙」著

2932 **通元**(通玄つうげん;法諱、号;易行庵いぎょうあん)?-?　江中期安永1764-82頃豊後日田の真宗長福寺住職、大谷派九州学系の祖、高倉学寮建設に尽力、1767「伝絵津梁材」、「読易行品」著

2933 **通玄**(つうげん・石黒いしぐろ、名;正廉、済庵男?)1825-?　1858存　尾張藩医/本草学の研究、1857「皇和真影本草」著
[通玄(;号)の字/別号]字;子直、別号;富春堂

通玄(つうげん・一峰;道号)→　*一峰*(いっぽう・通玄;法諱、臨済僧)　Ｈ１１８３
通玄(つうげん;法諱)　→　*要中*(ようちゅう;道号・通玄、黄檗僧)　Ｂ４７４６
通玄(つうげん・小川)　→　*柳谿*(柳渓りゅうけい・小川、儒者/詩人)　Ｄ４９５０
通玄(つうげん・広辻)　→　*光春*(みつはる・広辻ひろつじ/橘/小林、歌/茶人)Ｋ４１２８
通言(つうげん・久我)　→　*通言*(みちのぶ・久我こが/源、右大臣)　Ｃ４１１８
通元(つうげん・加納)　→　*東阿*(とうあ・加納、医者/詩/俳人)　３１７４
通元(つうげん・戸田)　→　*通元*(みちもと・戸田とだ、天文家)　Ｃ４１６８
通玄院(つうげんいん)　→　*日演*(にちえん;法諱、日蓮僧)　３３７８
通源院(つうげんいん;法号)→　*光政*(みつまさ・池田いけだ、藩主/儒者)　Ｅ４１８７
通玄玉江和尚((つうげんぎょっこうおしょう)→*聖珊内親王*(しょうさんないしんのう、曇華院宮)Ｊ２２３９

2934 **通故**(つうこ・山田やまだ、通称;織部、通貫男/通章の孫)1733-86*54*　江戸芝烏森稲荷の社司、幕府連歌師(1747-86)、連歌;昌迪・昌周門、「連歌百韻集」「古連歌百韻集」編/「通故集」、1751「式目不審抄」、「通故分句」「歌のつぎ木」著、「通故発句集」(:藤野章甫編)、通孝の祖父藤野章甫と親交

通古(つうこ・中院なかのいん)→　*通古*(みちひさ・中院/源/久世、廷臣/歌人)Ｃ４１３１
通古(つうこ・川野)　→　*通古*(みちふる・川野/河野、藩記録奉行)　Ｃ４１４７
道古(つうこ・山内)　→　*道古*(みちふる・山内、国学/歌)　Ｃ４１４８
通古(つうこ・得能)　→　*通古*(みちふる・得能、藩校教授/儒)　Ｃ４１４９

通故(つうこ・安藤)　→ *通故*(みちふる・安藤、国学者/歌)　Ｃ４１５０
通故(つうこ・稲葉)　→ *通故*(みちひさ・稲葉いなば、藩士/兵法家)　Ｈ４１３３
通故(つうこ・加藤)　→ *順庵*(じゅんあん・加藤かとう、医者)　２１９８
通虎(つうこ・嶋)　→ *通虎*(みちとら・嶋しま、藩士/医者/俳人)　Ｃ４１０４
2935 **通孝**(通亨つうこう・山田やまだ、通称;縫殿ぬい、通経男/通故の孫)?-?　江戸芝の烏森稲荷の社司、
連歌:昌成門、幕府連歌師:1809幕府に出仕、連歌の撰集・千句・百韻を集成/書写、
1844「連歌集書」編纂(107冊の書写・集成)、「雪光集」編
通光(つうこう・久我)　→ *通光*(みちてる・みちみつ・久我こが、土御門/源、歌)４１１９
通光(つうこう・弘ひろ)　→ *通光*(みちみつ・弘ひろ、和洋算家/教育)　Ｃ４１６４
通光(つうこう・肥田)　→ *通光*(みちてる・肥田ひだ、庄屋/国学/俳)　Ｋ４１１７
通孝(つうこう・稲葉)　→ *通孝*(みちたか・稲葉いなば、藩士/国学者)　Ｉ４１１０
通孝(つうこう・野口)　→ *通孝*(みちたか・野口のぐち、藩士/国学)　Ｋ４１０３
通恒(つうこう・吉良)　→ *通恒*(みちつね・吉良きら、歌人)　Ｉ４１８４
通高(つうこう/みちたか・江**嵜**/那珂)→ *梧楼*(ごろう・那珂なか/江**嵜**、藩士/儒者)Ｇ１９５６
通幸(つうこう・林)　→ *通幸*(みちゆき・林はやし、子平甥/文筆家)　Ｃ４１７６
通弘(つうこう/みちひろ・石崎/河野)→ *守弘*(もりひろ・河野/越智、国学/史家)Ｇ４４４１
通功(つうこう・天野)　→ *通功*(みちこと・天野あまの、日記)　Ｂ４１４７
通広(つうこう・長尾)　→ *通広*(みちひろ・長尾ながお、歌人)　Ｈ４１８４
通香院(つうこういん;法号)→ *康伴*(やすとも・本多/藤原/酒井、藩主)　Ｃ４５３３
E2997 **通克**(つうこく・みちかつ?寺川てらかわ、通称;左門)?-?　江後期;歌人、
歌;1858蜂屋光世「大江戸和歌集」入、
[幾本の花のさかりぞ白雲の絶間も見えぬみ吉野の山](大江戸和歌;春239)
通克(つうこく・遠藤)　→ *鶴州*(かくしゅう・遠藤、藩士/儒者)　Ｈ１５２９
通根(つうこん・久世)　→ *通根*(みちね・みちもと・久世/源、廷臣/記録)Ｃ４１１５
2936 **通斎**(つうさい・池田いけだ、名;義之)1785-1836*52*　福井の医者:上京し小森桃塢門、
1821師と刑死人体解剖;「解臓図賦」編、「医学淵源」「傷寒論詳解」「痘科鍵口訣辨解」著、
[通斎(;号)の字/通称/法号]字;伯宜、通称;冬蔵、法号;速入院円成
2937 **通済**(つうさい;法諱・最勝さいしょう;字)1788-1872*85* 江戸大塚の真言僧;護持院通弁門/長谷寺で修学、
月輪寺住/1849湯島根生院住/55護持院転住/56長谷寺49世/権僧正、62致仕/退隠、
「即身成仏義玄談」「中性院流口決」著
通斎(つうさい・中山)　→ *愛徳*(あいとく/よしのり・花山院かざんいん/藤原/中山、右大臣/詩歌)Ｍ４７１５
通斎(つうさい・広辻)　→ *光春*(みつはる・広辻ひろつじ/橘/小林、歌/茶人)Ｋ４１２８
通西(つうさい;号)　→ *性憲*(しょうけん;法諱・慈空、浄土西山派僧)Ｉ２２４３
通載(つうさい・岡田)　→ *通載*(みちのり・岡田、郷土史家)　Ｃ４１２８
2938 **通志**(つうし・水巻)　1794 - 1871*78*　甲斐甲府穴切の人;甲府勤番御小人頭、
俳人:嵐外門1866「俳諧類題集二篇」編、篤志の父、
[通志(;号の通称/別号)]通称;八之輔、別号;豆々庵/豆々花
通氏(つうし)すべて　→ *通氏*(みちうじ)
通之(つうし・山根)　→ *済洲*(せいしゅう・山根やまね、藩士/儒者)　Ｂ２４９８
通子(つうし・吉岡)　→ *通子*(みちこ・吉岡よしおか、商家/歌人)　Ｋ４１９１
通枝(つうし・中院)　→ *通枝*(みちえだ・中院なかのいん/久世、廷臣/歌)Ｂ４１２２
通資(つうし・三木)　→ *通資*(みちもと・三木みき、郷土史家)　Ｃ４１６７
通時(つうじ・源)　→ *道時*(通時みちとき・源、廷臣/歌人)　Ｂ４１９５
通時(つうじ・中院なかのいん)→ *通秀*(みちひで・中院/源、廷臣/歌・連歌)　Ｃ４１３３
通時(つうじ・北条)　→ *通時*(みちとき・北条/平、武将/歌人)　Ｂ４１９６
通治(つうじ・梅渓)　→ *通治*(みちとほ・梅渓うめたに、廷臣/神職/歌)Ｉ４１２０
通識(つうしき・三木)　→ *通識*(みちさと・三木、郷土史家)　Ｂ４１５６
通守(つうしゅ・中院なかのいん)→ *通守*(みちもり・中院/源、廷臣/歌)　Ｃ４１７０
通寿(つうじゅ/みちひさ・谷田部)→ *彦六*(ひころく・谷田部やたべ、彫工)　３７７８
通樹(つうじゅ・源)　→ *通樹*(みちき・源みなもと、歌人)　Ｌ４１０１

通修(つうしゅう)　→　*通修*(みちなお、連歌)　Ｈ４１１９
通重(つうじゅう・河野)　→　*通重*(みちしげ・河野こうの、和算家)　Ｂ４１６１
通秀(みちひで・中院なかのいん)→　*通秀*(みちひで・中院/源、廷臣/歌・連歌)Ｃ４１３３
通周(つうしゅう/みちちか・稲葉)→　*知通*(ともみち・稲葉いなば、藩主)　Ｑ３１６４
通秋(つうしゅう・豊原)　→　*通秋*(みちあき・豊原とよはら、楽人;笙)　Ｂ４１０５
通重(つうじゅう・中院なかのいん)→　*通重*(みちしげ・中院/源、廷臣/歌人)　Ｂ４１６０
通重(つうじゅう・河野)　→　*通重*(みちしげ・河野こうの/越智、庄屋/歌)Ｊ４１０９
通春(つうしゅん・徳川)　→　*宗春*(むねはる・徳川/松平/源、藩主)　Ｃ４２２７
通春(つうしゅん・山本)　→　*通春*(道春みちはる・山本やまもと、詩歌人)　Ｃ４１２９
通春(つうしゅん・下条)　→　*秋水*(しゅうすい・下条しもじょう、医者/国学)Ｘ２１７４
通俊(つうしゅん・藤原)　→　*通俊*(みちとし・藤原、廷臣/詩歌/故実)　４１１１
通俊(つうしゅん・望月)　→　*周助*(しゅうすけ・望月もちづき、藩士)　Ｘ２１７７
通惇(つうじゅん・黒川)　→　*通淳*(みちあつ・黒川くろかわ、藩士/歌人)　Ｊ４１００
通淳(つうじゅん・中院)　→　*通淳*(みちあつ・中院/源、廷臣/詩人)　Ｂ４１１３
貞惇(つうじゅん・山本)　→　*鹿洲*(ろくしゅう・山本やまもと、医者)　Ｃ５２７８
通純(つうじゅん・中院なかのいん)→　*通純*(みちずみ・中院/源、廷臣/歌人)　Ｂ４１６８
通緒(つうしょ・堀)　→　*通緒*(みちお・堀ほり、国学者/歌人)　Ｋ４１４１

2939　**通恕**(つうじょ:法諱・惟忠いちゅう:道号)1349-1429*81*　京臨済僧:建仁寺無涯仁浩門/法嗣、義堂周信門、仏源派僧、1403越中金剛寺住/08安国寺住/1410建仁寺88世/天竜寺52世/1416南禅寺89世、晩年は常在光寺隠棲、「雲壑猿吟」「猿吟集」「繋驢橛けいろけつ」著、
[惟忠通恕の号]雲壑うんがく[道人]/牧潜道人

2940　**通助**(つうじょ;法諱)　？－　？　室町前期法印/権僧正、歌:1433兼良邸歌会参加、新続古今集863、
[かかぐべき末の光を思ふぞよ伝へし後の法のともし火](新続古;八863/伝法灌頂後)

2901　**通女**(つうじょ・井上いのうえ/三田さんだ、別名;振/玉/通、藩士井上本固女)1660-1738*79*　讃岐丸亀の歌人、詩/書に通ず、1681讃岐丸亀藩主京極高豊の母養性院に召され江戸で侍女として出仕、1689養性院没のため帰郷、三田さんだ宗寿の妻、「括嚢集」「三草三木考」、1681「東海紀行」、1681家集「和歌往事集」(息義勝編)、1682-83「江戸日記」89「帰家日記」、1719「秋燈あきのともしび集」、「続往事集」(散佚)、「牡丹記」「庚辰道の記」「源語秘決聞書」「禅機」、「古今序考」「深閨記」「婦人須知」「三島伝考」「和文記」「浪華紀行」、「井上通女詩歌」著、
[通女(;名)の号]　感通/感媼、　三田さんだ義勝よしかつの母
通恕(つうじょ・八谷)　→　*梅顛*(ばいてん・八谷やたがい、藩士/詩文)　Ｂ３６８６

2902　**通笑**(つうしょう・市場いちば、名;寧一)1737-1812*76*　江戸日本橋の表具師(屋号;小倉屋)、噺本/絵本、1779黄表紙作家として立つ、1779「嘘言弥次郎傾城誠うそつきやじろうけいせいのまこと」「其数々酒の癖」、1779「かごめかごめ籠中鳥」「大通人穴扒だいつうじんあなさがし」「日照雨狐嫁入」「桃太郎元服姿」、1780「役者夏の富士」「野暮穴扒やぼのあなさがし」/81「教訓蚊の咒まじない」「御代之御宝ごよのおんたからもの」、1784「大昔野暮人時分やぼなじぶん」85「御物好おものずき茶臼藝」、1801「昔咄枯木花」外著多数、
[通笑(;号)の字/通称/別号]字;子彦、通称;小平次、別号;橘雫きつだ(俳号)/教訓亭/三文先生
通松(つうしょう;法諱)　→　*末山*(まっさん;道号・通松、黄檗僧)　Ｊ４０７４
通性(つうしょう)　→　*超海*(ちょうかい;法諱、真言僧)　Ｈ２８６１
通紹(つうしょう;字)　→　*動潮*(どうちょう;法諱、真言僧)　Ｇ３１４８
通尚(つうしょう・河野[別府])→　*智真*(ちしん;法諱、一遍上人/時宗の開祖)２８１２
通尚(つうしょう;名)　→　*伊織*(いおり・一尾いちお、幕臣/茶の湯)　Ｆ１１１２
通尚(つうしょう→みちひさ・久我)→*通博*(みちひろ・久我こが/源、太政大臣/歌)Ｃ４１３６
通昭(つうしょう・寺町)　→　*通昭*(みちあき・寺町てらまち、記録者)　Ｂ４１０４
通昭(つうしょう・得能)　→　*通昭*(みちあき・得能とくのう、藩士/歌人)　Ｂ４１０６
通昭(つうしょう/みちあき・小野)→　*素郷*(そきょう・小野、商家/俳人/謡曲)Ｄ２５４８
通昌(つうしょう・岸)　→　*通昌*(みちまさ・岸きし、和算家)　Ｃ４１５４
通勝(つうしょう・中院)　→　*通勝*(みちかつ・中院/源、廷臣/古典/歌人)４１０４
通定(つうじょう;字)　→　*日恵*(にちえ;法諱、日蓮僧)　３３５５

通心（つうしん；字）　→　*日従*（にちじゅう；法諱・信解院、日蓮僧）Ｃ３３１８
通心（つうしん；字）　→　*日友*（にちゆう；法諱・中正院、日蓮僧）Ｄ３３２９
通親（つうしん・土御門）　→　*通親*（みちちか・土御門/久我/源、内大臣/歌）４１０８
通信（つうしん/みちのぶ・村田）→　*匏庵*（ほうあん・村田むらた、漢学者/詩人）３９０８
通信（つうしん・南部）　→　*通信*（みちのぶ・南部なんぶ、藩主/歌人）Ｋ４１０１
通真（つうしん・河野）　→　*通真*（みちざね・河野こうの、幕臣）Ｂ４１５８
通岑（つうしん・東久世）　→　*通岑*（みちみね・東久世ひがしくぜ、廷臣/歌・書）Ｋ４１２４
通心院（つうしんいん）　→　*日境*（にっきょう；法諱・叡長、日蓮僧）Ｄ３３８２
通神亭（つうじんてい）　→　*宗信*（むねのぶ・桂かつら、絵師）Ｃ４２１３
通神堂（つうじんどう・熊坂）→　*適山*（てきざん・熊坂、藩士/絵師）Ｂ３０９４
通神道人（つうじんどうじん）　→　*宗信*（むねのぶ・桂かつら、絵師）Ｃ４２１３
通世（つうせい）すべて　→　*通世*（みちよ）
通成（つうせい・中院なかのいん）→　*通成*（みちなり・中院/源、廷臣/歌人）Ｃ４１１２
通政（つうせい・河野/山県）→　*通政*（みちまさ・山県/河野、藩士/勤王）Ｃ４１５６
通誠（つうせい・久我）　→　*通誠*（みちとも・久我こが/源、内大臣/歌）Ｃ４１０２
通誠（つうせい・江嵜）　→　*春庵*（しゅんあん・江嵜えばた/田口、藩士/儒/医）２１９７
通誠（つうせい；字）　→　*日叡*（にちえい；法諱、日蓮僧）３３６６
通清（つうせい・源）　→　*通清*（みちきよ・源みなもと、廷臣/歌人）Ｂ４１３９
通清（つうせい/みちきよ・高木）→　*筠斎*（いんさい・牟田口むだぐち、儒者）Ｉ１１５７
通清（つうせい・河野）　→　*界浦*（かいほ・河野、儒者；音韻学）Ｈ１５２０
通清（つうせい・越智）　→　*通清*（みちきよ・越智おち、里正/歌人）Ｉ４１３０
通静（つうせい・江嵜）　→　*通静*（みちきよ・江嵜えばた、儒国学/歌人）Ｉ４１２２
通靖（つうせい・岩下）　→　*君恭*（くんきょう・岩下いわした、儒者）Ｄ１７６２
通積（つうせき・東久世）　→　*通積*（みちつむ・東久世ひがしくぜ、廷臣/神道）Ｋ４１２３
通節（つうせつ・境田）　→　*通節*（みちとき・境田さかいだ、藩士/歌人）Ｊ４１１８
通川（つうせん・大塚）　→　*水石*（すいせき・大塚おおつか、藩士/儒者）Ｅ２３７４
通泉（つうせん；法諱・元亨）→　*元亨*（げんこう；道号・通泉、臨済僧）Ｉ１８７０
通仙（つうせん・上杉）　→　*清章*（きよふみ・上杉うえすぎ、商家/歌人）Ｑ１６２９
通仙（つうせん・下条）　→　*竹塢*（ちくお/ちくう・下条、医者/歌）Ｃ２８６６
通仙（つうせん・渡辺）　→　*通朝*（みちとも・渡辺わたなべ、国学/歌人）Ｋ４１９８
通宣（つうせん・久我）　→　*通宣*（みちのり/ーのぶ・久我/源、廷臣/歌）Ｃ４１２５
通宣（つうせん・河野）　→　*通宣*（みちのぶ・河野、武将/刑部大輔/連歌）Ｈ４１１０
通宣（つうせん・河野）　→　*通宣*（みちのぶ・河野こうの、武将/左京大夫）Ｈ４１２０
通詮（つうせん・度会）　→　*通詮*（みちあきら・度会わたらい、神職/歌人）Ｂ４１１０
通僊（つうせん；号）　→　*方巌*（ほうがん：道号・祖永：法諱、臨済僧/煎茶）３９３５
通善（つうぜん・梅渓）　→　*通善*（みちたる・梅渓うめたに/久我/源、廷臣/記録）Ｂ４１８５
通仙院（つうせんいん・/通仙軒）→　*瑞策*（ずいさく・半井なからい/和気、医者）Ｅ２３５５
通相（つうそう・久我）　→　*通相*（みちまさ・久我こが/源、太政大臣/歌）Ｂ４１６５
通宗（つうそう・藤原）　→　*通宗*（みちむね・藤原ふじわら、廷臣/歌人）４１２０
通則（つうそく・滑川）　→　*通則*（みちのり・滑川なめかわ、藩士/儒者）Ｃ４１２７
通村（つうそん・中院なかのいん）→　*通村*（みちむら・中院/源、廷臣/歌人）４１２１
通泰（つうたい・河野）　→　*通泰*（みちやす・河野こうの、幕臣/歌人）Ｃ４１７２
通泰（つうたい・穂積）　→*通泰*（みちやす・穂積ほづみ/竹内/斉藤、歌人）Ｃ４１７４
通泰（つうたい・栗原/宮崎）→　*通泰*（みちやす・宮崎/栗原、医者/歌）Ｃ４１７５
通達（つうたつ・北富舎）　→　*北富舎*（ほくふしゃ、名；通達/廻船業/書）Ｄ３９８７
通達（つうたつ・法道寺）　→　*善*（よし・法道寺、和算家）Ｋ４７２４
通脱（つうだつ・西川）　→　*吉輔*（吉介よしすけ・西川にしかわ、国学者）Ｄ４７８０
通知（つうち；法諱・心嶽）→　*心嶽*（しんがく；道号・通知、臨済僧）Ｎ２２７０
通知（つうち・中院なかのいん）→　*通知*（みちとも・中院/源、廷臣/歌人）Ｃ４１０３
通智（つうち・河野）　→　*通尹*（みちただ・河野こうの、儒者/詩文）Ｂ４１８０

通忠(つうちゅう・久我)　→　*通忠*(みちただ・久我こが/源、大納言/歌)　Ｂ４１７６
通長(つうちょう・河野)　→　*通長*(みちなが・河野こうの、幕臣/歌人)　Ｌ４１２４
通朝(つうちょう・渡辺)　→　*通朝*(みちとも・渡辺わたなべ、国学/歌人)　Ｋ４１９８
通直(つうちょく)すべて　→　*通直*(みちなお)
通貞(つうてい/みちさだ・越智)→　*鳳台*(ほうだい・越智おち、藩士/兵法家)　Ｃ３９２２
通貞(つうてい・土居)　→　*通貞*(みちさだ・土居どい、武将/連歌)　Ｈ４１１３
通貞(つうてい・江嵜)　→　*通貞*(みちさだ・江嵜えばた、詩歌人)　Ｉ４１２１
通定(つうてい・清原)　→　*通定*(みちさだ・清原きよはら、廷臣/歌人)　Ｂ４１５２
通定(つうてい・忽那)　→　*通定*(みちさだ・忽那くつな、武将/連歌)　Ｂ４１５１

2941　**通徹**(つうてつ;法諱・清渓[谿]せいけい;道号、号;天游、俗姓三浦)1300-85*86*　相模の臨済僧:入元(30年間)、帰国後;夢窓疎石門;法嗣/天竜寺11世/1376南禅寺37世/丹波常照寺退隠、「清渓和尚語録」著
通冬(つうとう・中院なかのいん)→　*通冬*(みちふゆ・中院/源、廷臣/日記)　Ｃ４１４６
通統(つうとう・谷)　→　*通統*(みちむね・谷たに、故実家/香・花道)　Ｊ４１７１

2942　**通同**(つうどう;法諱)　？－　?1856存　越後豊山白心精舎住の天台僧、1856「天台法華玄義聞書」著
通道(つうどう・山中)　→　*通道*(ゆきみち・山中やまなか/佐々木、書道)Ｈ４６４４
通藤女(つうとうのむすめ・源)→　*通藤女*(みちふじのむすめ・源、歌人)　Ｃ４１４４
通徳(つうとく/みちのり・田中)→　*謙斎*(けんさい・田中たなか、藩儒者)　Ｅ１８９８
通徳(つうとく/みちのり・鳥山)→　*香軒*(こうけん・鳥山とりやま、詩人)　Ｇ１９２６
通徳(つうとく・岩田)　→　*通徳*(みちのり・岩田いわた/平、幕臣/奉行)Ｈ４１６２
通徳(つうとく・長崎)　→　*通徳*(みちのり・長崎ながさき/越智、連歌師)Ｊ４１９８
通徳(つうとく・館)　→　*通因*(みちよし・館たち、藩士/国学/詩歌)　Ｊ４１７０
通如(つうにょ;字)　→　*日領*(にちりょう;法諱・体信院、日蓮僧)　Ｄ３３６２
通仁(つうにん:法諱)　→　*懐宗*(かいじゅう・通仁つうにん、黄檗僧)　Ｉ１５７３
通任(つうにん・藤井/佐波)→　*銀次郎*(ぎんじろう・佐波さば、蘭学者)　Ｒ１６２１
通年子(つうねんし・堀)　→　*通年子*(常子つねこ・堀ほり、歌人)　Ｃ２９０６
通能(つうのう・源)　→　*通能*(みちよし・源、平安末期廷臣/歌人)４１２２
通博(つうはく・久我)　→　*通博*(みちひろ・久我こが/源、太政大臣/歌)Ｃ４１３６
通博(つうはく・那珂)　→　*通博*(みちひろ・那珂なか、儒/藩校助教)　Ｃ４１３９
通博(つうはく・口羽)　→　*通博*(みちひろ・口羽くちは、藩士/国学者)　Ｉ４１９６
通璞(つうはく・布川)　→　*菱潭*(りょうたん・布川ぬのかわ、儒/兵学者)　Ｉ４９８２
通姫(つうひめ・池田)　→　*輝*(てる・池田いけだ/一条いちじょう、廷臣室/歌人)Ｆ３０２９
通敏(つうびん・中院なかのいん)→　*通敏*(みちとし・中院/源、廷臣/歌人)　Ｂ４１９７
通敏(つうびん・守田)　→　*通敏*(みちとし・守田もりた、藩士)　Ｂ４１９９
通富(つうふ・中院なかのいん)→　*通富*(みちとみ・中院/源、廷臣/記録)　Ｃ４１００
通溥(つうふ・河野)　→　*通溥*(みちひろ・河野こうの、国学/歌人)　Ｊ４１１１
通武(つうぶ/みちたけ・久坂)→　*玄瑞*(げんずい・久坂くさか、藩士奇兵隊)　Ｃ１８４２
通福(つうふく・愛宕)　→　*通福*(みちとみ・愛宕おたぎ/中院なかのいん/源/岩倉、権大納言)Ｉ４１６２
通文(つうぶん・梅殿/宝田)→　*通文*(みちふみ・宝田たからだ/梅殿、国学者)Ｃ４１４５
通文(つうぶん・阿野)　→　*通文*(みちふみ・阿野あの、歌人)　Ｈ４１６４
通文(つうぶん・高野)　→　*通文*(みちぶみ・高野たかの、修験/神職)　Ｊ４１６０
通輔(つうほ・松殿)　→　*通輔*(道輔みちすけ・松殿まつどの/藤原、廷臣/歌)Ｂ４１６４
通輔(つうほ・越智)　→　*通輔*(みちすけ・越智おち、藩士/歌人)　Ｉ４１３１

2944　**通方**(つうほう;道号・明道みょうどう;法諱)?-1395　臨済僧:抜隊ばっすい得勝門/法嗣、甲斐塩山向嶽庵2世、1387「抜隊和尚行実」、「抜隊和尚語録」編
通包(つうほう)　→　*通包*(みちかね、姓不詳、武家/連歌)　Ｈ４１１５
通邦(つうほう・稲葉)　→　*通邦*(みちくに・稲葉、藩士/礼法/故実家)Ｂ４１４２
通房(つうぼう・藤原)　→　*通房*(みちふさ・藤原、宇治大将、廷臣/歌)Ｃ４１４１

通本院(つうほんいん)　→　*日智*(にっち;法諱・桓叡、日蓮僧)　Ｆ３３０６
通名(つうめい)　→　*通名*(みちな、姓不詳、連歌)　Ｈ４１１６
通明(つうめい;字)　→　*慈順*(じじゅん;法諱・通明;字、真言僧)　Ｔ２１７２
通明(つうめい・久我)　→　*通明*(みちあき・久我こが、廷臣/内大臣)　Ｊ４１０４
通明(つうめい)上記以外は→　*通明*(みちあき)
通明国師(つうめいこくし)　→　*源空*(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖)１８１１
通有(つうゆう・源)　→　*通有*(みちあり・源みなもと、廷臣/歌)　Ｂ４１１６
通有(つうゆう・河野)　→　*通有*(みちあり・河野、武将)　Ｈ４１１２
通右(つうゆう・中院なかのいん)→　*通為*(みちため・中院/源、廷臣/歌人)　Ｂ４１８２
通右(つうゆう・堀田)　→　*通右*(みちすけ・堀田ほった、幕臣/歌人)　Ｋ４１１０
通雄(つうゆう・久我)　→　*通雄*(みちお・久我こが/源、太政大臣/歌)Ｂ４１２４
通雄(つうゆう・みちお・小川)→　*樫斎*(ていさい・小川、医者)　３０８８
通猶(つうゆう・根本)　→　*古柳*(こりゅう・根本ねもと、藩士/儒者)　Ｎ１９９０
2945　**通容**(つうよう)　？－　？　京の俳人;1691江水「元禄百人一句」入
通用(つうよう;法諱)　→　*若存*(じゃくそん;道号・通用、黄檗僧)　Ｗ２１０６
通庸(つうよう・小川)　→　*成信*(しげのぶ・小川おがわ/石井、国学者)　Ｒ２１９９
通庸(つうよう・東久世)　→　*通庸*(みちいさ・東久世ひがしくぜ、廷臣/歌)　Ｋ４１２２
通庸(つうよう・三島)　→　*通庸*(みちつね・三島みしま、藩士/強権的官僚)Ｋ４１６８
通用亭徳成(つうようていとくなり)→　*徳成*(とくなり・通用亭、狂歌師/戯作)Ｌ３１２６
2946　**通陽門院**(つうようもんいん、厳子、三条公忠女)1351-1406*56*　後円融天皇妃、後小松天皇の母、
1371入内/77幹仁(後小松)親王出産/83従二位/95准三宮/96女院号宣下、三条実冬の姉、
歌人;1380・3月歌会始参加、勅撰6首;新後拾(90/245/301/884/1168)新続古(764)
通頼(つうらい・藤原)　→　*通頼*(みちより・藤原ふじわら、廷臣/歌人)　Ｃ４１９０
通頼(つうらい・中院)　→　*通頼*(みちより・中院なかのいん/源、准大臣/歌)Ｌ４１１４
通理(つうり・久世)　→　*通理*(みちあや・久世くぜ/源、廷臣/日記)　Ｂ４１１５
通理(つうり・岡本)　→　*通理*(みちまさ・岡本おかもと、儒者/国学)　Ｃ４１５５
通理(つうり・江嵜)　→　*通理*(みちまさ・江嵜えばた、医者/国学)　Ｉ４１２３
通理(つうり・河野)　→　*通理*(みちまさ・河野こうの、神職/国学)　Ｊ４１１２
通里(つうり・河野)　→　*通里*(みちさと・河野こうの、武将/連歌)　Ｈ４１１７
2947　**通竜**(つうりゅう・稲葉いなば、通称;新右衛門)1736-86*51*　大阪塩町心斎橋西の儒医者/刀剣装飾具商、
鑑定家:書肆芝翠館を営業、「革究図譜」/1781「装劔奇賞」85「更紗図譜」「更紗雛形」
通隆(つうりゅう・寺川)　→　*通隆*(みちたか・寺川てらかわ、歌人)　Ｈ４１８９
通量(つうりょう;法諱)　→　*少室*(しょうしつ;道号・通量、臨済僧)　Ｊ２２４３
通量(つうりょう・中院なかのいん)→　*通為*(みちため・中院/源、廷臣/歌人)　Ｂ４１８２
通亮(つうりょう/みちあき・岩下)→　*探春*(たんしゅん・岩下いわした、儒者/詩)　Ｉ２６３４
通亮(つうりょう・河野)　→　*静山*(せいざん・河野/越智、儒者)　Ｉ２４５１
通亮(つうりょう・小野崎)　→　*通亮*(みちすけ・小野崎おのざき、藩士/神道)Ｉ４１２７
通綸(つうりん・赤松/河野)→　*魯斎*(ろさい・河野こうの/赤松、藩儒者/兵学)Ｂ５２５３
通礼(つうれい・河野)　→　*通礼*(みちあや・河野/越智、廷臣/暦算家)Ｂ４１１４
通礼(つうれい・久米)　→　*通礼*(みちひろ・久米くめ、庄屋/国学/歌)　Ｉ４１９２
杖代彦(つえしろひこ・千家)→　*尊之*(たかゆき・千家せんげ、国造/国学/歌)Ｘ２６８２
杖代彦(つえしろひこ・千家)→　*尊孫*(たかひこ・千家せんげ、神職/歌人)　Ｄ２６５３
杖代彦(つえしろひこ・千家)→　*尊澄*(たかずみ・千家せんげ、神職/国学者)　Ｃ２６９２
杖代彦(つえしろひこ・千家)→　*尊福*(たかとみ・千家せんげ、神職/国学者)　Ｍ２６０７
杖竹真直(つえたけまなお)　→　*章美*(ふみよし・大野おおの、国学/歌人)　Ｉ３８０７
G2910　**司**(つかさ・永友ながとも、号;楽水)1799-1880*82*　日向高鍋の都農神社神主、
国学・歌;佐久良(飯島)東雄あずまお門、「永友司日記」著、宗鷹の父
司(つかさ・柴山)　→　*老山*(ろうざん・柴山/菅原/菅、儒/詩)　５２３１
司(つかさ・山田)　→　*明遠*(あきとお・山田やまだ、家老/詩歌)　Ｉ１０６８
G2902　**都賀女**(つがじょ・戸田とだ、戸田直澄女)1785-1843*54*　美濃大垣藩老戸田直安の姉、歌人;富樫広蔭門

2948　**束根**(つかね・高野たかの、屋号:車屋)1780?-1850*71?*　越後長岡の歌人/華道家、
1852「ひとむらすゝき」刊
[束根(;名)の別名/通称]別名;束(たばね)、通称;宇右衛門　、明義の父
[束(;名)の通称]宇右衛門、屋号;車屋

G2935**束稲**(つかね・誉田ほんだ、旧姓名;朝比奈内蔵之進秀直)1847-71早世*25*　遠江佐野郡山口村の生;
事任ことのまま神社祀官/国学者、1868遠州報国隊に参加;戦後幕府刺客に狙われ帰国不能、
江戸に留まり誉田東稲に改名;招魂社(のちの靖国神社)社司/25歳で逝去

都賀の屋(つがのや)　→　*広高*(ひろたか・春枝はるえだ、国学者)　Ｇ３７２０

2949　**津嘉久**(つかひさ・猪飼いかい)?-　?　江中期大阪北久太郎町の歌人、
1735「住吉浅沢和歌」編、1742「大日本二十二社道中記」著

津軽稲丸(つがるのいねまる)　→　*稲丸*(いねまる・井上、俳人)　Ｂ１１８２

通観(つかん、釈)　→　*通観*(つうかん、釈、万葉歌人)　２９２３

G2982 **継顕**(つぎあき・荒木田あらきだ、)?-　?　鎌倉期;神職/歌人;1310刊[柳風抄]入、
[里とほきつてもまぢかくふくる夜のあらしをこゑにうつころもかな](柳風抄;秋95)

次夫(つぎお・木庭)　→　*保久*(やすひさ・木庭きば、神職/敬神党)　Ｆ４５８０

次興(つぎおき;初名・鹿又)→　*次高*(つぎたか・鹿又かのまた、兵法家)　２９５１

G2936 **次傍**(つぎかた・正木まさき、通称;舎人/号;一及斎)1724-99*76*　近江彦根藩老、
歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、正木舎人重駕しげゆき(1649-1724/藩老)と同族

月兼(つきかね・紀)　→　*紀月兼*(きのつきかね、狂歌作者)　Ｓ１６２３

F2969 **槻子**(つきこ・佐々ささ)　1795　-　1867*73*　肥後菊池郡の熊本藩士佐々政寿の妻、
国学/歌人;中島広足門/画;狩野派の幽玉斎門

欟斎(つきさい→つきのや)　→　*正辞*(まさこと・木村/清宮、国学/万葉研究)Ｃ４０５０

2950　**嗣定**(つぎさだ・藤原ふじわら、家名;近衛/藤井、藤原嗣家男)?-?　南北期廷臣;1367左近中将/四位、
1367新玉津島歌合参加、勅撰2首;新拾遺1575/新後拾遺765、
[いかにせんしげるにつけて古の跡ともみえぬ庭の夏草](新拾遺;雑1575)

G2903 **紹実**(つぎざね・富田とみた、氏紹男)1664-1740*77*　陸奥仙台藩士;国老;2千石、国学者、実樹の父、
[紹実(;名)の通称/号]通称;仁左衛門/壱岐、号;適斎

筑地全交(つきじぜんこう)　→　*伝笑*(でんしょう・関亭かんてい、合巻)　Ｄ３０８３

築地善交(つきじぜんこう)　→　*中良*(ちゅうりょう・森島/桂川、蘭学/戯作)２８１９

C2926 **築土**(つきじれん;組連)　?-　?　江戸牛込の川柳の組連、
1787築土連月次例会句集「玉柳」(初世川柳評)刊

月瀬(つきせ→げつらい)　→　*月瀬*(げつらい・森田もりた、医/漢学者)　Ｈ１８４０

槻園(つきぞの)　→　*茂樹*(しげき・高山たかやま、神職/国学)　Ｚ２１３１

槻園(つきぞの・西川)　→　*重威*(しげたか・西川にしかわ、国学)　Ｚ２１６３

2951　**次高**(つぎたか・鹿又かのまた)1721-1802*82*　仙台の北条流兵法家:布施備前定信門、
1794「料理包丁秘伝」、「太鼓之巻」「礼儀之巻」著、堀田正敦の兵法の師
[次高(;名)の初名/通称]初名;次興、通称;喜兵太

2952　**次隆**(つぎたか・山岡やまおか、次豊男)1781-1847*67*　福山藩士;1797供番/98家督継嗣;
広間番兼弘道館読書係、密書大目付/郡・寺社・町奉行歴任/物頭席元締/番頭席、
1845病気解任/47致仕、儒/詩/書/槍術に通ず、
「山岡次隆詩稿」著
[次隆(;名)の字/通称/号]字;士棟、通称;源左衛門(;父の継承)、号;緑雨/(剃髪)機外

G2960 **次孝**(つぎたか・元田もとだ、通称;佐市)1817-63*47*　筑後久留米藩士、国学者;大隈言道門

世忠(つぎただ→よただ・橘)　→　*世忠*(よただ・橘たちばな、廷臣/歌人)　Ｉ４７１５

月亭生瀬(つきていいくせ)　→　*生瀬*(いくせ・月亭、噺家)　Ｄ１１３５

次敏(つぎとし・つぐとし・岡)　→　*天来*(てんらい・岡、藩士/俳人)　Ｅ３０５４

継成(つぎなり→つぐしげ)　→　*継成*(つぐしげ・甘粕あまかす、藩士)　２９７１

継縄(つぎなわ→つぐただ)　→　*継縄*(つぐただ・藤原、右大臣/史書編纂)２９７２

調老人(つきのおきな)　→　*老人*(おきな・調忌寸、詩人)　Ｂ１４０７

2904　**調使首**(つきのおびと、調:氏/首:姓)?-?　名は未詳、伝も不詳、調氏は百済系渡来人、

万葉十三3339-43(長歌と反歌4首:備後神嶋の浜で屍を見ての挽歌/3335-38の異伝歌)、
[家人いへびとの待つらむものをつれもなき荒磯をまきて伏せる君かも](万葉;十三反歌3341)
月の坊(つきのぼう) → *曲川*(きょくせん・山内、商家/俳人) Ｐ１６１６
槐本(つきのもと) → *槐本*(えにすのもと、万葉歌人) １３８１
月の本(つきのもと) → *為山*(いざん・関、俳人) １１８５
月之本(つきのもと) → *眞篝*(ますず・宮本、虎杖庵4世/俳人) Ｊ４００５
月之本(つきのもと) → *慶孝*(よしたか・小野おの/宇治、神職/歌人) Ｌ４７８３
月の屋(つきのや) → *勝良*(かつら・玉木たまき/田巻、問屋/歌) Ｖ１５０６
月舎(つきのや・横山桂子)→ *桂子*(かつらこ・横山/大村、歌人) １５７０
月舎(つきのや・横山由清)→ *由清*(よしきよ・横山よこやま、国学者/歌) Ｄ４７２０
月廼舎(つきのや) → *国臣*(くにおみ・平野、勤王/歌人) １７０６
月廼舎(つきのや) → *眞澄*(ますみ・吉住よしずみ、商家/歌人) Ｔ４０６８
月廼舎(つきのや) → *長裕*(ながかた・小笠原おがさわら、歌/神職) Ｌ３２３６
欟斎(つきのや) → *正辞*(まさこと・木村/清宮、国学/万葉研究) Ｃ４０５０
槻舎(つきのや) → *水雄*(みずお・赤井あかい、神職/国学者) ４１９２
槻廼舎(つきのや) → *信有*(のぶあり・彦部ひこべ、歌人) ３５９５
槻廼舎(つきのや) → *友光*(ともみつ・佐伯さえき、国学) Ｖ３１２６
月の舎桂(つきのやかつら) → *近嶺*(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) Ｂ２８５０
月輪(つきのわ) → *基家*(もといえ・九条/藤原、廷臣/詩歌) Ｃ４４１２
E2979 **月輪秋国**(つきのわのあきくに) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;482
[あひみての心はいつも樽酒のこもかぶるとも何かいとはん]
月輪殿(つきのわどの) → *兼実*(かねざね・九条、摂関/歌) １５２９
月輪中将(つきのわのちゅうじょう)→ *家尹*(いえまさ/いえただ・月輪つきのわ/藤原) １１６２
2953 **継彦**(つぎひこ・松木まつき/久志本/本姓;度会、松木全彦男)1639-1700*62* 久志本常依の養嗣、
1662伊勢外宮九禰宜/86三禰宜/87正四上、「継彦日次」「寛文日次記」著、
[継彦(;名)の初名/通称]初名;著彦、 通称;作之丞/作次郎
2954 **月秀**(つきひで・歌川うたがわ、別号;桂雲斎)?-? 江後期上方の絵師:読本の挿画、
1808「甲賀三郎巌崛語」画
2955 **継人**(つぎひと・阿倍あべ朝臣、継麻呂男;次男)?-? 奈良期廷臣;757従五位下/備前守
主税頭、継麻呂の第二男とすると;736遣新羅使人(父遣新羅大使に同行)、
万葉四期歌人;十五3659(筑紫の館での歌)、
[秋風は日にけに吹きぬ我妹子は何時とか我を斎いはひ待つらむ](万葉集;十五3659)
2956 **継平**(2世つぎひら・藤原ふじわら、通称;与右衛門/近江守)?-? 江前中期1686-1736頃江戸神田の刀匠、
1717「刀剣帖」著
F2927 **次弘**(つぎひろ・石原いしはら、)1842-1876*35* 肥後熊本藩士/のち宇土西岡神社祠官、
国学;林有通[桜園]門;尊攘思想
2957 **嗣房**(つぎふさ・粟田口あわたぐち/家名;藤井、良教男/本姓;藤原)1269-1307*39* 鎌倉期廷臣;1304従三位、
1306左近衛中将/笛;後醍醐天皇の師、歌人:新後撰1400、教経のりつねの兄弟、
[いなぶねものぼりかねたる最上河しばしばかりといつを待ちけむ](新後撰;雑1400)
2958 **次房**(つぎふさ・下平しもだいら、次純男)1662-1733*72* 下平次充の養子、会津藩士;一味流砲術家/歌人、
「一味求離之巻」著、
[次房(;名)の通称/法号] 通称;弥助、 法号;竹林院
次松(つぎまつ・高田) → *松亭*(しょうてい・高田たかだ、藩士/儒者) Ｋ２２９８
E2983 **月丸**(つきまる・田毎たごと)1740 - 1818*79* 狂歌師、
石山月丸と同一? → *石山月丸*(いしやまのつきまる、狂歌;1787「才蔵集」入) Ｉ１１８０
2960 **月丸**(月麿つきまる/つきまろ・谷本たにもと)?-? 江後期文化文政1804-30頃山城伏見の絵師;
読本絵本の挿絵、1806-9「古志路の章」画
月丸(都喜丸つきまる・鴨)→ *北元*(ほくげん・鴨、俳人) Ｄ３９０３
月丸(月麿つきまる/つきまろ・堀)→ *原甫*(げんぽ・堀/小川、書肆) Ｊ１８４７
月丸(つきまる・石山) → *石山月丸*(いしやまのつきまる、狂歌) Ｉ１１８０

2959　月麿(つきまろ・喜多川きたがわ、本名；小川おがわ潤)?-1830?　江戸の絵師：喜多川歌麿門、錦絵/挿画、
馬喰町/小伝馬町住、1801「笑嘉登」02「通人寐言」03「新曲糸の乱」05「朧月安西堤」画、
1809「江之島土産」10「御覧恋曲者」11「戻駕忠義操」13-34「金草鞋」17「化物大福餅」外多数、
[喜多川月麿(;号)の字/通称/別号]字；子達、通称；千助/六三郎、
別号；菊麿/喜久麿、墨亭/観雪斎/遒斎しゅうさい、喜多川式麿・墨川亭雪麿の師
硯亭墨山と同一？　→　*墨山*(ぼくざん・硯亭、遊戯絵)　Ｄ３９２７
月まろ(月丸つきまろ・浅井)→ *政達*(まさみち・浅井あさい/藤原、歌人)　Ｎ４００９
2905　継麻呂(つぎまろ・阿部あべ朝臣)?-737　奈良期廷臣；735従五下、
736遣新羅大使：6月難波出発(第二男も同行)/737帰途対馬で病死、
万葉四期；十五5首；3656/3668/3700/3706/3708
[大君の遠とほの朝廷みかどと思へれど日長くしあれば恋ひにけるかも](万葉；十五3668)
2962　継麻呂(つぎまろ・久米くめ朝臣)?-　?　奈良期地方官；万葉四期歌人、
750越中守家持の布勢水海遊覧に参加：4202、同行の越中掾久米広縄ひろつなの家族か、
[藤波を仮廬かりほに造り浦廻うらみする人とは知らに海人とか見らむ](万葉集；十九4202)
継麻呂第二男(つぎまろだいになん・阿部、万葉歌人)→ *継人*(つぎひと・阿倍)：推定　２９５５
月見庵(つきみあん)　→　*可大*(かだい・栗本くりのもと俳人)　Ｃ１５２９
月見の屋(つきみのや)　→　*大秀*(おおひで・田中たなか、国学者)　１４０６
2963　月守(つきもり・神田かんだ)　?-　?　江中後期江戸の俳人：蓼太門、1787「月守発句草稿」、
1824「月守発句集」、「太郎月」著、
[月守(;号)の通称/別号]通称；造酒右衛門みきえもん、別号；雪音廬/京太郎/海叡下
継之(つぎゆき・今井)　→　*継之*(けいし・今井いまい、歌人)　Ｎ１８４６
良世(つきよ/つぎよ・藤原、冬嗣男)→ *良世*(よしよ・藤原、左大臣/文筆)Ｉ４７０３
月夜庵(つきよあん)　→　*三津人*(みつんど・松井、俳人)　Ｆ４１３１
月良(つきよし・四谷庵,津江)→ *四谷庵月良*(よつやあんつきよし、幕臣/狂歌)Ｉ４７１６
E2982　次賀(つぎよし・早井はやい、通称；巳之助)?-?　江後期仙台和算家：松木清直門、「新暦消長法」、
1846「関流算法首巻」「関流算法無極」、「環円之法」「仙台七十二候」「新暦推算之法」著
2964　月夜房(つきよぼう、名；路方、別号；持前気成)?-?　江後期富山の狂歌作者、1813「狂歌毛毬俵」著
月丸(月麿つきまろ・堀/小川)→　*原甫*(げんぽ・堀/小川、書肆)　Ｊ１８４７
F2999　世華(つぐあき・せいか・竜[龍]たつ・りゅう、公美きんえ[草廬]男)1751-1821*71*　山城紀伊郡の生/儒者；父門、
近江彦根藩儒；父を嗣、1774家督/1799藩校稽古館創設に尽力；学問方、鏡湖きょうこの兄、
武術/博学；群書より稗史小説に及ぶ/書画・歌を能す、息子国彝くにつねが家督嗣、
「明詩材」編、「玉淵詩稿」「画法小識」著、
[世華(;名)の字/通称/号]字；子春、通称；秀松/一郎/衛門、号；**玉淵**ぎょくえん
F2965　次章(つぐあき・黒田くろだ、)1759-1811*53*　出雲能義郡加茂の庄屋、
歌；吉田芳章門/国学・歌；神白こうじろ朝興ともおき門、
[次章(;名)の別名/通称/屋号]別名；昌弘、通称；彦右衛門、屋号；下泉屋
2965　纘明(つぐあき・上田うえだ、宮崎猪兵衛在政男)1769-1853*85*　上田平右衛門清房の養子、萩藩士、
儒・国学：萩明倫館で修学/山口講習堂を創建；子弟教育、「防長風土注進案草稿」著、
[纘明(;名)の字/通称/号]字；恭述、通称；茂右衛門/幾之允、号；鳳陽/濯纓たくえい堂、
法号；無知徳斎貫道義忠
2966　次章(つぐあき・玉置たまき、通称；小平次)?-?　江後期尾張藩士/大和守、
藩主宗睦より尾張の地誌編纂を拝命；藩主没のため未完、1816「源明様美徳録」著
F2959　世粲(つぐあき・木村きむら、)1773-1849*77*　阿波徳島の儒医、国学者、
[世粲(;名)の別名/字/通称/号]初名；正粲、字；尚栄、通称；如平、号；蘭皐/国香/逸人
F2991　世顕(つぐあき・田中たなか、医者の世文つぐふみ男)1774-1841*68*　大坂の医者；啞科医、
[世顕(;名)の字/通称/号]字；子翼、通称；了民、号；二松
F2902　承昭(つぐあきら・津軽つがる、熊本藩主細川斉護4男)1840-1916*77*　母；青木甚之助女、
1857(安政4)弘前藩主津軽順承ゆきつぐの婿養子；順承女の常姫(常子1839-1861)と結婚、
津軽承烈つぐてると改名/後に承昭と改名、従五位下土佐守/のち越中守/1858従四位下/侍従、
1859(安政6)養父隠居；家督継嗣；弘前藩12代藩主(最後の藩主)、洋式軍備の増強、

常子没後後妻;近衛忠熙女の信姫(尹子1848-1900)、1868戊辰戦争で当初は新政府に従う、
のち奥羽越列藩同盟に参加/中央政局の情報を受け官軍に与し箱館戦争などで功績、
新政府より加増、1869年版籍奉還;知藩事/71年廃藩置県で免官、東京へ移住、
第十五国立銀行取締役、歌人、麝香間祇候/伯爵/従一位、
楢麿・津軽行雅室・寛子(徳川義恕室)の父、
[承昭(;名)の別名]寛五郎(幼名)/細川護明(初名)/津軽、

2967 **継枝**(つぐ枝・つぐえ・大主おおぬし、正均女)1782-1837*56* 下村宗武(正均の嗣)の妻、伊勢御家流書家、
子女教育、1830「江洲老蘇村代参其外諸々参宮宮人饗応之控」著

2968 **嗣興**(つぐおき・中西なかにし/幸福、本姓;荒木田、中西興之の長男)1809-78*70* 伊勢宇治常磐町の神職、
代々内宮神官、国学/本草学精通、1823頃外宮神職度会の龍家養子/25正五下;伯耆を称す、
中西家は弟興平が嗣、龍家を離縁/1829(文政12)御師の幸福家を継嗣;若狭に改称、
1868正四上/69通称;衛門を名乗る、万葉動植物の研究、1827「万葉品類鈔」著(1834刊)、
「鱶鰭考」著、
[嗣興(;名)の字/通称/号]字;錫範しゃくはん、通称;伯耆/若狭/衛門、 号;穆如ぼくにょ/夢蝶軒

2969 **継蔭**(つぐかげ・藤原ふじわら、家宗男)?-? 母;山蔭女、廷臣;蔵人・伊勢守/大和守・木工頭、
弘蔭の弟、歌人伊勢の父

2970 **嗣子**(つぐこ・庭田にわた、重能しげよし女)1820-67*48* 歌;有栖川宮幟仁親王門、1834仁孝天皇に出仕、
1836典侍、天皇没後は孝明天皇後宮の女官指導、和宮[静寛院]降嫁時から和宮御付女官;
江戸に随従、1855-61「庭田嗣子日記」/1860-67「静寛院宮御側日記」著、
1866「和宮御服召かへ並御側女着用物控」、「庭田嗣子詠草」「うす地心覚」著、
「年中御盃の心おぼえ」著、
[嗣子(;名)の通称/法号]通称;新典侍/宰相典侍さいしょうのすけ、 法号;清美院、 重基の妹

G2925 **世貞**(つぐさだ・福住ふくずみ、)1687-1765*79* 信濃飯田の商家;飯田藩御仕送り御用達、
国学者;依田正純門/歌人;内海松経・澄月門、
貞陳さだのぶ(?-1759)の父、伊貞これさだ(1722-66)の養父、
[世貞(;名)の通称/号]通称;善六/応作/善左衛門、 号;梅江

嗣定(つぐさだ・藤原) → *嗣定*(つぎさだ・藤原、歌人) ２９５０
紹真(つぐざね・狩野、惟信の弟子)→ *政美*(まさよし・北尾/赤羽、絵師) Ｉ４０６０
土筆翁(しんぺいつくしおう) → *秋圃*(穐圃しゅうほ・斎藤/葵/池上、絵師) Ｉ２１２７

G2980 **嗣成**(つぐしげ・つぐなり・和気わけ、典薬頭和気仲景男)1275-1355*81* 鎌倉南北期;廷臣、
兄弘景を嗣ぎ家督嗣;宮内少輔隼人正/正四下/典薬頭/侍医、出家(法名;見覚)、
歌人;1345小倉実教[藤葉とうよう集]入/1350為世十三回忌和歌参加、
[あふことのまれになり行くよなよなはあだにおもひし夢ぞまたるる](藤葉;恋560)、
[しら露のあだに消えにし秋よりもいとど今年はぬるる袖かな](為世13忌歌;44懐旧)

2971 **継成**(つぐしげ・甘粕/甘糟あまかす、継善男)1832-69*38* 米沢藩士:興譲館で修学/1858興譲館助読、
1862学館典籍、65御記録所頭取、戊辰戦争で越後に出陣;軍務参謀、恭順後変名で謹慎、
1862「鷹山公偉積録」63「日本外史辨誤天正十四年上洛記」著/65「米沢新史目次凡例」編、
[継成(;名)の幼名/字/通称/号/変名]幼名;半蔵、 字;尚絅、 通称;虎之助/備後、
号;酔月楼、 変名;新保勘左衛門、 法号;文徳院

筑紫上人(つくししょうにん) → *弁長*(べんちょう;法諱、浄土僧;鎮西流祖) Ｂ２７３６
築紫娘子(つくしのをとめ) → *児島*(こじま、万三期歌人) １９２９

G2984 **築紫の女**(つくしのをんな) ？－ ？ 平安期;1136清輔[続詞花集]入の女、
[筑紫なりけるをとこ京へ上るとてかどでの所より女のもとに、
のぼるべき心地なんせぬなどいへりける返りごとに 女、
あはれとし思はぬ人は別れじを心は身よりほかのものかは](続詞花;別679)

筑紫町(つくしのまち) → *房子*(ふさこ・高野たかの、女官/日記) Ｃ３８０４
筑紫良阿(つくしのりょうあ) → *良阿*(りょうあ:法諱、時宗僧/連歌師) Ｆ４９９７
筑紫坊(つくしぼう) → *江桟*(こうさん・信国のぶくに/神、刀工/俳人) Ｊ１９０９
筑紫坊(つくしぼう) → *完而*(かんじ・筑紫坊、俳人) Ｑ１５８９
筑紫法眼(つくしほうがん) → *慶算*(きょうさん/けいさん;法諱、天台僧/歌) Ｓ１６０１

F2966 **継高**(つぐたか・黒田くろだ、筑前直方藩主黒田長清長男)1703-75*73*　母;定香院(小笠原長勝女)、
江戸の生/筑前福岡藩6代藩主、1714(正徳4)従兄で宗家の福岡藩主黒田宣政の養嗣子;
1714将軍家継の偏諱;継高に改名、従四下・筑前守;松平姓下賜/侍従/左少将、
1719(享保4)養父隠居;家督継嗣、1720実父没;継高の兄弟なく直方藩は宗家に統合、
吉田栄年まさとし・保年親子を登用;藩政改革、1754別邸友泉亭を建立、
伝統芸能を嗜む;江戸桜田の黒田家上屋敷で能会を催、
正室;圭光院(幸姫/幸子;黒田吉之女)、重政(1737-62)/長経(1742-63)の父、
晩年息子たちが早世;後継者問題に悩む;1769隠居し養子治之(徳川宗尹5男)が家督嗣、
[継高(;名)の幼名/初名/通称]幼名;菊千代、初名;長好、通称;官兵衛/筑前守/図書頭
法号;功崇院
継隆(つぐたか・池上)　→　*休柳*(きゅうりゅう・池上いけがみ、紙業/絵師)Ｍ１６９７
2972 **継縄**(つぐただ・藤原ふじわら朝臣、通称;桃園右大臣、豊成男)727-796*70*　母;路真人虫麻呂女、廷臣;
766参議/771従三位/790右大臣/94正二位/贈従一位、安殿親王(平城天皇)の東宮傅、
長岡京を放棄し794平安遷都を実現、797「続日本紀」菅野眞道らと共編
2973 **次綱**(つぐつな・草川くさかわ、柴山しばやま次忠男)?-?　会津藩士/母草川家の縁故で磐城三春藩士;草川姓、
1651藩主秋田盛季の駿河城加番中に由井正雪の変があった:「正雪実記」執筆、1683用人、
[次綱(;名)の通称]　五左衛門
承烈(つぐてる・津軽)　→　*承昭*(つぐあきら・津軽つがる、藩主/歌)　Ｆ２９０２
次敏(つぐとし・岡)　→　*天来*(てんらい・岡おか、藩士/俳人)　Ｅ３０５４
2974 **嗣長**(つぐなが・丹波たんば、知長男)?-　?　鎌倉南北期医者:正四下典薬頭/施薬院使/中務大輔、
院・内裏の昇殿許可、歌;1366良基邸「年中行事歌合」参加、
「遐年要鈔」撰?(読了識語を誤記か)、
[時しあれば民の草葉をもらさじと恵の露を君やかくらん](年中行事歌合;十六番右32、
賑給;5月に民に米塩を給付)
2975 **継長**(つぐなが・高辻たかつじ、長郷男/本姓;菅原)1414-75*62*　室町期廷臣;1451従三位/66正二位、
1470権大納言、後花園・後土御門天皇侍読/文章博士、1452「享徳度年号勘文」著
F2947 **継業**(つぐなり・岡本おかもと、)1643-1718*76*　近江彦根藩士/歌人、
[継業(;名)の初名/通称/号]初名;正業、通称;亀吉/半右衛門、号;退山
F2967 **継業**(つぐなり・小亀こがめ、法名;是教)1757-1831*75*　近江蒲生郡の国学;明信門
嗣成(つぐなり・和気)　→　*嗣成*(つぐしげ・和気わけ、廷臣/典薬頭/歌)Ｇ２９８０
2976 **従縄**(つぐなわ・石川いしかわ、字;源太夫)?-?　江後期宮城流和算家、神矢教宝の師、
「一刀流三祖伝記」「演段術」「測量町見術」「渾発町見術」著
2977 **継之助**(つぐのすけ・河井かわい、名;秋義、秋紀男)1827-68戦死*42*　母;長谷川氏貞女、越後長岡藩士;
1852江戸遊学・儒;斎藤拙堂・古賀茶渓・佐久間象山門、海外情勢を修学/備中の山田方谷門、
1861帰藩;64郡奉行/66町奉行兼任;藩政改革/68家老、政府軍と戦い長岡城奪還の際;負傷、
紀行「塵壺ちりつぼ」著、
[継之助(;通称)の号]　蒼竜窟/喬松きょうしょう、法号;忠良院
2978 **従徳**(つぐのり・坪池つぼいけ、通称;新内)?-?　江中期天明1781-89頃儒者;詩文が得意、
筑後久留米藩士杉山観斎[正仲]の女婿、「天満宮縁起注解」著、
G2938 **世軌**(つぐのり・松平まつだいら、)1774-1819*46*　江戸幕臣;大坂具足奉行、国学者、
[世軌(;名)の初名/字/通称/号]初名;乗一、字;文度、通称;喜太郎/喜平次、
号;鳳成/曬書楼さいしょろう主人
F2919 **世徳**(つぐのり・伊沢いざわ、)1818-71*54*　陸奥(陸中)盛岡の医者、詩歌人
[世徳(;名)の通称/号]通称;瑞泉、号;南柯/南柯王/槐庵
世徳(つぐのり・堀田)　→　*広居*(こうきょ・堀田ほった、医/儒者)　Ｉ１９３０
2979 **筑波**(つくば・石島/修姓;石、名;芸/正猗、尾見おみ正数男)1708-58*41*　遠江浜松藩士;江戸屋敷の生、
1730致仕脱藩、石川に改姓;浪遊後筑波山麓に隠棲、儒詩:服部南郭門、
1742江戸駒込に芙荷園きかえん経営;子弟教育、「芙荷園きかえん文集」「筑波集」「白石孝女伝」、
「白石復讐記事」「二孝子伝」「道灌丘碑文」「芙荷園諸稿」、「芙荷園遺文」著、

「蘐園けいえん雑話」入、
[筑波(;号)の字/通称/別号]字;子遊/仲緑、通称;左仲/与右衛門、別号;穎川えいせん
筑波(つくば・内藤) → *信起*(のぶおき・内藤ないとう/藤原、神道家) J３５３１
筑波庵(つくばあん) → *翠兄*(すいけい・杉野すぎの、俳人) ２３４４
2980 **筑波子**(つくばこ;号・土岐とき/旧姓;進藤しんどう、名;茂子しげこ/しげいこ)?-? 1761存 幕臣進藤正静の養女、
旗本土岐頼房(新右衛門/頼意?)の妻、夫や子に先立たれる、江戸の歌人:賀茂真淵門、
県門三才女の1(鵜殿余野子うどのよのこ・油谷倭文子ゆやしずこと)、
「筑波子家集」著(;清水浜臣刊/「県門遺稿」第三集所収)、
1758(宝暦8)真淵家宴歌参加(;大平「八十浦の玉」上20入)、
[冬深き水もぬるみてうすらひのとくる心に春ぞくまるる](筑波子家集;春2)
筑波仙橘(つくばせんきつ) → *曲山人*(きょくさんじん、人情本作者) １６４２
2981 **つくばねの峰依**(つくばねのみねより・花沢)?-? 江戸の狂歌師:芝連
次春(つぐはる・伊藤) → *不伝*(ふでん・伊藤、居合術不伝流祖) D３８５１
次春(つぐはる・斎藤/竹尾)→ *善筑*(ぜんちく・竹尾/源/斎藤、浄土僧/故実)G２４３３
更張(つぐはる・梅辻) → *秋漁*(しゅうぎょ・梅辻/琴、神職/儒者) W２１９０
世寿(つぐひさ・秦) → *松洲*(しょうしゅう・秦はた、藩士/儒者) J２２５４
嗣久(つぐひさ・湯口) → *竜淵*(りゅうえん・湯口ゆくち、儒者/教育) D４９００
次秀(つぐひで・土肥) → *延平*(のぶひら・土肥どひ、藩士/歌/武術) J３５２６
Q2993 **継人**(つぐひと・大伴おおとも、左大弁古麻呂男)?-? 奈良後期廷臣;757橘奈良麻呂乱で父処刑、
777(宝亀8)遣唐判官;入唐/778帰国中難破;大使ら40数名と方一丈の舳先につかまる;
肥前西仲嶋に漂着;帰京、779従五下/能登守/90伯耆守/81近江介/783左少弁、竹良の兄弟、
785(延暦4)長岡京で藤原種継を大伴竹良・佐伯高成らと射殺/竹良たけよしらと処刑;斬首、
事件直前に没の大伴家持は首謀者として連座し官籍より除名、のち806赦免;贈正五上、
伴山道・国道の父
継人(つぐひと・阿倍) → *継人*(つぎひと・つぐひと・阿倍朝臣、遣新羅使人) ２９５５
世仁(つぐひと) → *後宇多天皇*(ごうだてんのう、歌人) B１９６５
紹仁(つぐひと) → *後光明天皇*(ごこうみょうてんのう、儒/詩人) C１９５４
2982 **世平**(つぐひら/よひら・武居たけい、名;公徳きみのり)1798-1881*84* 上野高崎の歌人:橘守部門、
高崎藩主大河内輝声の侍講、狂歌;宿屋飯盛(石川雅望)門/高崎水魚連を率いる、
1845私塾菫園を開く、1852「当国名所狂歌合」、60「狂歌三才集」/66「狂歌館の撰葉えりは」編、
1866「当座狂歌館のえり葉」「当座狂歌月次狂歌集」編、息子老平(・土屋)が菫庵2世を継承、
[世平(;号)の通称/別号]通称;善次/善次郎、別号;古調園/菫庵/菫園、蔭好/東雄
世平(つぐひら・高橋) → *壽世*(ひさつぐ・高橋たかはし、幕臣/国学) K３７１１
2983 **嗣広**(つぐひろ・藤井ふじい/本姓;藤原、嗣賢男?)?-? 室町中期近衛家の家司/1495従五上/右近少将、
1501正五下、近衛家月次の連歌会参加/新撰菟玖波集1句入
緝熙(つぐひろ・津軽) → *儼淵*(げんえん・津軽つがる、藩士/儒者) E１８８２
2984 **嗣房**(つぐふさ・万里小路までのこうじ、仲房男/本姓;藤原)1341-98*58* 廷臣;1370参議/83権大納言、
1395従一位/96内大臣;出家(法名:道房)、「改元記」著
嗣房(つぐふさ・粟田口) → *嗣房*(つぎふさ・粟田口、歌人) ２９５７
次房(つぐふさ・高橋) → *種彦*(2世たねひこ・柳亭、高橋次房、戯作者) ２６４４
F2992 **世文**(つぐふみ・田中たなか、)1745-1805*61* 大坂の医者;小児科医、世顕つぐあきの父、
[世文(;名)の字/通称/号]字;忠卿、通称;周安、号;橘斎
継兵衛(つぐへえ・平岡) → *邦勝*(くにかつ・平岡ひらおか/源、藩士/国学)E１７４６
2985 **継政**(つぐまさ・池田いけだ、初名;保教、綱政男)1702-76*75* 母;栄光院、兄の政順早世;1714岡山藩主、
1715将軍家継の字を受け改名/従四下侍従/左少将、歌・画・能を嗜む、百六番能舞台図作成、
「池田継政歌集」「軍令大意」著、1732「池田系図」編、1752-75「継政公日次記」著、
正室;伊達吉村2女の和姫(村子むらこ/心定院/歌人)、宗政・政喬の父、
[継政(;名)の幼名/通称/法号]幼名;峯千代、通称;主税ちから/茂十郎/大炊頭/致仕後;空山、
俳号;雪扇子、法号;保国院
2986 **子正**(つぐまさ/たねまさ・中西なかにし)?-1824 代々剣法一刀流中西派の剣法家、

第3代中西忠太子啓の甥;その養子/養父の門人寺田五郎右衛門宗有より組太刀を習得、
第4代を襲名、江戸下谷練塀小路に道場;浅利義信・高野苗正の師、
「一刀流兵法十二ケ条」/1861「一刀流兵法韜袍起源考」著、忠兵衛子受・浅利義明の父、
[子正(;名)の通称] 是助/忠兵衛

G2943 **受益**(つぐます・三木みき、通称;利平太)1827-1905*79* 讃岐高松藩士、国学者/歌人、
国学・歌;友部方升まさのり・中村尚輔ひさすけ門、養子;寺井政輔

F2915 **次麿**(つぐまろ・滝本たきもと、通称;中務)?-? 江後期;美作勝田郡百久村和気総社の神主、
歌人;1847平賀元義の楯之舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入

継麿(つぐまろ・阿倍) → *継麻呂*(つぎまろ・阿部、遣新羅大使/歌) ２９０５
接伝(つぐみち・臼井) → *接伝*(しょうでん・臼井うすい/平、神職) Ｌ２２１０

2987 **次充**(つぐみつ・成田なりた) ? - 1705 尾張藩士:初め世子徳川綱義[綱誠]の小姓、
1674奥御番、新御番頭/黒御門頭/御側寄合、「秦心院源誠公行状」編、
[次充(;名)の通称] 友之丞/新五左衛門

九十九(つくも・西池) → *成麗*(なりあきら・西池にしいけ、神職) Ｈ３２０６
九十九(つくも・石黒) → *千尋*(ちひろ・石黒いしぐろ、藩士/国学者) Ｆ２８２３
九十九(つくも・舎人) → *重巨*(しげなお・舎人とねり、藩士/本草/華道) Ｒ２１７８
九十九(つくも・加藤) → *重春*(しげはる・加藤/藤原、神道家) Ｓ２１３１
九十九(つくも・樋口) → *垂水*(たるみ・樋口ひぐち、国学者) Ｚ２６１９
九十九庵(つくもあん) → *風之*(ふうし・額田、書肆/俳人) ３８７５
九十九庵(つくもあん) → *文下*(ぶんか・額田、風之男/書肆/俳人) Ｅ３８８６
九十九軒(つくもけん) → *績*(いさお・倉田、儒者) Ｆ１１４７

F2929 **嗣庸**(つぐもち・上野うえの、)1820-1891*72* 筑後久留米の歌人、妻;美津子(むつ/歌人)

G2927 **承基**(つぐもと・藤井ふじい、信厚男)1787-1838*52* 備中倉敷の農商家/信賢の孫、国学者、
1822(文政5)-26(文政9)倉敷村の年寄役;新禄古録の争の正面に立って対決、
妻;浅口郡長尾村の豪農小野櫟翁女(務の妹)/後妻;田中家の女、要雄信行の父、
[承基(;名)の字/通称/号]字;公緒、通称;幸松/茂右衛門/彦七郎/彦十郎、
号;機園/五瓢/可弊泥園、屋号;瀬尾せのお屋

つくも坊(つくもぼう) → *長翠*(ちょうすい・常世田とこよだ、俳人) Ｊ２８０９
九十九坊(つくもぼう) → *碓嶺*(たいれい・仁井田にいだ、俳人) Ｃ２６３６
九十九峰軒(つくもほうけん)→ *春濤*(しゅんとう・森もり、詩人) Ｋ２１３２
九十九洋外史(つくもようがいし)→*豊信*(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌) Ｒ３１１８

2988 **庚妥**(つぐやす・三浦みうら、久之)?- ? 江戸中期謡曲研究,1723「使用謡」1727「音曲玉淵集」

F2983 **紹之**(つぐゆき・島村しまむら、旧姓;神馬)1761-1836*76* 近江神崎郡の商家/歌人;[鳰のうみ]入、
紀孝(のりたか:国学者)の父、
[紹之(;名)の別名/通称/号]別名;義之、通称;荘司、号;九皐亭鶴翁

2989 **嗣良**(つぐよし・高倉たかくら/家名;藪やぶ/本姓;藤原、四辻公遠男)1591-1653*63* 江前期廷臣;
1628従三位、範久の代で中絶の高倉家を再興;1634家名を藪とす/42権大納言/45正二位、
1646神宮伝奏、1647致仕、連歌;1619「元和五年六月新三位嗣良等何人百韻」、
1633「季吉嗣良等百韻」、昌琢玄的らと「仙洞六吟百韻」/昌琢兼与玄的らと「七吟百韻」、
[嗣良(;名)の一字名] 司/良

2990 **次芳**(つぐよし・永井ながい、高野丹山男)1722-64*43* 佐渡の人/永井仲雄の養嗣子、1735佐渡奉行配下、
1736諸帳面改役/諸帳面手形改役/御目附役、1758佐渡銀山方役人奉行支配/64致仕、
俳諧;養父門/美濃派廬元坊と交流、郷土史家、「佐渡風土記」「佐渡略年代記」著、
[次芳(;名)の通称/号]通称;半十郎/四郎兵衛、号;鳳波/和調/歌古園、法号;諦雄院

F2985 **次義**(つぐよし・杉野すぎの、通称;喜伝次)?-? 江中期;讃岐高松藩士、儒者/歌人、
儒・国学・歌;友安ともやす三冬みふゆ(1788-62)門、

F2914 **次義**(つぐよし・滝本たきもと、通称;嘉作)?-? 江後期;美作吉野郡広井郷田殿村の歌人、
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入

F2920 **世美**(つぐよし・伊沢いざわ、通称;養泉/養順)?-1854 陸奥(陸中)盛岡の医者;南部藩奥詰医師、
国学・歌;漆戸茂喬しげたか門

次良(つぐよし・伊勢村)　→　*次良*(じりょう/つぐよし・伊勢村いせむら、俳人)Ｅ２２９１
次美(次良つぐよし・山崎)→　*宗円*(そうえん・山崎/源、幕府鍼医)　Ｇ２５３２
次美(つぐよし・加藤)　→　*梁守*(やなもり・加藤かとう/藤原、神職)　Ｆ４５７０
嗣頼(つぐより・三木)　→　*良頼*(よしより・三木みつき/姉小路、武将)　Ｉ４７０４
世仍(つぐより・森)　→　*世仍*(せじょう・森もり、歌人)　Ｑ２４６５
津五郎(つごろう/しんごろう・長)→　*連起*(つらおき・長ちょう、藩士)　Ｅ２９３９
辻(つじ・芝崎)　→　*直子*(なおこ・芝崎しばざき/荷田、国学/歌)Ｎ３２３２
辻言(つじとき・児島)　→　*清文*(きよふみ・児島こじま、絵師/国学)　Ｕ１６３４
辻之助(つじのすけ・松木)　→　*卓彦*(つねひこ・松木まつき/度会、神職)　Ｄ２９３１

2906　**対馬**(津島つしま・巨曾倍こそべの朝臣)?-?　万葉四期歌人/奈良期廷臣;730大和介/正六上、
732;8月山陰道節度使の判官;外従五下、738長門守、万葉1024/1576、
[この岳をかに雄鹿をしか踏み起おこしうかねらひかもかもすらく君ゆゑにこそ]、
(万葉集;八1576/橘諸兄家の宴の歌)

対馬(つしま・松木)　→　*品彦*(ただひこ・松木/度会、神職)　Ｑ２６５５
対馬(つしま・大友)　→　*吉言*(よしとき・大友、神職/国学/医者)　Ｅ４７８８
対馬(つしま・岡本)　→　*寿麿*(ひさまろ・岡本おかもと、神職/歌人)　Ｌ３７８９
対馬(つしま・松岡)　→　*重旧*(重布留しげふる・松岡まつおか、神職/歌)Ｎ２１１０
対馬(つしま・安田)　→　*是誰*(ぜすい・安田やすだ、鍛冶職/茶人)　Ｏ２４５４
対馬(つしま・宇津木)　→　*泰交*(やすとも・宇津木うつき、家老/歌)　Ｆ４５３６
対馬(つしま・佐々木)　→　*年麿*(としまろ・佐々木ささき/小山、神職)　Ｖ３１２８
対馬守(つしまのかみ・瓦林)→*正頼*(政頼まさより・瓦林・河原林/平、武将/連歌)Ｉ４０８０
対馬守(つしまのかみ・森川)→　*章尹*(あきただ・森川/森河、神職/歌人)　１０７１
対馬守(つしまのかみ・安藤)→　*信睦*(のぶゆき・安藤、藩主/老中)　Ｄ３５７６
対馬守(つしまのかみ・吉見)→　*盛種*(もりたね・吉見きよしみ、神職/和学者)Ｌ４４９０
対馬守(つしまのかみ・阿部)→　*正精*(まさきよ・阿部あべ、藩主/書画/歌)　Ｌ４０５９
対馬守(つしまのかみ・阿部)→　*正寧*(まさやす・阿部あべ、藩主/歌)　Ｌ４０９６
対馬守(つしまのかみ・柴田)→　*興宣*(おきのぶ・柴田/高宮、神職)　Ｃ１４９３
対馬守(つしまのかみ・水野)→　*忠啓*(ただあき・水野みずの、藩主/歌)　Ｕ２６１８
対馬守(つしまのかみ・松平)→　*近禎*(ちかよし・松平まつだいら、藩主/歌人)　Ｎ２８８４
対馬守(つしまのかみ・長野)→　*祐良*(すけよし・長野ながの/藤原/蒔田、官人/歌)Ｉ２３９４
対馬守(つしまのかみ・長野)→　*祐享*(すけあき・長野ながの、官人/国学)　Ｉ２３９３
対馬守(つしまのかみ・相良)→　*頼徳*(よりのり・相良さがら、藩主/狂歌)　Ｊ４７４６
対馬守(つしまのかみ・大給)→　*近陳*(ちかのぶ・大給だいぎゅう/松平、藩主)　Ｍ２８１８
対馬守(つしまのかみ・矢崎)→　*好貫*(よしつら・矢崎やざき、神職/国学)　Ｐ４７７０
対馬守(つしまのかみ・松平)→　*近韶*(ちかつぐ・松平まつだいら、幕臣/歌)　Ｌ２８６６
対馬守(つしまのかみ・川村)→　*修就*(ながたか・川村かわむら、幕臣/奉行/歌)Ｆ３２０７
対馬守(つしまのかみ・奥)　→　*並継*(なみつぐ・奥おく/漆島/藤波、神職/勤王/官僚)Ｌ３２５２
対馬法眼(つしまほうげん)　→　*長海*(ちょうかい、真言醍醐寺僧/連歌)　Ｈ２８５９
豆洲(づしゅう・村瀬)　→　*立斎*(りっさい・村瀬むらせ、医者/詩)　Ｂ４９９４

2908　**津多**(つた・木沢きざわ、鎮西和泉守清凭きよてる女)1802-36*35*　母;銀ぎん(歌人)、
信濃伊那郡鎮西野村の歌人;両親門、父は大山田神社祠官(代々)、
福住清風門、栗矢村の原官兵衛の妻/離婚、のち伊那飯田の医者木沢松渓(尚貞)の妻;
1835夫没後鎮西野に帰郷、「津多紅葉」著、鎮西ちんぜい清宣の妹

つた(・相沢)　→　*升子*(ますこ・西にし/相沢/石川、歌人)　Ｒ４０３５
伝(つたう・新渡戸)　→　*伝*(つとう・新渡戸、藩士、日記)　２９９６
伝(蔦生/蘿生つたう・星野)→久*樹*(ひさき・星野ほしの/藤原、藩士/歌人)Ｉ３７７６
蔦垣内(つたのかきつ)　→　*寛光*(ひろみつ・片岡/所、名主/国学/歌)Ｈ３７４１

2907　**蔦子**(つたこ・荒川あらかわ/日高ひだか、医者荒川貞利女)1815-71*57*　日向高鍋藩儒日高耳水の妻、
夫は1847大阪で客死:墓詣のため1867.1月24日大阪紀行「此花日記」著、
日向の三大おんな旅日記の1(他は佐土原藩島津随眞院・延岡藩内藤充眞院)、

［蔦子（;名）の別名］初名;嘉留、別名;好/好子/織葉、
夫　→　*耳水*（じすい・日高、儒者）　Ｔ２１９７
蔦重（つたじゅう:略称）　→　*重三郎*（じゅうざぶろう・蔦屋、地本問屋）　２１４２
蘿園（つたぞの）　→　*吉言*（よしとき・大友、神職/国学/医者）　Ｅ４７８８
蔦園（つたぞの）　→　*直哉*（なおちか・荒賀/重田、国学）　Ｋ３２８６
葛根（つたね・高須）　→　*葛根*（つなね・高須、歌人）　Ｂ２９１８
蔦垣内（つたのかきつ）　→　*寛光*（ひろみつ・片岡、国学/歌人）　Ｈ３７４１
蔦唐丸（つたのからまる）　→　*重三郎*（じゅうざぶろう・蔦屋/書肆/狂歌）　２１４２
蔦唐丸（つたのからまる/4世蔦屋重三郎）→*春馬*（2世しゅんば・三亭、書肆/合巻/狂歌）Ｌ２１７５
蔦の本（つたのもと）　→　*道彦*（みちひこ・鈴木/村上、医者/俳人）　４１１５
蔦の本（つたのもと）　→　*谷峨*（2世こくが・梅暮里うめぼり、戯作/音曲）Ｃ１９３５
絡石舎（蔦之軒つたのや）　→　*伴雄*（ともお・長沢、藩士/故実/国学/歌）Ｐ３１２３
蔦の舎（つたのや）　→　*葛野*（かどの・千葉、国学/歌人）　１５７１
絡石廼家（蔦の屋つたのや）→　*磐根*（いわね・阿部・阿閉あべ、国学者）　Ｉ１１４３
蔦廼屋（つたのや）　→　*秋足*（あきたり・野村のむら、藩士/国学）　Ｄ１０５０
蔦廼屋（つたのや）　→　*正秋*（まさあき・臼田うすだ/鷲見、国学者）　Ｎ４０９６
蔦廼屋（つたのや）　→　*保綱*（やすつな・林はやし、酒造業/歌人）　Ｇ４５４５
都多之舎（蔦舎つたのや）　→　*御楯*（みたて・川辺かわべ/古賀、藩士/絵師）Ｉ４１７２
蔦舎（つたのや）　→　*万和*（まんわ、俳人）　Ｋ４０８８
蔦舎（つたのや）　→　*教邦*（のりくに・岡村おかむら、藩士/国学）　Ｈ３５０６
蔦屋（つたのや）　→　*穂国*（ほくに・沢田さわだ/千葉、藩士/神職/歌）Ｇ３９２４

2991　**津太夫**（つだゆう）　1744 －　?1804以降没（*61歳以上*）　陸前宮城郡寒風沢さぶさわ浜の水主、
1793水主仲間15人と江戸用材を積み石巻出航;大風のため漂流;ロシア領に漂着、
1803ロシア皇帝に謁見/帰国希望の儀兵衛・佐平・太十郎と使節レザノフに伴われ04長崎帰着、
日本人初の世界一周者となる、大槻玄沢の聞書;1804「魯斎亞視帰話」07「環海異聞」玄沢編
土右衛門（つちえもん・丸山）→　*吉一*（よしかず・丸山まるやま、藩士/歌人）　Ｐ４７２７

F2981　**土夫**（つちお・島崎しまざき、）？－　？　江後期越前福井藩士、国学・歌人;橘曙覧（1812-68）門、
［土夫（;名）の号］十握/蚯蚓きゅういん/半田はんでん
槌吉（つちきち・中島）　→　*修省*（ながみ・中島なかじま、藩士/国学者）　Ｏ３２０５
塊老（つちくれのおじ）　→　*広蔭*（ひろかげ・富樫/井手、商家/国学）　３７１４

F2925　**土子**（槌子つちこ・古谷ふるや、）?-1865 *70余歳*　播磨明石の歌人;入江珍うず門、
国学・歌;大坂の黒沢翁満門/さらに大国隆正門、大坂住、石川季遠すえとおの師
槌五郎（つちごろう・中小路）→　*宗芳*（むねよし・中小路なかこうじ/菅原、神職/歌）Ｅ４２０８

2992　**槌太郎**（つちたろう;通称・藤重ふじしげ、名;弘道）?-?　江後期中島流砲術家;浅羽政正門、
谷藤太郎に伝授、1844「中嶋流砲術書」著

2993　**土成**（つちなり・大根おおね、姓;福智/福知/福地/銭、名;郁春）?-?　江後期京二条堺町の絵師、
:円山応挙・八田古秀門、山水・彩色画が得意、狂歌/戯作を執筆、1799「戯男伊勢物語」、
1805「古今馬歌集」06「穴賢心の外」画/08「頓知早席画譜」11「三都の絵咄」/14「六々狂歌」画、
1827滑稽「有馬紀行」31「誰が袖物語」36「狂歌鯉鱗画譜」、「絵本誰袖譚」「狂歌画賛集」外多、
［大根土成（;狂歌号）の字/通称/別号］字;士文、通称;長蔵、別号;白瑛（;画号）/桂中楼
葛飾白瑛・遊数里夜行と同一説あり、
遊数里夜行と同一?　→　*数里夜行*（ゆすりよるゆき、洒落本作者）Ｇ４６０４
槌之助（つちのすけ・後藤）　→　*利哉*（としや・後藤、藩士/国学/歌）　Ｎ３１９６
槌之介（つちのすけ・宗）　→　*義暢*（よしなが・よしのぶ・宗そう、藩主）　Ｎ４７６２

G2924　**地栄**（つちひで・福島ふくしま、秋郷あきさと［?-1845］男）?-1865　信濃伊那郡の商家;飯田藩御用達、
国学・歌人;森広主門、
［地栄（;名）の通称/号］通称;東五郎/謹吉/金左衛門、号;桂樹/金鶩
土麻呂（つちまろ）　→　*土麻呂*（ひじまろ・山田、万葉集中人物;左注入）Ｃ３７３４
土満（つちまろ）　→　*土満*（ひじまろ・栗田、神職/国学/歌人）　３７０７
土御門（つちみかど）　→　*顕信*（あきのぶ・北畠、南朝廷臣/歌人）　Ｄ１０７１

土御門院小宰相(つちみかどいんのこさいしょう)→*小宰相*(こさいしょう、歌人)　Ｃ１９５８
2909　**土御門天皇**(つちみかどてんのう、後鳥羽天皇皇子)1195-1231*37*　母;承明門院在子(法印能円女)、
1198即位/1210譲位/1221承久乱後自ら土佐配流:阿波で崩、歌人、1216「土御門院御百首」、
「土御門院御集」「両帝百首御製」、万代・和漢兼作・秋風・雲葉(20首)・閑月・拾遺風体集入、
勅撰148首;続後撰(26首18/29/32/40/以下)続古(38首)続拾遺(16首)新後撰(9首)以下、
[雪のうちに春はありともつげなくにまづしるものは鶯の声](続後撰;春18/百首歌)
[土御門天皇の名/通称/法名]名;為仁、通称;(譲位後)土佐院/阿波院、法名;行源ぎょうげん
土御門右大臣(つちみかどのうだいじん/-のみぎのおおいもうちぎみ)→ *師房*(もろふさ・源)Ｈ４４８６
土御門右大臣女(つちみかどのうだいじんのむすめ)→ *師房女*(もろふさのむすめ・源)　Ｈ４４８８
土御門大臣(つちみかどのおとど)→ *恒佐*(つねすけ・藤原、右大臣/歌人)　Ｃ２９２７
土御門前斎院中将(つちみかどのさきのさいいんのちゅうじょう)→ *中将*(ちゅうじょう・女房歌人)Ｇ２８３９
土御門帥(つちみかどのそち)　→　*経通*(つねみち・藤原、歌人)　Ｄ２９８３
土御門大納言(つちみかどのだいなごん)→　*通方*(みちかた・中院なかのいん/源、故実/歌)Ｂ４１３３
土御門中納言(つちみかどのちゅうなごん)→　*朝忠*(あさただ・藤原、歌人)　１０１５
土御門内大臣(つちみかどのないだいじん)→　*通親*(みちちか・土御門/源、歌人)４１０８
土御門入道前右大臣(つちみかどのにゅうどうさきのうだいじん)→ *頭信*(あきのぶ・北畠、廷臣/歌)Ｄ１０７１
土御門御匣(つちみかどのみくしげ)→*御匣*(みくしげ・土御門つちみかど、女房歌人)４１７５
土御門宮(つちみかどのみや)　→　*久良親王*(ひさよししんのう、歌人)　Ｃ３７２２
土持(つちもち・荒木田)　→　*荒木田土持*(あらきだつちもち、狂歌)　Ｇ１０３１
つゝ(・森本)　→　*都々子*(つつこ・森本もりもと/川上、国学/歌)Ｆ２９６３
2994　纘(つづき・佐久間さくま、杢之丞質男)1819-96*78*　磐城田村郡石森村出身/母;佐久間包造女のハル、
1834兄夭逝により家督、名字帯刀御免;三春藩士;給地三石の在郷給人となる、
和算家;父門/会田安明・渡辺一門;最上流和算を修得、測量術;1846高橋吉右衛門の門、
1868三春藩地図取調方に任命される、76庸軒義塾を開く;門弟指導、1849「算法算学起源」編、
1854「当用算法」56「算法単式術」、58「算法指南」編、「算法天生法初学容題集」「天元術定則」著、
[纘(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;典九郎、字;正述、通称;二郎太郎、号;庸軒、法号;庸皐院
D2947　嗣(つづく・源みなもと;嵯峨源氏、別名;副、融とおる[822-895]男)?-?　平安前期廷臣;右近衛権少将、
898宇多上皇の片野等遊猟参/左近少将/907仁和寺の宇多法皇の言を醍醐天皇に復命、
911兵部大輔/従四下、添・運の父、本朝文粋;紀長谷雄「亭子院に飲を賜ふ記」に記事入
E2970　**続松ひで近**(つづきまつひでちか)?-　?　狂歌;1785「後万載集」入;
[のまほしと思へど酒もなき跡はしるしの杉の樽ばかりなり]
2995　**続家**(つづきや)　?-　?　連歌;1476「表佐ひょうさ/おさ千句[十花千句]」参加
F2963　**都々子**(つつこ・森本もりもと、川上助九郎女)1789-1857　遠江浜松の豪商の家の生、歌:内山眞竜門、
信濃飯田島田村の酒造業で豪農の森本眞弓(1788-1854)の妻、
夫と共に真竜・高林方朗・服部菅雄に国学・歌を修学、川上三郎兵衛(眞弓妹笑の夫)の姉
「夢路日記」「諏方日記」著、遺著「都々子和歌集」、
[都々子(;名)の別名]　みき・つゝ・徒津子つつこ・廿
夫　→　*眞弓*(まゆみ・森本もりもと、商家/歌人)　Ｐ４０３５
☆森本家の略系図→　*眞弓*(まゆみ・森本もりもと、商家/歌人)　Ｐ４０３５
都翁(つつじ・安井)　→　*春海*(しゅんかい・渋川/保井/安井、天文家)Ｊ２１３２
躑躅園(つつじのその)　→　*元徳*(もとのり・毛利/大江、藩主/歌人)　Ｄ４４８６
躑躅園(つつじのその)　→　*安彦*(やすひこ・朝見あさみ、神職/国学)　Ｆ４５１５
躑躅の舎(つつじのや)　→　*寛*(ひろし・中村なかむら、酒造業/国学)　Ｋ３７３８
堤中納言(つつみちゅうなごん)→　*兼輔*(かねすけ・藤原、廷臣/歌人)　１５３０
堤中納言御息所(つつみちゅうなごんのみやす[ん]どころ)→ *桑子*(そうし・藤原、兼輔女)Ｈ２５５３
2996　**伝**(つとう・新渡戸にとべ、名;太素/常燈、維民これたみ男)1793-1871*79*　盛岡藩士;同国花巻の人、
1820父配流;家計援助のため商人として働く、父赦免後1837再仕官/勘定奉行/惣山御用掛、
松前及海軍防禦用掛金庫掛/1855より三本木原の開拓;59上水工事完成し致仕;
以後三本木産業育成に尽力、1868目附兼郡奉行として野辺地赴任/69七戸藩家老・大参事、
「太素日記」「太素漫筆」著、十次郎の父/稲造の祖父、

[伝(;通称)の字/別通称/号]字;浣郷、別通称;縫太/次郎八郎、号;太素、一時;安野屋素六

2998 務(つとむ・小野おの、櫟翁れきおう男)1788-1859*72* 代々備中浅口郡長尾村の豪農/丹波亀山藩御用達、
藩勘定方、藩政改革に参画、詩人;頼山陽/菅茶山門、
歌人:木下幸文・香川景樹門、加納諸平らと交流、佳か(歌人/夭折)の兄、
1828「柿園集」「柿園太郎百首」、「柿園拾葉」「柿園随筆」「詠史和歌百首」「詠史百五十首」、
「貧窮百首」「多仁佐久」/1832「浄瑠璃百首」著、「小野務歌集」(;小野久彦編)、
[務(;名)の字/通称/号]字;孝卿/伯本、通称;本太郎、
号;柿園かきぞの/蘇庵/古甕こおう/改堂/同禹子/即山人/七三居士/六不知庵/坡南荘/移山亭、
知らずのや、法号;守成院、 叔父;樗山、妻愛子も歌人

妻	→	*愛子*(あいこ、小野、歌人)	Ｃ１０４４
叔父	→	*招月*(しょうげつ・小野樗山、詩歌)	Ｍ２１２４

2999 懋(つとむ・池尻いけじり、井上鴨脚おうきゃく男)1840-64自害*25* 叔父池尻始はじめの養子、筑後久留米藩士、
1862父と上京、勤王志士と交流/1863帰藩;尊王派拡大に努力;失敗し脱藩、
1864禁門変で敗退;天王山で自害(真木和泉らと)、「池尻懋建白書」著、
[懋(;名)の字/通称/変名] 字;伯懋はくぼう、通称;茂四郎、変名;北島務きたじまつとむ

F2926 務(つとむ・石黒いしぐろ、伝右衛門男)1840-1906*67* 近江彦根藩士;生後7ヵ月で父没;家督継嗣、
1862(文久2)内目付/63生麦事件で横浜警備/和泉堺裏の警備/64藩主に随い伏見警備、
京の留守居役;第二次長州征討に従軍/1867評定加役/物頭次席、戊辰戦争に従軍;
岩倉具定の指揮下に関東・奥羽に転戦/会津城籠城戦に参加、維新後;務と改名、
1868議行局二等執事兼議長権少参事・権大参事を歴任/1871彦根県権大参事、諸県参事、
1880内務官僚;少書記官/81福井県令/86福井県知事;殖産/教育振興・土木事業に尽力、
1889辞職、歌人、
[務(;名)の通称/号]通称;綱次郎/伝右衛門(父より継嗣)、号;湖東小史

懋(つとむ・若林)	→	*嘉陵*(かりょう・若林わかばやし、儒者)	Ｈ１５５６
務(つとむ・北島)	→	*懋*(つとむ・池尻/井上、藩士/尊王家)	２９９９
務(つとむ・倉田)	→	*幽谷*(ゆうこく・倉田/立見、儒者)	Ｂ４６６４
努(つとむ・近藤)	→	*幸止*(さちもと・近藤こんどう、官僚/国学)	Ｏ２０４７
勉(つとむ・立野)	→	*寛*(ひろし・立野たての、藩士/儒者)	Ｆ３７９２
勉(つとむ・木暮)	→	*松麓*(しょうろく・木暮こぐれ、儒者/詩人)	Ｍ２２１１
勉(つとむ・神波)	→	*船樹*(せんじゅ、神波かんなみ、医者)	Ｍ２４４３
勤(つとむ・建部/杉田)	→	*伯元*(はくげん・杉田、蘭医者)	Ｄ３６０２
勗(つとむ・丹羽)	→	*盤桓*(ばんかん・丹羽にわ、藩士/書家)	Ｈ３６３４
孜(つとむ・内海)	→	*釣経*(ちょうけい・内海うつみ、藩儒者)	Ｈ２８９９

E2985 綱(つな・渡辺わたなべ) 953 - 1025*73* 平安中期の武人;摂津渡辺住;源頼光四天王の1、
洛北市原野の鬼同丸や大江山の酒呑童子を征伐、羅生門の鬼を退治などの伝説

F2953 綱(つな・梶かじ、綱女つなじょ/法名;静心尼)1763-1826*64* 尾張名古屋藩士梶久太郎の妹、
国学者;本居宣長・春庭門

綱(つな・増田)	→	*綱*(こう・増田半蔵、儒者)	Ｈ１９１２
つな(・野呂瀬)	→	*暁月*(ぎょうげつ・野呂瀬のろせ、国学/歌)	Ｂ１６１０
綱煥(つなあき・松下)	→	*鳩台*(きゅうだい・松下まつした、儒/国学)	Ｍ１６７９

B2900 綱晟(つなあきら・浅野あさの、藩主光晟男)1637-73*37* 安藝広島藩主/1672襲封、従四下侍従/弾正大弼、
「綱晟公詠草」著
[綱晟(;名)の幼名/法号]幼名;岩松、法号;天心院

B2901 綱家(つないえ・姓不詳) ? - ? 連歌;1588「了意千句」入(;[山何追加]参加)

B2902 綱条(つなえだ・徳川とくがわ、讃岐高松藩主松平頼重男/本姓;源)1655-1718*64* 母;土井利勝女、
1671徳川光圀の養子;90水戸藩三代藩主、従三位/権中納言、1706光圀「常山詠草」編、
1712光圀「舜水先生文集」前序、18光圀「常山文集」編纂、歌集「鳳山詠藻」、「鳳山文稿」著、
[綱条(;名)の幼名/字/号]幼名;采女、字;九成ひさしげ、号;鳳山、 諡号;粛公

B2903 綱条(つなえだ・朽木くつき/本姓;源、倫綱男)1801-36*36* 叔父綱方の養嗣子/丹波福知山藩主;
1820遺領相続、28奏者番、儒:佐藤一斎門、学問の奨励;

佐藤一斎に「惇明館記」を作成させ講堂に掲げ家臣に従学させた、
一斎著の「言志録」を上梓、「浴恩園記」「宝鑑公詩集」著(宝鑑院は綱条の法号)、
[綱条(;名)の通称/号]通称;鉄五郎、 号;格斎/正庵、法号;宝鑑院

B2904 **綱雄**(つなお・岩崎いわさき、英通男)1788-1866*79* 陸前(陸前)栗原郡北宮沢(清滝)村の里正、
国学者;沖安海門、「栗原旧地考」(同郷の金田智義と共著)、
1826「栗原村名辨」「桑原郡村名辨」/54「陸奥軍団旧地考」著、
「廃置沿革諸郡考」「玉造郡旧地考」著
[綱雄(;名)の別名/通称/号]別名;智道、通称;正之丞/庄之丞、
号;桜戸の清蔭/巌の鄙麻呂/章流/樺翁/桜翁

G2939 **綱国**(つなくに・松平まつだいら、氷見長頼の長男)1662-1735*74* 母;立幸院(大木七郎兵衛女)、
越後高田に生(父は藩主松平光長の異母弟)、1667(寛文7)父没;家督継嗣、
1674(延宝2)藩主光長の嫡子綱賢が没;急遽家老小栗らの評定で万徳丸が世嗣/元服;
従四上侍従兼三河守;松平三河守綱国を名乗る、
以後筆頭家老小栗と叔父氷見大蔵ら重臣との対立激化;越後騒動に発展;
1681(延宝9)幕府により藩主光長の処罰;高田藩領地の召上:改易;美作津山に転封、
世嗣綱国は西久保天徳寺に退去;福山藩主水野家にお預け;福山住/1687赦免、
光長と不仲になり1693(元禄6)病弱を理由に廃嫡される、
1707光長没/1708(宝永5)出家;更山と号す、和学者、1735(享保20)没、
[綱国(;名)の通称/号]通称;万徳丸(幼名)/三河守、 号;更山/法号;更山院

E2987 **つな子**(つなこ・岡本おかもと)? - ? 江中期;幕臣岡本五郎左衛門(小十人)の妻、
歌;1798刊石野広通「霞関集」入、
[ぬるるとも手折りてゆかん山川の岸根の浪の花の白菊](霞関;秋538/水岸菊)

B2905 **綱子**(つなこ・中山なかやま、正親町三条実同女)?-? 中山忠頼ただより(1778-1825)の妻、
柳原安子の姉妹、忠能ただやす(1809-88)の母、明治天皇生母の典侍中山慶子の祖母、
薙髪:真光院、1852明治天皇誕生時に産事に参加;以後1856まで傅育、
1852-56「祐宮様御側日記」著
[露の上の月のみ独りすみぬらむ尾花が末の秋の夜なよな](寂光院の歌碑)

繋子(つなこ・鷹司) → *新皇嘉門院*(しんこうかもんいん、仁孝天皇女御)Ｏ２２３５
韶子(つなこ・有馬、精宮あきのみや)→ *韶子*(あきこ・有馬、歌) Ｄ１０３４
綱五郎(つなごろう・土岐) → *朝昌*(ともまさ・土岐とき、幕臣/奉行) Ｔ３１８１
綱五郎(つなごろう・玉井) → *信海*(しんかい;法諱、僧/国学/尊攘) Ｖ２２０３

B2906 **綱貞**(つなさだ・朽木くつき/本姓;源、朽木迪綱みちつな長男)1713-88*76* 父早世;1723伯父朽木稙治の継嗣、
1727(享保12)病弱ゆえに廃嫡/稙治は別の甥玄綱とおつなを養嗣子とす;家臣団の一部が反発、
綱貞を擁立し家督紛争;1743(寛保3)玄綱は病気理由に綱貞を養嗣子とす、
1770(明和7)玄綱没により家督嗣;丹波福知山藩6代藩主、出羽守/大炊頭/従五下、
1775(安永4)大坂加番/1780致仕隠居;養子舗綱(玄綱の実子)が家督嗣、
正室なし/側室;お類(光清院)、昌綱の父/舗綱の養父、
歌人/書;定家流/画:狩野栄川門/遠州流茶;木下梅渓門、風流文雅の才人、「学古帖」著、
歌「綱貞公御自詠」「詠草扣」著、
[綱貞(;名)の幼名//号]幼名;万五郎/内記、 通称;出羽守/大炊頭おおいのかみ
号;(致仕後;)寂了庵星橋、 法号;寂了院

綱定(つなさだ・二神) → *永世*(ながよ・二神ふたがみ、商家/歌人) Ｏ３２６１
綱敷(つなしき・横田) → *綱敷*(つなのぶ・横田よこた、商家/史家) Ｂ２９０７

B2908 **綱茂**(つなしげ・鍋島なべしま、光茂男)1652-1706*55* 肥前佐賀藩主;1695襲封/信濃守・侍従、儒者、
将軍綱吉の前で経書講義、「観頤荘記」著、
[綱茂(;名)の幼名/法号]幼名;彦法師丸、 法号;玄梁院

F2937 **綱重**(つなしげ・小幡おばた、)1812-1887*76* 伊予宇和郡深浦東外海村の大庄屋、国学者、
「岩垣集」編刊、
[綱重(;名)の通称/号]通称;市右衛門、 号;如水

B2979 **綱島組**(つなしまぐみ;組連) ? - ? 江中期武蔵綱島(現横浜港北区)の雑俳の組連、

取次;1749「菊丈評万句合」、
取次例;[云ひ消せばいとゞ燃え立つ嫉妬の火](前句;めつたやたらに々々)
綱女(つなじょ・梶)　→　*綱*(つな・梶かじ、静心尼、国学者)　Ｆ２９５３
綱次郎(つなじろう・井面)　→　*守雅*(もりつね・井面いのも/荒木田、神職/国学)Ｆ４４８２
綱次郎(つなじろう・石黒)　→　*務*(つとむ・石黒いしぐろ、藩士/知事/歌)　Ｆ２９２６
綱二郎(つなじろう・山田)　→　*慥斎*(ぞうさい・山田やまだ、儒者)　Ｂ２５５７
B2909 **綱隆**(つなたか・松平まつだいら、直政男)1631-75*45*　母;松平忠良女久姫、出雲松江二代藩主;1666襲封、
重臣香西隆清を追放・大水害などで藩内の混乱;財政悪化し人心の離反、
1673家臣小野隆俊の美貌の妻に横恋慕し隆俊を配流;死/75急死;隆俊の怨霊説が流布、
歌;私撰集「山下水」編、綱近つなちか(二代藩主)の父
B2910 **綱貴**(つなたか・島津しまづ/賜姓;松平、別名;延久、島津綱久男)1650-1704*55*　薩摩藩主;1687襲封、
従四上/薩摩守、火災・噴火・幕命の支出等財政悪化;家老禰寝ねじめ清雄の努力で財政再建、
櫨栽培・茶樹改良促進、1702「島津綱貴教訓」著、
[綱貴(;名)の幼名/通称/法号]幼名;虎寿丸、通称;又三郎、法号;大玄院
B2911 **綱忠**(つなただ・草川くさかわ、次綱つぐつな男)1679-1749*71*　磐城三春藩士;家督/1707大目付/物頭/32致仕、
致仕後家塾を開き子弟教育:教本「講釈草川状」著、能書;千字文・かな文字は藩の習字本、
「神仏雑記録」、嗣;次男五左衛門次房、月海元昭の従兄、
[綱忠(;名)の通称/号]通称;仙之助/太郎兵衛、号;玄道/文竜
B2912 **綱忠**(つなただ・東坊城ひがしぼうじょう、初名;長誠、資長男/本姓;菅原)1706-81*76*　母;池尻勝房女、廷臣、
1736従三位/38参議/53正二位/58権大納言/綱忠に改名、東宮学士/文章博士、詩歌に長ず、
「綱忠詩輯」「綱忠文艸」「蛍雪類林」、1728-79「東坊城綱忠日記」79「菅原綱忠詠草」著、
輝長の父
綱忠(つなただ・神保)　→　*蘭室*(らんしつ・神保じんぼ、藩士・漢学者)　Ｃ４８４５
B2913 **綱為**(つなため・人見ひとみ)1804- 1873*70*　下野那須湯本の温泉宿和泉屋の生、
見立神社神主/のち那須温泉神社の祠掌、1844「野州那須温泉由来記」著、
[綱為(;名)の幼名/通称]幼名;多門、通称;播磨正はりまのしょう
綱太郎(つなたろう・業合)　→　*年緒*(としお・業合なりあい、国学/歌人)　Ｖ３１３９
綱太郎(つなたろう・武島)　→　*眞一*(まさかず・武島たけしま、国学/歌人)　Ｑ４０８２
B2914 **綱利**(つなとし・細川ほそかわ、光尚男/本姓;源)1643-1714*72*　熊本藩主;1649父急死/50襲封、左近中将、
越中守/1712致仕、水前寺成趣園を造営;相撲の吉田家を招請、詩人、「士鑑用法詮解」著
[綱利(;名)の幼名/字/号]幼名;六丸、字;見大、号;如嗟、法号;妙応院雲嶽宗龍
G2973 **綱敏**(つなとし・渡辺わたなべ、通称;播磨守/号;橿園)1791-1855*65*　備中川上郡の八幡神社祠官、
神道・国学・歌;小寺清先門;清先の家塾修学館長;子弟教育、
備中成羽藩主山崎義厚(治正)に古今集の講義、1855(安政2)没
綱利(つなとし・前田綱紀)→　*松雲*(しょううん・前田、藩主/藩政改革)　Ｆ２２３２
B2915 **綱豊**(つなとよ・黒崎くろさき)1829-1869暗殺*41*　下野玉田村の名主、和算;方山綱宝門;関流12世、
高橋文貞に伝授、戊辰戦争時;都賀河内両郡66ケ村の人夫を率いて官軍の軍需品を輸送、
翌年暗殺された、「算法解括式」「矩合的当集」「弾珠要録」「略算見立集」著、
[綱豊(;名)の幼名/通称]幼名;義三郎、通称;八郎右衛門、信(玉田)の父)
綱豊(つなとよ・徳川/源)　→　*家宣*(いえのぶ・徳川6代将軍)　１１５４
縄直(つななお・小幡)　→　*景憲*(かげのり・小幡おばた、幕臣/軍学者)　Ｂ１５８９
B2916 **維長**(つなが・堤つつみ、広長男/本姓;藤原)1793-1859*67*　廷臣;1805春宮権少輔/17春宮少進
1833正三位/49民部卿、1817「詞林聚葉」著
B2917 **綱根**(つなね・宇都宮うつのみや)?- 1864*70余歳*　尾張津島社祠官、歌;熊谷直好・氷室長翁・香川景恒門、
尾張の代表的桂園派歌人、1844「上京日記」/58歌集「さねかつら」、「岡崎紀行」著、
[綱根(;名)の通称/号]通称;宇一太夫、号;睡翁、法号;松屋宗雲居士
B2918 **葛根**(つなね/くづね/かつね・高須たかす、蘆根あしね男)1827-92*66*　遠州敷智郡新居宿醸造業若林屋8代目主人、
油問屋:吉田藩御用達、国学・歌人:中山美石うまし・八木美穂門、
1849「万葉旋頭歌集」、「歌格分類抄」「万葉集歌抄」著、
「万葉集不載私編長歌」著、「地鎮神社記録」編、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

［月夜よしよよしと敷けるさむしろの上には夏もたどらざりけり］、
（大江戸倭歌；夏677/夏筵、蔓根名；誤記?）、
［葛根（；名）の通称/号］通称；平六郎/新助/新吉/嘉兵衛（代々の称）、号；巌堅室げんけんしつ
高須家は代々国学者・歌人を輩出；6代元尚（宣長門）・7代蘆根（尚道/大平門）

B2919 **綱誠**（つなのぶ・塩谷しおのや、青柳高吉男）1751-1801*51* 塩谷綱寛の養子、出羽秋田武芸家；父高吉門、
剣術；一簀流祖青柳外記門/非刊流槍術/一念流柔術を修得、1793郷校成章書院で指導、
「続日本伝抄啓」「温故平談統一大全」「非刊流一簀流再編伝」「非刊流一簀流仕入之次」著、
［綱誠（；名）の通称/号］通称；頼母たのも、号；子拱しきょう

B2907 **綱敷**（つなのぶ・横田よこた、通称；四郎太郎）1795-1857*63* 下野芳賀郡真岡もおかの商家；質商・穀物商、
弘化1844-48年間より名主役、国学者/郷土史家：姓氏系譜の研究、
「下野国史略」著、1857（安政4）没、祈綱のりつな（藤四郎/勤王家）の父

G2921 **綱信**（つなのぶ・平井ひらい、旧姓；高田）1818-84*67* 近江栗太郡の歌人；渡忠秋門，歌；［鳰のうみ］入、
［綱信（；名）の通称］淡三

綱信（つなのぶ・前原） → *美春*（よしはる・前原/横瀬/小野、神職） Ｇ４７１３

B2920 **綱徳**（つなのり・河原かわはら）1792-1868*77* 信州松代藩士/用人役/旗奉行/家老、
1843藩主の命で「真田家事蹟稿」編、1847信濃大震災の救済に尽力、
1843「先公実録」編、「本籍名士小伝」「むしくら日記」「園桂茶話」著、
［綱徳（；名）の通称/号］通称；舎人、号；園桂/君山党陰

F2943 **綱歪**（つなのり・大山おおやま）1814-1858*45* 薩摩鹿児島藩士、国学；後醍醐院真柱みはしら・平田篤胤門、
［綱歪（；名）の通称］角右衛門

B2921 **綱紀**（つなのり・田中たなか） ？－ ？ 江後期蘭学者；川本幸民門、
1854師の講述筆記「遠西奇器述」編

B2923 **綱矩**（つなのり・長坂/長阪ながさか）?-1880 代々紀州藩田辺の与力、1856与力一同が田辺を退去；浪人、
1863帰参/小普請/松坂城番役、「仲ケ間一条記」著、
［綱矩（；名）の通称］ 造酒右衛門みきえもん

綱紀（つなのり・前田） → *松雲*（しょううん・加賀5代藩主） Ｌ２１３２
綱紀（つなのり・橋本） → *左内*（さない・橋本、蘭医/藩政改革） Ｋ２０６１
綱端（つなはし→つなもと） → *綱端*（つなもと・木村、藩士/文筆） Ｂ２９３９

F2982 **綱久**（つなひさ・島津しまづ/賜姓松平、光久［1616-95］長男）1632-73*42* 母；伊勢貞豊女の曹源院、
江戸の生；薩摩鹿児島藩主光久の世嗣；従四位上/侍従/薩摩守、
国学・歌人；守役の諏訪兼利かねとし門、
正室；松山藩2代藩主松平定頼長女の真修院、綱貴・久季・酒井忠隆室・鳥居忠英室らの父、
延宝元年父に先立ち没；長男綱貴（1650-1704）が家督嗣、
［あだなりとみるが内にも鳥べのの煙も空に消えて跡なき］（茂睡［鳥の迹］哀傷624）、
［綱久（；名）の別名/通称］幼名；虎寿丸、初名；久平、通称；又三郎、神号；廣足豊雲根命、
法号；泰清院

B2924 **韶仁親王**（つなひとしんのう・有栖川宮、織仁よりひと親王男）1784-1845*62* 光格天皇の猶子、1812中務卿、
歌人：「韶仁親王御詠草」「韶仁親王御日記」「有栖川宮手本」著、幟仁親王たかひとしんのうの父

綱姫（つなひめ・伊達） → *備子*（ともこ・伊達だて/鷹司、藩主正室/歌）Ｖ３１６０

B2925 **綱平**（つなひら・二条にじょう、九条兼晴男/養母；賀子内親王）1672-1732*61* 二条光平の養嗣子/廷臣、
1683中納言/従三位/1704内大臣/08右大臣/15左大臣従一位/22関白/26致仕/29出家、
尾形光琳・乾山兄弟を支援、妻；栄子内親王（霊元天皇3女）；1686結婚、二条吉忠の父、
歌人：1720院御会始/20享保五年七夕詩歌御会参/20仙洞御会作者、
1721・22公宴和歌御会始参、23洞中和歌御会始参加、1714-26「綱平公記」著
［綱平（；名）の号］ 敬信院、法名；円覚

B2926 **綱広**（つなひろ・毛利もうり/松平、藩主秀就男/本姓；大江）1639-89*51* 母；松平秀康女喜佐子（竜昌院）、
長門萩藩主；1651襲封/従四下/長門守、1660「万治制法」33か条を公布；藩政確立に努力、
1682徳川の家臣扱いの御礼登城を厭い隠居、黄檗宗に帰依/画；雲谷等与門、
［綱広（；名）の幼名/通称/法号］幼名；千代熊丸、通称；大膳大夫、法号；泰巌院

B2927 **綱泰**(つなひろ/つなやす・朽木くつき/本姓;源、道綱男)1769-1852*84* 幕臣;1789家督相続、柳の間に伺候、
蔵書家:1836「朽木文庫書目」編、妻;本堂親房女、
[綱泰(;名)の通称/法号]通称;幾太郎/兵庫助、法号;法性院
G2973 **綱広女**(つなひろのむすめ・松平・毛利)?-? 江前期;長門萩藩主毛利綱広(1639-89)の娘、歌人、
[延宝申の年(1680)五月八日のかなしみ(徳川家綱没)に読みける、
時しもあれ涙たたへて時鳥なくや五月のあめが下人](茂睡[鳥の迹]哀傷618)、
綱広の娘は9人;上記歌人は不明;そのうち正室千姫(松平忠昌女/高寿院)の娘長女が有力、
長女の良(松平義行の正室/吉姫/青陽院)
綱平(つなへい・小林) → *脩*(おさむ・小林、医者) Ｄ１４０９
B2928 **綱正**(つなまさ・池田いけだ、寿正男/本姓;藤原)?-1490 摂津池田の豪族/細川家家臣、
連歌:1485能勢頼則千句参加、招月庵正広・宗祇と親交、新菟玖波2句入
B2929 **綱政**(つなまさ・黒田くろだ/賜姓;松平、藩主光之男;4男)1659-1711*53* 黒田之勝の養嗣子;
1673筑前東蓮寺藩主継承/兄廃嫡のため1677光之の嫡子/1688福岡藩主襲封;綱政と改名、
1704致仕、画;狩野安信・昌運門、連歌:1683天和三年正月廿二日光之信祐らと百韻、
[綱政(;名)の幼名/別名/通称/法号]幼名;宮内、初名;長寛、通称;右衛門佑、法号;霊源院
B2930 **綱政**(つなまさ・池田いけだ/松平、光政男)1638-1714*77* 母;本多忠刻女勝子、備前岡山藩主;1672襲封、
伊予守/従四下侍従/左近少将、将軍家綱の字を受け改名、政言・輝録の兄、
正室;丹羽光重女の千子せんこ、息子;吉政・軌隆・政順・継政・政純・恒行、
息女;松(堀田正仲正室)・振(本多忠国正室)・品子(毛利吉元正室)・菊(山内豊房継室)・
春子(立花鑑任正室)、
歌人;中院通茂と親交、画を嗜む、
「綱政朝臣百首和歌」1657「綱政道の記」67「丁未旅行記」著、祖先源頼政像;画、
[綱政(:名)の別名/通称/法号]初名;興輝、通称;太郎/三左衛門、法号;曹源寺湛然徳峯
備角は俳号? → *備角*(びかく、岡山俳人「蠅帒はえぶくろ」著) ３７４２
妻 → *千子*(せんこ・池田いけだ、1651-1700/歌人)
女子 → *綱政女*(つなまさのむすめ・池田菊、山内豊房後妻)Ｂ２９３２
綱正(つなまさ・小貫/初岡)→ *敬治*(けいじ・初岡はつおか、藩士/儒者) Ｆ１８９０
B2932 **綱政女**(つなまさのむすめ・池田いけだ菊、山内豊房の後妻)?-? 備前岡山藩主池田綱政の娘、
元禄宝永1688-1711頃;「王仙院殿行状記」著
綱麿(つなまろ・三輪田) → *元綱*(もとつな・三輪田みわた、国学/神職) Ｄ４４１４
Q2992 **綱道**(つなみち・佐野さの、通称;十右衛門、)?-? 江前期;武士/歌人、伝不詳、
1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[こし方にさまざま見えし夢も今同じ寝覚のおもひ出にして](若むらさき;179懐旧)
B2933 **綱通**(つなみち・蜂須賀はちすか/松平、初名;正能、光隆男/本姓;源)1656-78早世*23* 母;小笠原長次女、
徳島藩主;1666(11歳)父没のため襲封、歌;父門、歌書蒐集、病で早世、
「愚詠草案」「蜂須賀家の集」著、「綱通公愚詠草」、
[綱通(;名)の幼名/法号]幼名;千松丸、法号;徳音院
B2934 **綱光**(つなみつ・広橋ひろはし、兼郷男/本姓;藤原)1431-77*47* 母;白川資忠女豊子女王、廷臣;1454参議、
1455従三位/1459以降武家伝奏・南都伝奏/70権大納言/77従一位准大臣;贈内大臣、歌人;
1449頃-内裏月次歌会参、1460-66勅撰集撰進の院司として院宣を奉行;企画のみで終る、
「円修院道純伝」/1450「義政公直衣始参仕記」55「賀茂祭用脚沙汰記」71「三十首続歌」勧進
[綱光(;名)の法号] 引接院秀寂心空、 兼顕の父
B2935 **綱光**(つなみつ・渡辺わたなべ) ？－ ？ 歌人/村上忠順[ただまさ1812-84/医/国学/歌]の歌の師
B2936 **綱宗**(つなむね・伊達だて、忠宗男)1640-1711*72* 母;櫛笥隆致女、仙台三代藩主;1658襲封/従四下、
陸奥守/若狭守、1660江戸小石川堀の普請役;不行跡の廉で逼塞;品川に隠居/1683剃髪、
歌/書/琴/碁を嗜む、画(丹青);狩野探幽門、「雄山ゆうざん君御詠」、光宗の弟、綱村・村和の父、
[綱宗(;名)の幼名/号]幼名;巳之助/藤次郎、号;雄山/(剃髪号;)嘉心、法号;見性院
B2937 **綱村**(つなむら・伊達だて、初名;綱基、綱宗男)1659-1719*61* 母;三沢清長女初子、仙台四代藩主、
1660(2歳)父綱宗の隠居により襲封/従四上/陸奥守/上総介、1671伊達宗重の上訴、
原田宗輔の刃傷事件を経て後見役の解任と側近重用で藩主権力を強化/1703致仕隠居、

田辺整斎・遊佐木斎を招聘し1703「伊達出自世次考」を編纂、画;狩野昌運門、「肯山公集」、
「肯山公和歌集」「東門公詩集」「伊達綱村詠百首」「大幻即離翁語録」「如幻三昧集」(禅書)、
「夢のたゝぢ」「幻住家訓註解」「機縁」、「伊達記録」「伊達正統世次考」編/外多数、
[綱村(;名)の幼名/号]幼名;亀千代/総次郎、号;肯山こうざん/瓶菴へいあん/東門居士/東村叟、
采隠/大幻/小幻/即離/松源/玻璃/残灯/撑月とうげつ主白屋人、法号;大年寺肯山全提大居士

B2938 **綱元**(つなもと・毛利もうり、光広男/本姓;大江)1650-1709*60* 母;本多忠義女清珠院、長門府中藩主;
1653(4歳)で襲封/従四下甲斐守、「天和御法度」を制定、窮民救済の法を制定、
歌人:日野弘資門、1697黄檗僧悦山道宗を招聘し覚苑寺創建、「野江問答」(弘資より聞書)、
1687「伊勢のつと」/1705「宝永七玉集」/07「七石集」、「日野弘資卿口儀問」「江阪紀聞問」著、
1690南部家桜田邸詩歌会に参加(妹が南部行信[主催者南部重信男)]の妻)、
[雨はるゝ名残の露の玉笹に光待ちとる月のすゞしさ](桜田邸詩歌会;2/雨後夏月)、
[綱元(;名)の幼名/通称/法号]幼名;又四郎、通称;右京/甲斐守、法号;竜沢院

B2939 **綱端**(つなもと・木村きむら、通称;左弁、綱文男)?-? 江中期尾張藩士/代々馬廻;父は1745五十人目付、
「熱田神宮神宝」著

綱基(つなもと・伊達) → *綱村*(つなむら・伊達だて、藩主/歌人) Ｂ２９３７

綱泰(つなやす→つなひろ) → *綱泰*(つなひろ・朽木くつき、幕臣/蔵書家) Ｂ２９２７

G2981 **綱世**(つなよ・宇都宮うつのみや/本姓藤原、貞綱[1266-1316/鎌倉幕府引付衆]男)?-? 鎌倉南北期武家、
兵庫助/弾正少弼、公綱(高綱/引付衆/宇都宮検校)の弟、氏綱の叔父、歌人;藤葉集入
[うらみ侘び身のうきをまたなげきても猶ぬれそふは袂なりけり](藤葉;恋613)、
[綱世(;名)の別名/通称]初名;高貞/次名;公貞、通称;五郎

B2940 **綱吉**(つなよし・徳川とくがわ、家名;松平、徳川家光男/本姓源)1646-1709*64* 江戸幕府五代将軍、
母;お玉(桂昌院/京八百屋仁左衛門女/本庄家養女)、1661上州館林藩主/参議/80権大納言、
1680兄家綱没;家綱の養子として五代将軍継承、酒井忠清を罷免し幕政の実権を把握、
幕領支配の刷新/綱紀粛正、儒仏精神強調;湯島聖堂建立・経書元禄官版出版、(天和の治)、
一方柳沢吉保ら側近政治の弊害/特に生類憐みの令は人心の混乱を招く(犬公方と綽名)、
連歌;1681/84昌陸らと百韻、
[綱吉(;名)の幼名/通称/法号]幼名;徳松、通称;右馬頭/館林宰相/館林参議、法号;常憲院

B2941 **綱良**(つなよし・大山おおやま、華山善之進[善助]男)1825-77斬罪*53* 大山四郎助の養子、
薩摩鹿児島藩茶坊主、供目付、西郷隆盛/大久保利通らと王政復古に参加;
戊辰戦・奥羽征討に功績、1877西南戦争で反乱軍に公金から軍資金提供;捕縛;斬罪、
1864「大山格之助甲子従軍日記」著、
[綱良(;名)の通称] 熊次郎/正円/角右衛門/格之助/正阿弥しょうあみ、

綱吉(つなよし・姉川) → *新四郎*(三世しんしろう・姉川、歌舞伎役者)Ｅ２２６８

綱義(つなよし・金沢/青砥)→ *武平次*(ぶへいじ・青砥あおと、藩士/鮭養殖)Ｄ３８６９

G2974 **常**(つね・河瀬家の娘?) ? - ? 江前期;歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]3首入、
[涙のみかかるうらみの恋衣きてだに人の見るよしもがな](麓の塵;恋472/女常名)

Q2990 **津禰**(つね・原はら) ? - ? 江中期;原光茂みつしげの妻/歌人;宮川松堅門(夫と)、
1722松堅[倭謌五十人一首]入/顕糺[同追加]3首入(夫と共に)、
[物思へばたちゐにさはぐ心にぞつゝみかねける袖のうら浪]、
(倭謌五十人一首;37/寄浦恋)、
[一葉ひとはよりもろき涙の先づ落ちてしほるゝ袖の秋の初風](同追加;初秋風)

B2942 **庸**(つね・後藤ごとう) ? - ? 江中期安永1772-81頃尾張藩士?、
歌人;1780「和歌張玉集」編

B2943 **恒**(つね・杉野すぎの) ? - ? 江後期大阪の住人、1812「転籍作者便覧」著

常(つね・源) → *常*(ときわ・源、左大臣/詩歌/国史編纂)Ｋ３１３５

常(つね・柚木ゆのき) → *久米*(くめ・久我くが/柚木、絵師/歌人) Ｅ１７１４

B2944 **常逢**(つねあい・深沢ふかざわ) ? - ? 江中後期;陸奥(岩代)耶麻郡の神職、
会津の蚕養神社大宮司、神道;会津神職の野村俊胤(1715-89)門、「三国生死落着」著
[常逢(;名)の通称/号] 通称;要人、号;磐根翁

2910 **経章**(つねあき・つねあきら・平たいら、範国男/母;高階業遠女)?-1077 平安後期廷臣;蔵人/右衛門尉、

春宮亮(堀川天皇東宮時代)/従四下、1077;8月大流行の赤もがさ(疱瘡)で没、
歌人;1035賀陽院水閣歌合(左方小舎童;員刺かずさしとして参加)、「出羽弁いではのべん集」贈答歌入、
勅撰2首;後拾遺65/609、続詞花集入、姪に一宮紀伊、
[末むすぶ人の手さへや匂ふらん梅の下行く水の流れは](後拾遺集;一春65)

B2945 **経顕**(つねあき・荒木田あらきだ/家名;船江、茂経男)?-?1310存 鎌倉後期神職;伊勢内宮権禰宜/五位、
歌人:1295伊勢新名所絵歌合参加、柳風和歌抄入集、勅撰2首;玉葉2750/新続古1716
[泊瀬山月にさびしき鐘の音をひばらにおくる夜半の秋風](新続古今集;十七1716)

B2946 **経顕**(つねあき・勧修寺かじゅうじ/本姓;藤原、初名;忠定、坊城定資男)1288-1373*86* 廷臣;1330参議、
1332権中納言/33止職/34参議に還任/大宰大弐/37権中納言/40権大納言/58従一位、
1370内大臣;持明院に親近、日野資明と権力争い、歌:風雅集の武家詠執進を務める、
1332「奏事目録」、50為世13忌和歌出詠/貞和百首・1357延文百首入、続現葉/臨永/松花集入、
勅撰21首;続千載(1934)風雅(5首407以下)新千(4首)新拾(6首)新後拾(2首)新続古(3首)、
[もしほ草かくかひあらば和歌浦に跡つけぬべき言の葉もがな](続千;雑1934/忠定名)
[経顕(;名)の家名/号]家名;坊城、 号;芝山、勧修寺(;以後この家系の家号となる)

B2947 **常顕**(つねあき・東とう、氏村男/本姓;平)?-1394 武将;1336尊氏方で京合戦;勇武、中務丞/下野守、
歌人:足利義尚の和歌撰集「打聞集」(未完)入、勅撰7首;新千載(1511)新拾(941/1698)以下、
[ことのはのかれそめしより忘らるる身をしら露の消えかへりつつ](新千;恋1511)、
[常顕(;名)の法名]法名;素英/悟阿、 師氏の父

B2948 **常晨**(つねあき/つねとき・檜垣ひがき、通称;杉千代、貞副男/本姓;度会)1582-1662*81* 伊勢西河原の神職、
1603伊勢外宮九禰宜/27一禰宜/従四上、外宮の修復造営に尽力、
1653「外宮法式大概」、「外宮年中行事」著、「豊受宮仮殿並別宮及仮殿記」編

B2949 **経晨**(つねあき・中川なかがわ、経治男/本姓;荒木田)?-1670 伊勢宇治の神職;内宮権禰宜/従四上、
歌人;「詠十六首和歌」/1652「慶安五年和歌五十首」、「荒木田経晨神拝抄」著、経晃つねてるの父

G2900 **常昭**(つねあき・都志つし、) ? - ? 江前中期;備中窪谷郡酒津村の歌人;
歌;中院通茂みちもち(1631-1710)門、藤井尚澄・高雅編「類題吉備国歌集」1首入

B2950 **恒明**(つねあき・今枝いまえだ、岡山藩士日置忠明男)1700-52*53* 今枝直方の養嗣子;加賀藩士;
1714金沢住、1723江戸住;24若年寄、不孝と不品行により廃嫡;免職、
「能北日記」「摭事集録せきじしゅうろく」著
[恒明(;名)の通称] 主水もんど/新之助/八郎左衛門

B2951 **常斌**(つねあき・御薗みその/本姓;源、中渠ちゅうきょ男)1734-1801*68* 母;賀茂冬顕女、京の鍼医、
1746従六上、1765鍼師;父祖の業継承、87玄蕃頭/1801正四下、
「九鍼要鍼」「大極論」「迎随論」「経絡要訣」「御薗常斌上表」著、常言つねときの父、
[常斌(;名)の字/号]字;文達、 号;九皐きょうこう

B2952 **常顕**(つねあき・細川ほそかわ、常芳男/本姓;源)1753-1831*79* 廷臣;1803蔵人、禁色昇殿/14兵庫権助、
従五上、「侍中源武庫記」/1811「親鸞上人五百年忌法会参役雑記」17「御即位雑記草稿」著

B2953 **常昭**(つねあき・柴田しばた、通称;四郎右衛門)1756?-96*41?* 伊勢阿濃津の国学者:1774本居宣長門、
評論「新古今集美濃の家づと疑問」/「詞つかひ」「万葉集釈義柴田常昭問目本居宣長答」著、
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;2首入、
[行く川の過ぎにし人を武蔵鐙むさしあぶみかけてぞしのぶ年は経ぬれど](八十浦;600、
県居大人の十三年の手向に)

G2906 **常秋**(つねあき・中里なかざと、新三郎男)1762-1800*39* 伊勢松坂の富商の生/国学者;本居宣長門、
中里5兄弟の3番目(常岳の弟)、
[常秋(;名)の初名/通称]初名:常安、 通称;孫四郎/定四郎/伴蔵/新次郎/平兵衛

F2942 **恒全**(つねあき・大村おおむら、邦全くにあき男)1797-1820早世*24* 母;しう/京の商家白木屋の生、
歌人;1815加藤景範門、
[恒全(;名)の通称]通称;勇蔵、 法名;仁山道勇居士

B2954 **常明**(つねあき・鈴木すずき、初名;保、鏡屋正七男)1811-70*60* 名古屋の紅白粉商鏡屋の生、
国学:鈴木朖あきら・本居春庭門、医;奥医浅井家・小笠原定菊門/蘭法医術;1834小石元瑞門、
蘭学;小森愚堂門、名古屋で開業/1844尾張藩医となる/種痘法;50長柄春竜門;種痘所開設、
1864藩の長州征討随行、1852「種痘所用留」、「鈴木容蔵雑記」著、「鈴木容蔵出張御用留」編、

[常明(;名)の幼名/通称/号]幼名;鍋介/鍋助、通称;鏡屋/容蔵/鎔蔵/節斎、
号;快然堂/清高軒

G2967 **経章**(つねあき・山部やまべ、通称;学)1817-97*81*　肥後阿蘇郡の阿蘇神社社家、国学者

F2986 **常明**(つねあき・関せき、初名;知常、)1834-1907*64*　江戸の医者、国学;上州の小板橋こいたばし好里門、
上野吾妻郡の総鎮守吾妻神社祠官、
[常明(;名)の字/号]字;子明、号;恒斎

常昭(つねあき・森本)　→　*菅彦*(すがひこ・森本もりもと、国学者/歌)　Ｆ２３８７
常彰(つねあき・柘植)　→　*竜洲*(りゅうしゅう・柘植つげ/柘、医者)　Ｅ４９５７
経晃(つねあき・中川)　→　*経晃*(つねてる・中川、禰宜/国学)　Ｃ２９５６
恒章(つねあき・速水)　→　*春暁斎*(初世しゅんぎょうさい・速水はやみ、商家/読本)Ｊ２１４０

B2955 **常明親王**(つねあきしんのう、醍醐天皇皇子)906-944*39*　平安中期/歌人中務と交渉
恒明親王(つねあきしんのう)　→　*恒明親王*(つねあきらしんのう・常盤井宮)　Ｂ２９５６

B2957 **常彰**(つねあきら・久志本くしもと/本姓;度会、河崎延貞男、久志本継彦養嗣)1675-1752*78* 伊勢山田神職、
外宮(豊受大神宮)権禰宜/正四下、神道;父延貞門家学/歌/茶、「神道明弁」「日本国風」、
「常彰詠草」「飛鳥井家出題」「連歌集」「連歌本式」、「芸窓うんそう随筆」「芸林げいりん珠璣」「連歌集」、
「外宮年中神事大旨」「和国魂」「神代巻秘要」「伊勢宮参詣記」「花鶯吟余」「糊窻漫録」外著多数、
[常彰(;名)の別名/通称/号]別名;常昭/用直/延守、通称;四郎二郎/縫殿ぬい/主馬、
号;鶯谷/芸亭うんてい

B2958 **常昭**(つねあきら・金丸かなまる、都筑つづき続重男)1712-58*47* 石見浜田生/父は津和野藩主継嗣争で致仕、
金丸と改姓;津和野藩の客分;のち藩士/藩儒となる、国史暦算に精通/藩の教育に功、
「筆柿記」著

B2959 **経亮**(つねあきら/つねすけ・橋本はしもと/本姓;橘、橘昆経男)1759-1805*47* 山城葛野郡梅津村梅宮神社祠官、
正禰宜、1766(12歳)宮中出仕;非蔵人/正五下肥後守、故実家:高橋図南門、歌;小沢蘆庵門、
国学;荒木田久老門、古絵図研究、上田秋成・伴蒿蹊と交流、1797家集「橘経亮詠草」、
1801「橘窓自話」、「橘窓随筆」「橘窓余語」「拾葉筆記」「梅窓筆記」「梅窓随筆」「井蛙談」、
「香果随筆」「氏神考」「四魂考」「壽璽考」「鳥居考」「明神神名考」「郁子考」「有職考」外著多数、
[経亮(;名)の号]　橘窓/梅窓/香圃/香果[堂]/慕香園

B2960 **経暠**(つねあきら・中川なかがわ/本姓;荒木田)1833-58早世*26*　伊勢内宮六禰宜/正四下、
「経暠神主嘉永安政加階」編

英明(つねあきら・源)　→　*英明*(ふさあきら・源、詩歌人)　Ｂ３８９７
経章(つねあきら・平)　→　*経章*(つねあき・つねあきら・平、廷臣/歌人)　２９１０

B2956 **恒明親王**(つねあきらしんのう・常盤井宮、亀山天皇皇子)1303-51*49* 母;昭訓門院瑛子(西園寺実兼女)、
常盤井宮家の祖、後宇多天皇の異母弟/父に大覚寺統嫡嗣とされたが兄天皇が不履行、
持明院統に親近(花園院記入)、中務卿/式部卿/一品/歌:1343院六首歌合参加、続現葉集入、
勅撰12首;続千載(148/635)続後拾(963)風雅(5首397/420以下)新千(3首)新拾(1244)、
[たちかへり風をのみこそ恨みちつれ吹かずは花も散らじと思へば](続千;春148)

恒明親王家按察(つねあきらしんのうけのあぜち)→　*按察*(あぜち・恒明親王家、女房歌人)　Ｂ１０１９

B2961 **経麻**(つねあさ・粟野あわの、初名;文遐/経遐、文始男/本姓;度会)1710-52*43* 伊勢中世古の神職;
外宮権禰宜/従四下、国学神典に精通;姓氏系譜の研究、1731「一禰宜次第記」著、
[経麻(;名)の通称]　兵部/右膳/奉膳

経朝(つねあさ・世尊寺)　→　*経朝*(つねとも・世尊寺/藤原、書/歌人)　Ｃ２９６９

B2962 **経厚**(つねあつ・鳥居小路)　？－　？　室町期青蓮院庁務、
歌学:天台僧尭恵[ぎょうえ1430-1498?]より歌学書を伝受;大谷泰昭・尊鎮親王に伝授

常淳(常惇つねあつ・坂/阪)　→　*光淳*(みつあつ・阪、静山、歌人)　Ｄ４１０５
常阿弥(つねあみ・岡田)　→　*忠篤*(ただあつ・岡田おかだ/藤原、幕臣/歌)Ｅ２６８０

B2963 **経有**(つねあり・飛鳥井あすかい、雅孝男/本姓;藤原)?-1343　母;平経親女、廷臣;中将/1341従三位、
歌:1323大覚寺五十首・1340暦応三年八月十五夜歌会参加、43没、1345刊[藤葉集]入、
勅撰3首;続後拾遺(847)新千載(1141)新拾遺(395)、
[明けわたる峰にたなびく横雲の立ちわかれてぞ袖は時雨るる](続後拾;恋847)、
[空にすむ光ぞおそき峰こえて松原つたふ秋の夜の月](藤葉;秋231/従三位経有)、

[経有(;名)の別名]　経孝/教親
B2964 **経有**(つねあり・大中臣おおなかとみ/正眞院、経春男)1335-? 1382存 春日社神主/1381正神主、
連歌:菟玖波集;恋1句入、
[憂事をおもはで月を見るべきに](菟;恋875/前句;秋こそいとど露涙なれ)
B2965 **経有**(つねあり・庭田にわた、重資男/本姓;源)?-1412　室町期廷臣;従四下/右近少将/出家、
後桃園天皇の外祖父(;1444贈従一位左大臣)、重有の父、1398「庭田経有記」著、
歌人;1370-6百番歌合/仙洞歌合参加、新続古1779、1400[菊葉集]12首入、
[花の跡の青葉こぐらき池水に春もの深く鳴く蛙かな](菊葉集;春250)、
[経有(;名)の号]　号;克斎、法号;宝勝院
B2966 **常有**(つねあり・檜垣ひがき、貞晨さだあき男/本姓;度会わたらい)1642-1723*82* 伊勢度会郡西河原の神職;
1653外宮十禰宜、1685従三位/1700一禰宜/11従二位、
「常有卿日次」/「応永依頼外宮注進状」「常有家引付」編、
[常有(;名)の通称]　仙千代/縫殿ぬい
B2967 **常有**(つねあり;通称・神田かんだ、名;厚敬/号;無味菴)?-? 江後期文化文政1804-30頃出雲の郷土史家、
歌;1819加藤以翼門、1811「出雲勝地考」、「出雲国名所図会」著、「出雲国風土記大成」補填
F2904 **常有**(つねあり・新納にいろ)　? -　?　江後期;藩士(薩摩?)/歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[宇治川の網代越す波くれなゐに淀むと見しは紅葉なりけり](大江戸倭歌;1198)
恒有(つねあり・加藤/大原)→　*観山*(かんざん・大原おおはら、儒者)　Ｈ１５６５
B2968 **経家**(つねいえ・藤原ふじわら、定頼男/母;源済政女)1018-68*51*　廷臣;1032侍従/48蔵人頭兼左中弁、
1050右大弁/56従三位/61参議/63正三位/65(治暦元)権中納言、69(治暦4)没、
歌人;1049内裏歌合参加(;右方人頭)/1051内裏根合参加(;左方人頭/根を取出す役)、
新続古今772、
[あまのはらめぐる月日のさやかにも万代すめる雲のうへかな]、
(1051内裏根合/新続古;七賀772)
B2969 **経家**(つねいえ・藤原ふじわら、号;六条、重家男/母;藤原家成女)1149-1209*61* 廷臣;1160右衛門佐、
182宮内卿/86内蔵頭/89従三位非参議、正三位非参議のまま1208出家、顕家・有家の兄、
六条藤家歌学:伯父藤原清輔門、近衛・九条両家に出入;1175/79右大臣九条兼実家歌合参加、
1178別雷社/93六百番歌合/95民部卿経房家歌合/1200石清水若宮社歌合・正治初度百首参加、
「経家卿集」著、言葉集・月詣集・玄玉集・万代集入集、笙・笛が得意、
勅撰11首;千載(129/215/950)新古(1129/1948)新勅(686)続古(724)続拾(861)風(2首)以下、
[いづかたと春の行方は知らねども惜しむ心の先にたつかな]、
(千載;春129/惜春の心が先行する)
[雪深き山里のみや春待つと暮れ行く年ををしまざるらん](正治百首;1073/春待心先行)
B2970 **経家**(つねいえ・九条くじょう、基家男/本姓:藤原)1227-? 1263存　母;藤原高能女、良経の孫、廷臣;
1241従三位/51正二位右近中将/63出家、歌:1256前内大臣基家家百首歌合参加、
父基家主催行事に参加、1253-4成立[雲葉集]2首入、
勅撰5首;続後撰(1182)続古(1108)続拾遺(335/486)新続古(39)、
[なにとなくあけぬくれぬとさすらへてさもいたづらにゆく月日かな](続後撰;雑1182)
B2971 **経家**(つねいえ・近衛/藤原、福園寺殿、関白経忠男)1333-89*57* 母;右大臣花山院家定女、1345右少将、
1347従三位/左近中将、1352南朝;権大納言/1358内大臣/左大臣?/65関白;氏長者、
連歌:菟玖波1句入/1365正平廿年点取三百首和歌(於住吉行宮)参加の左大臣と同一?、
[ともにふす野辺の鶉の立つれて/入江の尾花また浦の波]、
(1355文和四関白家千句;菟入)、
[三島江やをちの柳を吹過ぎれ蘆の若葉に通ふ春風](正平廿年和歌;24/江畔柳)
B2972 **経家**(つねいえ・水無瀬みなせ/本姓;藤原、広幡基豊男)1833-74*42* 水無瀬教成の養子、廷臣;従四上、
左近権少将/水無瀬宮の宮司、歌;「水無瀬大夫経家詠草」
経家(つねいえ・田向/源) →　*経秀*(つねひで・源、郢曲/歌人)　Ｄ２９４２
B2973 **経氏**(つねうじ・細川ほそかわ/本姓;源、初名;業氏、細川和氏男)1319/26?-? 細川顕氏の養嗣子、武将、
従四下兵部大輔/陸奥守、歌人;応安永和1368-79頃の歌壇で活動、1370頃自邸月次歌会催、

「源経氏歌集」、勅撰8首;新拾遺(799)新後拾(360/673/773)新続古(172/1296/1446/1887)、
[経氏(;名)の通称/法号]通称;八郎四郎、法号;龍樹寺
常氏(つねうじ・東)　→　*素山*(そざん;法名・東とう、僧/歌人)　Ｄ２５７６
B2974 **常産阿馬**(つねうみのあま)　？－　？　狂歌;朱楽連,徳和歌後万載集6首;
[けふよりや思ひまいらせそろそろと浮き身の紙に恋の手習](後万載集)
B2975 **常枝**(つねえだ・藤井ふじい)　？－　？　江中期紀州舟尾浦の医者、語学研究、
1786「和漢字名録」、「年中行事秘録」著、
[常枝(;名)の字/号]字;友甫ゆうほ、号;文含斎
恒右衛門(つねえもん・石井/馬田)→　*当充*(あつみつ・石井/馬田、蘭学/通詞)Ｅ１０８５
恒右衛門(つねえもん・宮永)→　*正好*(まさよし・宮永みやなが、農政家)　Ｉ４０６５
恒右衛門(つねえもん・関口)→　*顕尚*(あきなお・関口せきぐち、国学者/歌)　Ｈ１０８０
恒右衛門(つねえもん・千本松)→*恭壽*(やすなが・千本松せんぼんまつ/菅原、国学)Ｇ４５１３
常右衛門(つねえもん・田中)→　*忠陳*(ただのぶ・田中、藩士/国学者)　Ｑ２６３９
常右衛門(つねえもん・谷岡)→　*吉隆*(よしたか・谷岡たにおか、藩吏/歌学者)Ｄ４７９８
常右衛門(つねえもん・結城)→　*確所*(かくしょ・結城ゆうき、藩士/儒者)　Ｈ１５３１
常右衛門(つねえもん・石原)→　*元固*(もとかた・石原いしはら、村吏/歌人)　Ｊ４４２４
常右衛門(つねえもん・長谷川)→*常雄*(つねお・長谷川はせがわ/中里、国学)Ｅ２９８８
B2977 **常生**(つねお・檜垣ひがき、貞正男/本姓;度会わたらい)1633-7240 伊勢西河原神職/1647伊勢外宮十禰宜、
1667五禰宜/69従四下、「外宮慶安日次抜」編、貞盈の父、
[常生(;名)の通称]　吉之助/吉之丞
G2975 **常於**(つねお・塩野しおの、)　？－　？　江前期;上方の歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]16首入、
[鶯はふるすながらに啼くこゑのほそ谷川も春めきにけり](林葉累塵;春28)
F2940 **常雄**(つねお・鈴木すずき)　？－1809　陸奥胆沢郡代々の大肝入、鈴木義興よしおきの孫、
国学/歌人、磐井郡大肝入の大槻清雄と交流、
[常雄(;名)の通称/号]通称;養作、号;北川斎/楽山亭
E2988 **常雄**(つねお・長谷川はせがわ/旧姓;中里)1757-1811*55*　伊勢松阪の豪商中里新三郎の長男、
豪商長谷川南家の養子/国学者;本居宣長門、
中里5兄弟の長;中里常岳つねおか・常秋・常国(西山政樹)・中里常季つねすえの兄、
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;2首入、
[此の宮しあやに尊し人みなのつかへまつるといそはく見れば](八十浦;603/反歌、
安永九[1780]年御厨神社の新宮移しの時の詠)
[常雄(;名)の通称]新二郎/武右衛門/常右衛門
F2998 **恒雄**(つねお・宮路みやじ、)1795-1870*76*　三河渥美郡高須新田の農業、
歌人;中山美石うまし門、歌;1866刊[類題参河歌集]入、竹田佳孝よしたかの師、
[五十余りよつの巻まき繰返し見しも跡なき夢のうき橋](墓石背面の歌)、
[恒雄(;名)の通称/号]通称;藤助、号;尾花廼舎/美草廼舎
F2989 **経雄**(つねお・丹治たじ、)1841 - 1908*68*　陸奥福島の稲荷神社神主、能書家、
1856(安政3)江戸で卜部隆神道を修学/維新後;1870皇典和学;黒川眞頼まより門、
歌;海上胤平門;長歌に長ず、1875[信夫新聞](のちの福島新聞)の創業者、
妻;田村鐵三郎の姉、
[経雄(;名)の別名/字/通称/号]別名;経正/重満、字;子嗣、通称;庄之助/播磨守、
号;思斎
常雄(つねお・奥田)　→　*常雄*(つねかつ・奥田、歌人)　Ｂ２９９７
常雄(つねお・大脇)　→　*春嶺*(はるみね・大脇おおわき、国学者)　Ｇ３６９８
常雄(つねお・亘理)　→　*往斎*(おうさい・亘理わたり、兵学者)　Ｃ１４４０
恒夫(つねお・村上)　→　*聴雨*(ちょうう・村上、儒者)　Ｈ２８２７
恒夫(つねお・箕浦)　→　*節山*(せつざん・箕浦みのうら、藩士/儒者)　Ｌ２４０６
B2978 **常嶽**(つねおか・中里なかざと、新三郎男)1760-1813*54* 伊勢松坂の富商、歌文;本居宣長門/横笛を嗜む、
中里五兄弟;長谷川常雄の弟、中里常秋・中里常国(西山政樹)・中里常季の兄、

「峯松和歌集」著、
[常嶽(;名)の別名/通称/号]別名;常満/常道/廬、
通称;松三郎/大三郎/弥五郎/新三郎/清助、号;橿の屋
B2980 **常興**(つねおき・関せき) ? - ? 江後期羽後鹿角の和算家;関流演算術の研究、
「算法理解鈔」著
E2998 **恒意**(つねおき/つねのり?・奈須なす)?- ? 江後期;歌人、幕医奈須恒徳(1774-1841)の一族?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[寝覚めする老の枕のあかつきに一声鳴きて行くほととぎす](大江戸倭歌;夏446)
G2937 **庸興**(つねおき・松川まつかわ、)1820-1899*80* 摂津西成郡の神職/国学;岩崎長世門、
上福島の上ノ天神社祠官、維新後;大講義、
[庸興(;名)の通称]守蔵/安太郎/清一
常興(つねおき→じょうこう;法名)→ *尚氏*(ひさうじ・大館おおだち、武将/故実)Ｅ３７４２
経興(つねおき・勧修寺) → *経成*(つねなり・勧修寺かじゅうじ/藤原、歌) Ｃ２９９０
B2981 **恒興女**(つねおきのむすめ・藤原ふじわら)?-? 父恒興は左近将監、平安初期歌人:藤原清輔門、
亭子院宇多上皇に歌を奉上、新勅撰929、
[わくらばにまれなる人のたまくらは夢かとのみぞあやまたれける](新勅;十五恋929)
2997 **経理**(つねおさ・勧修寺かじゅうじ/本姓;藤原、経則男)1828-71*44* 兄顕彰の養嗣/廷臣;
1858日米条約勅許改変求め諸卿と画策/64長州征討時に長州と連絡;事現れ蟄居、
1868赦免;右中弁/従四下、「勧修寺経理日記」著
B2982 **経臣**(つねおみ・藤原ふじわら、佐高男/母;上毛氏)900-951*52* 平安前期廷臣;
933文章得業生;方略試を受、蔵人/丹後守/肥前守/正五下、
932成明親王(村上天皇)読書始の尚復を務める、935菊の宴に序を献ず、
歌人;醍醐天皇時代の蔵人所十五夜宴で詠歌/拾遺集175、雅材の父
常臣(つねおみ・小県) → *清庵*(せいあん・小県おがた、藩医/国学) Ｈ２４１９
G2944 **経香**(つねか・三宅みやけ、本姓;賀茂県主)1792-1856*65* 山城愛宕郡上賀茂神社祠官、書家/歌人、
書;岡本胡保門/歌;松田(橘)直兄なおえ門、1856(安政3)没、
[経香(;名)の通称/号]通称;備中介/丹後守/大膳、号;愛山
G2970 **常香**(つねか・吉川よしかわ/本姓;卜部、通称;文次)1801-34*34* 常陸鹿島郡の神職/新当流剣術、
1829(文政12)「鹿嶋新当流剣術正統略伝」著
B2983 **常香**(つねか・伊藤いとう、通称;太兵衛)?-? 幕末期長崎の国学者/歌人:
中島広足(1792-1864)門、「桜陰長歌文集」著
B2984 **常景**(恒蔭つねかげ・坂上さかのうえ、国当男)879?-? 925存 平安前期延喜期廷臣;大学少允、
921権少外記、924大外記/925長門守、歌;後撰集843、
[鏡山明けて来つれば秋霧のけさや立つらん近江あふみてふ名は](後撰集;十二恋843)
(近江という名の女と逢った翌朝に遣わした歌/鏡山は近江の山で女の名の縁語、
近江は逢ふ身を掛ける/秋霧は名が立つの縁語)
F2918 **常蔭**(つねかげ・井本いもと、大垣新田藩士敦高の長男)1776-1813*38* 三河渥美郡亀山村の生、
美濃大垣新田藩領の三河野村藩士;1799(寛政11)父の跡継嗣;郡奉行、
国学;1798本居宣長・春庭門、歌人、三河・遠江の国学・歌人と交流、歌人磯丸の師、
[常蔭(;名)の別名/通称]初名;叙庸、通称;彦馬/郡太夫
F2913 **恒景**(つねかげ・藤森ふじもり、通称;周輔)?-? 江後期;美作粟井郡馬形村の歌人;平賀元義門、
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
常影(つねかげ・檜垣) → *常典*(つねのり・檜垣/度会わたらい、神職) Ｄ２９１４
B2985 **経員**(つねかず・大中臣おおなかとみ/正眞院、経清男)1306-58*53* 春日社神主;正預、
1356春日神木動座の件で注進、連歌:菟玖波集;3句入
[神垣の藤咲く松の陰にゐて](前句;身の為君を猶祈るかな、
詞書;春日の社頭にこもり侍けるとき月次の連歌に)
B2986 **常和**(つねかず・東とう、常縁男/本姓;平)1456-1544(一説1525没)*89(70?)* 室町期武将;
1486頃相模三浦に住、下野守/大和守/兵庫頭、1508上洛、三条西実隆に古今集の講義を受、
歌人、胤行以来の東家の歌を編輯;1533「東家代々集」、「常和集」著、法名;素安

B2987 **常和**(つねかず・檜垣ひがき、別名;朝和、貞次男/本姓;度会わたらい)1617-1700*84* 一時 宮後朝貞の養子;
不縁;実家に復す、度会郡坂之世古住;1626伊勢外宮十禰宜/82一禰宜/87正三位、外宮長官、
小謡「浜出」作、「常和日次」、「伊勢両宮服仮令」1644「二宮諸社名式図」編、「上階款状」著、
[常和(;名)の通称]通称;仁助、 常基の兄、貞悳さだのりの父

E2996 **常一**(つねかず・大島おおしま、号;松渓)?-? 江後期石見津和野藩士、歌人、
1822(文政5)石見益田の戸田柿本神社に人麿像7体の彫刻を奉納、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[降りくらす雨のしわざかけふみれば庭の苔路も萩が花ずり](大江戸倭歌;秋731)

G2951 **経一**(つねかず・宮川みやがわ、本姓;山部)1798-1871*74* 肥後阿蘇郡の阿蘇神社の社家、
国学・神道・歌;本居内遠うちとお・宮川経輔つねすけ門、
[経一(;名)の通称/号]通称;遠江、 号;緑蔭舎

B2988 **常一**(つねかず・千葉ちば、胤英たねふさ男)1843-68戦死*26* 陸中一関の和算家;父門、
1868戊辰戦争:幕府軍に属し羽後苅和野で戦死、「淡水問答」「匠家正斜墨之解」著、
「探索算法」「精要算法巻下解義」「方陣術別伝」、1865「両七算法」著、
[常一(;名)の通称/号]通称;量七/善右衛門、 号;淡水

B2989 **つねかた**(源) ? - ? 平安前期歌人、
975雅信催?「一条大納言家歌合」右方参加

B2990 **経方**(つねかた・勧修寺かじゅうじ、初名;宗定/経直、経顕男/本姓;藤原)1335-? 1362存 廷臣;1356参議、
従三位/1359権中納言/治部卿、1362出家、歌:新千載1233、新葉911/1090
[かはらじといはせの杜のことの葉よいつよりあきの色にそめけん](新葉集;恋911)

B2991 **常方**(つねかた・久志本くしもと/本姓;度会、徳川秀忠の侍医久志本常範男)?-? 江初期江戸の神職、
「款状集」著、[常方(;名)の通称]左京

B2992 **経賢**(つねかた・船橋ふなはし、別名;宣相/栄相、秀相[秀雅]男)1640-1708*69* 廷臣/兄相賢の嗣、
1662式部少輔/67正五下/72出家、1669「寛文九年朔旦冬至記」「釈家装束式」「釈家法服式」、
「僧官位服制考」「僧服記」「僧官僧服次第」「法中装束要抄」「筮案」「舟橋随筆」著、
[経賢(;名)の号] 号;自怠軒、 法名;常覚

F2948 **経賢**(つねかた・岡本おかもと/本姓;賀茂、)1746-1817*72* 山城愛宕郡上賀茂神社社家岡本清足の養嗣子、
家督継嗣/国学;養父門、経威つねたけの父、
[経賢(;名)の別名/通称]別名;兼堅かねかた/慶兼よしかね、 通称;大膳大夫/下野守

B2993 **恒固**(つねかた・前田まえだ、恒箇男)?-1830 金沢藩士;1774家督/常火消/小松城番/1812家老、
若年寄を兼任/1822致仕、「御家老覚書」著、
[恒固(;名)の通称]津次郎(しんじろう?)/権佐

B2995 **常堅**(常賢つねかた・石坂いしざか/初姓;山田)?-? 江後期備後福山藩士;1793石坂家の養子、
和算家:内田恭門、天文、1818「分度星宿図」、26「時刻観象」「中星候辰表」「赤道南恒星図」著、
[常堅(;名)の通称] 碌平/録郎

B2996 **常方**(つねかた・野矢のや、常利男)1802-68戦死*67* 陸奥会津若松の生/会津藩士;馬廻供番、常行の孫、
宝蔵院流槍術;伯父志賀重方門、重方没後師範を継承、歌:沢田名垂・原清郷門/和歌所師範、
藩主容敬・容保に侍詠、戊辰戦争に会津若松城を守る;1868(慶応4)戦死、春隣の父、
「蓼園集」「蓼園詠草」「山路苞」「蓼農落穂」「法之道芝」著、戊辰戦没、
[常方(;名)の幼名/通称/号]幼名;駒之丞、 通称;与八、 号;蓼園/蜉蝣翁ふゆうおう/涼斎、
法号;皓月院

常方(つねかた・檜垣) → *常副*(つねすけ・檜垣ひがき/度会、神職) Ｃ２９２９
常方(つねかた・小笠原) → *常方*(つねみち・小笠原/永井、幕臣騎射)Ｂ２９９４
経方(つねかた・太田) → *全斎*(ぜんさい・太田、藩士/音韻研究) Ｆ２４４２
恒堅(つねかた・須賀/武部)→ *直入*(なおり・須賀すが/武部、医/国学者)Ｄ３２０５
恒賢(つねかた・都筑) → *吉容*(よしとみ・都筑つづき/志村、商家/歌人)Ｎ４７２６

G2904 **経雄**(つねかつ・鳥居小路とりいこうじ、通称;大蔵卿)1695-1759*65* 京の青蓮院宮坊官/法印、
歌人;冷泉家入門、「鳥居小路経雄詠草」あり

B2997 **常雄**(つねかつ・奥田おくだ/本姓;橘、初名;義雄)1835-62早世*28* 尾張名古屋藩士、
国学:植松茂岳・山田千疇門、歌人、書物蒐集、妻;富永彦兵衛女の大和(1836-1920)、

1861「拾遺万葉集」、「万葉摘華」「松園叢書」「芽垣内叢書」「佐枝久佐能説」、
妻大和の八十賀に「常雄遺稿」が刊行された(1915刊)、
[常雄(;名)の通称/号]通称;鉄太郎/主馬しゅめ、号;君川/松園/芽垣内はぎのかきつ、
法名;良義院
妻　→　*大和*(やまと・奥田おくだ/富永、国学/歌人)Ｆ４５５８

B2998 **経兼**(つねかね・源みなもと、経仲男?)?-?　平安後期廷臣/歌人:藤原顕季家歌会参加、
1076出雲国名所歌合/1080女四宮篤子内親王歌合/1082経仲歌合参加、98(承徳2)下野守、
1116雲居寺結縁経後宴歌合/16右兵衛佐忠隆歌合/18実行歌合参加、夫木抄入集、
金葉集三奏本Ⅲ479
[いかにしてなびくけしきもなき人に心ゆるぎの森をしらせん](金葉;Ⅲ恋479、
顕季家歌会)
[きぎすたつ交野のみ野のをみなへしかりそめにだになびかざらなん]、
(忠隆歌合;一番左女郎花/かりそめにも狩人になびかないでおくれ;袋草紙入)、
☆袋草紙;下野守の時に請願者を怒らせた逸話入

G2979 **経兼**(つねかね・田向たむけ、初名;経良/本姓;源、従三位資蔭男)1369-1453*85* 廷臣;右大将、
1411従三位/32参議、22(応永29)正三位/参議辞、伏見宮貞成親王家出仕、
1430(永享2)従二位/経兼に改名、将軍足利義教の不興を買う;不遇/1436(永享8)出家、
1453(享徳2)没、郢曲・笙の名手/歌人;菊葉集5首入(経良朝臣名)、
長資・世尊寺行豊・隆経・周具・瑛蔵王・東竹等清宣言・聖賢・一条局(近衛局)の父、
[谷の戸は明けやらねども鶯の声をばこめぬ朝霞かな](菊葉;春22)

B2999 **常樹**(つねき・中川なかがわ)　?-　?　江戸中期歌人/1699「百人一首万葉注解」編

C2900 **常樹**(恒樹つねき・橘たちばな/長谷川/加藤、淡輪たんなわ/たんのわ信明男)1704-62*59* 土佐高知の人、
姓;初め淡輪/一時母の実家を継ぎ長谷川/のち一時加藤/国学者として橘を名乗る、
江戸二出て下野壬生藩主鳥居忠意に出仕、歌;鴛永申也門/国学:賀茂真淵門、
真淵「冠辞考」版下を加藤千蔭らと浄書、「橘常樹家集」著、1758「散りのこり」編、
倭文子しづこ歌集「文布」編、「古今集仰古解」著、
[常樹(;名)の通称/号]通称;長谷川幸助/理太夫/利太夫/淡輪造酒みき、号;六無翁

F2939 **常樹**(つねき・大塚おおつか/旧姓;司)1775-?　三河吉田の大塚嘉樹の養子;神職、
吉田城内神明社の神主、のち下野宇都宮藩士、国学者、
[常樹(;名)の別名] 言信/節

E2989 **常樹**(つねき・若松わかまつ)　?-　?　伊予宇和島藩士、国学;本居大平門、
大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[山のそき野のそき桜見にゆかましを足とくも千里かけらむ竜の馬もが]、
(八十浦;旋頭歌729/退そき;遠隔の地・果て)

C2901 **経樹**(つねき・賀茂かも/岡本、初名;経同、賀茂経必男)1810-38早世*29* 京賀茂社神職/歌;賀茂季鷹門、
1830-38「賀茂経樹日記」、1837「天保八年日記」、「万葉集地名部類」「倭名抄地名部類」編、
「みあれ引の考」「佐々木野考」「衆人詩歌詠作集」著、常春の兄、
[経樹(;名)の幼名/通称/号]幼名;富貴丸、通称;将監、号;遊楽/葵園

F2923 **常吉**(つねきち・猪飼いかい、箕山[彦纘]男)1846- 1891*46*　伊賀上野の人/紀伊尾鷲神社祠官、
父箕山(彦纘)は猪飼敬所養子、「敬所先生行状」著(;父彦纘著「於多満幾」に拠って撰ぶ)
常吉(つねきち・松永)　→　*直恒*(なおつね・松永、藩士/和算家)　Ｂ３２７４
常吉(つねきち・菅原)　→　*長好*(ながよし・菅原/菅、神職/国学)　Ｇ３２４８
常吉(つねきち・加藤)　→　*任重*(ただしげ・加藤かとう、藩士/勤王家)　Ｂ２６７２
常吉(つねきち・福田)　→　*誠斎*(せいさい・福田、儒者/藩校教授)　Ｉ２４３３
常吉(つねきち・板垣)　→　*信人*(のぶひと・板垣いたがき、菱花園/商家・狂歌)Ｈ３５３８
恒吉(つねきち・鈴木)　→　*朗*(朗あきら・鈴木、儒/国学者/歌人)　１０１３
恒吉(つねきち・渋江)　→　*抽斎*(ちゅうさい・渋江しぶえ、医者/考証学)Ｇ２８０９
恒吉(つねきち・仁井田)　→　*南陽*(なんよう・仁井田にいだ、儒者/地誌)　３２４８

E2960 **経清**(つねきよ・藤原ふじわら、宗清男:実父は三善雅衡?)?-?　鎌倉後期廷臣;従四下弾正大弼、
歌人;1315詠法華経和歌参加/20元応二年八月十五夜十首入、拾遺現藻集・続現葉集入、

勅撰5首;新後撰(1157)続千載(1107/1789)続後拾(726)新拾(1215)、
[これもまた世のならひぞと思はずはかはるつらさにながらへもせじ](新後撰;恋1157)
Q2989 **経清**(つねきよ・中御門/本姓;藤原ふじわら、)?-? 南北期;南朝廷臣/正五下、
歌人;1365正平廿年点取三百首和歌(於住吉行宮)参加、
[藪し分かぬ春の光に谷の戸を今朝立出でて鶯ぞ鳴く](正平廿和歌;13/谷鶯)
F2916 **常清**(つねきよ・朝山あさやま/本姓;源、)1783-1846*64* 京の廷臣;九条家諸大夫、歌;香川景樹門、
1815(文化12)景樹「六十四番歌結うたむすび」参加入(冒頭一番左ほか)、
[いかばかり積もり積もりて山松のこずゑの雪の消えがてにする]、
(六十四番歌結;九番左/松残雪)
[常清(;名)の通称/号]通称;陸奥介/治部少輔じぶのしょう、 号;蔵六堂
経清(つねきよ・門真/伴とも)→ *寂真*(じゃくしん、門真/伴、室町幕臣/歌)Ｇ２１２６
経清(つねきよ・町/藤原) → *頭郷*(あきさと・町まち、15ct歌/連歌) Ｄ１０３８
常清(つねきよ・檜垣) → *常真*(つねざね・檜垣/度会、神職) Ｃ２９１８
常清(つねきよ・有馬) → *白嶼*(はくしょ・有馬ありま、儒者/詩) Ｄ３６３２
常静(つねきよ・児島/佐々木)→ *高成*(たかなり・佐々木/児島/源、神道)Ｍ２６６３
常楠(つねぐす・荒巻) → *利蔭*(としかげ・荒巻あらまき/黒田/本居、歌人/邦楽)Ｕ３１０１
C2902 **経邦**(つねくに・藤原ふじわら;南家眞作流、有貞男)?-? 平安前期廷臣;従五上/皇后宮大進、
911?出羽守/武蔵守、
本朝文粋;911紀長谷雄「亭子院に飲を賜ふ記」に記事、
娘盛子は藤原師輔の室(伊尹これまさ・兼家・兼通・安子[村上天皇皇后]らの母)
C2903 **経国**(つねくに・津守つもり、国長男)1185-1228*44* 鎌倉期神職;1220住吉社47代神主/摂津守、
1226正五下、古今著聞集に逸話、笛・催馬楽・太鼓の名手、歌人:津守集入、「国経」は誤記、
勅撰12首;新勅(1004)続後撰(1068)続拾(253/665)新後撰(3首)続千(2首)以下、雲葉集入、
[あふことのいまいくとせの月日へて猶なかなかの身をもうらみむ](新勅:恋1004)
F2950 **経邦**(つねくに・岡本おかもと/本姓;賀茂、経春男)1840-1927*88* 山城愛宕郡上賀茂神社祠官、
国学:平田鉄胤門/歌人、従四下美作守
C2904 **経邦**(つねくに・湯浅ゆあさ)1787-1826*40歳* 京五条柳馬場の国学者:本居大平門、
1826「吉野伝」著、大平撰「八十浦の玉」下巻;743長歌「嵐山」/870「神に祈る」入、
[経邦(;名)の通称/号]通称;治右衛門、 号;灌水/藻塩そうえん、 法号;了誉定儀禅定門
常国(つねくに・西山) → *政樹*(まさき・西山/中里、国学者/歌) Ｌ４０８１
C2905 **常子**(つねこ・近衛このえ、通称;級官、後水尾天皇皇女)1642-1702*61* 母;新広義門院園国子、
1664近衛基熙(関白太政大臣)の妻、「近衛基熙室常子内親王消息」「無上法院殿御日記」著
F2979 **つね子**(つねこ・柴しば、)1789 - 1868*80* 陸奥会津の歌人/国学、
F2924 **つね子**(つねこ・飯田いいだ、)1798-1867*70* 甲斐八代郡の歌人;富小路貞直門、格仙の母
C2906 **通年子**(常子つねこ・堀ほり、初名;雅子、平七郎女)?-? 江戸の歌人/堀一水(直義)の妻、
1839「古今和歌集仮名句題百首」「拾遺集仮名句題百首」、「梅桜和歌集」「通年子詠草」、
「堀通年子詠艸」著、1824清水浜臣撰「泊洒舎ささなみのや扇合」夫直義と共に入(雅子;39番左)、
夫 → *直義*(なおよし・堀ほり、歌人) Ｋ３２３０
F2994 **恒子**(つねこ・伊達だて、山本敬勝女)1806-74*69* 陸奥仙台藩主伊達斉義なりよしの側室、歌人、
伊達慶邦(1825-74/13代藩主)の母
[恒子(;名)の通称/号]通称;美屋、 号;延寿院
F2901 **常子**(つねこ・田沢たざわ) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[小夜中に秋やはいにしこのねぬる朝けの風に冬はきにけり]、
(大江戸倭歌;冬1039/初冬朝)
C2907 **経子**(つねこ・橋本はしもと、実久女)1826-65*40* 皇女和宮の母、仁孝天皇の典侍;1839入内、
1846和宮出産/天皇死去により退出出家;和宮養育に専念、1861和宮に随い江戸へ、
1848-63「観行院手留」著、
[経子(;名)の通称/号]通称;おすめ/今参/新典侍、 出家号;観行院
C2908 **直子**(逌子つねこ・一橋ひとつばし、伏見宮19代貞敬さだよし親王女)1830-93*64* 母;合田愛子(梅藻院)、

京の生/歌人、
1841(天保41)徳川(一橋)7代当主慶壽の正室;江戸へ降嫁、1847夫慶壽が疱瘡で没、
薙髪;徳信院と号す、のち水戸徳川斉昭7男七郎麻呂(慶喜)が一橋家継嗣
慶喜の義祖母となる(実際は7歳の差)、慶喜は1855(安政2)一条忠香養女美賀と結婚、
1856美賀が自殺を図る;原因は慶喜と直子の親密な関係を疑ってのことという、
1868(慶応4)江戸城明け渡しに伴い一橋邸立退き;転々後1876錦糸町に定住、
「水月集」、「滝の川紅葉見の和歌」著
[直子(;名)の幼名/通称/法号]幼名;東明宮とめのみや、通称;直子女王つねこじょおう、
法号;徳信院

F2903 **常子**(つねこ・津軽つがる、津軽藩主順承ゆきつぐ4女)1839-61早世*23歳*　初名;たま姫/のち常姫、
初め津軽承祐つぐとみ(1838-1855)と婚約;1855承祐18歳で没、
1857(安政4/19歳)細川護明と結婚(入婿;津軽と承昭つぐあきと改名)、
1859父隠居;夫承昭が弘前藩12代藩主となる、1861病没

C2909 **常子女王**(つねこじょおう、名;常子、京極宮文仁親王女)1710-79*70*　1729専修寺円猷の室、1753落飾、
歌人;「紫雲光院宮詠草」「紫雲光院宮和歌短冊帖」「紫雲光院宮書状」著、
[常子女王の幼称/号]幼称;美目宮、落飾号;紫雲院、法号;紫雲光院観月智円

直子女王(つねこじょおう)　→　*直子*(逌子つねこ・一橋/伏見宮、歌人)　Ｃ２９０８
常子内親王(つねこないしんのう)→　*常子*(つねこ・近衛、後水尾皇女)　Ｃ２９０５
恒五郎(つねごろう・和田)　→　*為盛*(ためもり・和田わだ/平、神職/国学)　２７３３
経先(つねさき・中川)　→　*守先*(もりさき・中川なかがわ/荒木田、神職/国学)Ｋ４４７７

C2910 **経定**(つねさだ・藤原ふじわら、親定男)?-?　1269存　鎌倉中期廷臣;正四下左中将、管絃/音曲/歌人、
1250豊明節会で雑藝を舞う逸話(弁内侍日記)、梁塵秘抄にまつわる逸話(梁塵秘抄奥書)、
小宰相と類似歌を詠む逸話(和歌口伝入)、1269出家、歌;1246春日若宮歌合参/続後撰306
[をぐら山くるる夜ごとに秋風の身にさむしとや鹿の鳴くらん](続後撰集;五秋306)

C2911 **経定**(つねさだ・花山院かざんいん、右大臣家定2男/本姓;藤原)1300-26早世*27*　母;六条(源)有房女、
廷臣;1319参議、従三位/21正三位:権中納言、妻;洞院実泰(左大臣)女、経家の父、
1322正月朝覲勤行幸・24石清水八幡行幸供奉;増鏡入、歌;続千載1586、
[いまさらに忘らるる身ぞかこたるるかねておもひしつらさなれども](続千載;恋1586)

G2978 **経定**(つねさだ・源みなもと、)　?-　?　南北期;廷臣、歌人;1400[菊葉集]77首入、
[春日野やまだ行き消えぬ木のまよりほのかに匂ふ梅の下風](菊葉;春29)
[ふるさとをしのぶの浦に舟とめてそなたの風の便まつかな](菊葉;旅1044/明徳百首)

B2976 **恒貞**(つねさだ・吉田よしだ)　?-　?　江前期;摂津住人、
狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入、
[臆病と人は言ふとも求めたしおひくる年に逃げん脇道](古今夷曲集;四冬/歳暮)
(おひくるは追ひ来ると老い来るを掛ける/年を追って来る敵の軍勢と見なす)

C2912 **経貞**(つねさだ・多賀谷たがや、通称;清兵衛)?-?　江前中期1661-73頃宇都宮の和算家、
1667「方円秘見集」著

C2913 **経定**(つねさだ・辻つじ、号;玄風軒)?-?　江中期国学・歌学;有賀長伯(1661-1737)門、
1738「伊勢物語清渚抄」、「以玄問答」「秀歌体大略私註」著

G2919 **恒貞**(つねさだ・原田はらだ、通称;甚兵衛)?-1793　長門萩藩士;蔵元両人役、歌人、
[世は春としれとや雪も消やらぬ山のはつかにけさはかすめる]([萩の歌人]入)

G2933 **常定**(つねさだ・堀家ほりけ、通称;因幡)1771-1852*82*　備中賀陽郡の吉備津神社社家、国学;藤井高雅門、
妻;千代(歌人/1796-1863)、常房(1830-67)の父

C2914 **経定**(つねさだ・中御門なかみかど/本姓;藤原、堤栄長男)1779-1817*39*　中御門宣家の養嗣子;1791家督、
廷臣;1815蔵人頭/右少弁/16正四上、桃沢夢宅と交流、1813「南祭諸役備忘」著

F2922 **常定**(つねさだ・猪岡いのおか、)1810-　?　陸奥磐井郡の国学者/歌人;佐々木親覧ちかみ門、
高平真藤まふじ(佐々木親覧門)門

F2906 **常定**(つねさだ・吉田よしだ)　?-　?　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[年月の積りしちりを払ふ夜は枕もいかにうれしかるらん]、

(大江戸倭歌;恋1474/絶後逢夜)
経貞(つねさだ・泉/銭)　→　*必東*(ひっとう・泉/銭せん、書家/画/詩)　Ｃ３７７３
経貞(つねさだ・荒木)　→　*右一*(ゆういつ・荒木あらき、藩士/俳人)　４６５６
常貞(つねさだ・三輪田)　→　*米山*(べいざん・三輪田みわた、神職/書家)　２７４５
常貞(つねさだ・豊田)　→　*丈助*(じょうすけ・豊田とよだ、役人/記録)　Ｋ２２２２
C2915 **経定女**(つねさだのむすめ・花山院かざんいん)?-?　権中納言花山院経定女、南北期歌人、
1367新玉津島社歌合/1407内裏90番歌合参、
勅撰3首;新千載(1618)新拾(1228)新後拾(1355)、
[そのままに逢瀬は絶えて名取河うき名ばかりぞあらはれにける](新千;恋1618)
C2916 **経郷**(つねさと・勧修寺かじゅうじ/家名;万里小路、初名;経熙、経成男/本姓;藤原)1432-1504*73*　廷臣;
1485従三位/87経郷に改名/91参議・正三位/93権中納言/1501従二位、
連歌:1498何人百韻/1500「明応九年五月七日政為為広等何路百韻」参加、新菟玖波入
F2961 **常郷**(つねさと・北村きたむら、)1785-1810早世*26*　近江彦根の歌人;[彦根歌人伝・亀]入、
[常郷(;名)の通称/号]通称;久平、号;友柳居士
常卿(つねさと・亀井)　→　*其考*(きこう・亀井かめい、俳人)　Ｆ１６３３
常里(つねさと・蜂屋)　→　*宗栄*(そうえい・蜂屋はちや、香道家)　Ｇ２５１９
C2917 **経実**(つねざね・藤原ふじわら、太政大臣師実男)1068-1131*64*　母;藤原基貞女中納言の君(彰子の女房)、
廷臣;1084従三位/91参議/98正二位/15大納言、二条天皇外祖父として贈太政大臣正一位、
歌人:1093郁芳門院根合参加(実は藤原孝善が代詠)、「経実卿記」、秋風集入集、続古今26、
師通の弟、忠教の兄、経宗・光忠・経定・後白河天皇女御懿子らの父、
[めづらしき君が子日ねのびの松をこそ万代までのためしにはひけ]、
(続古;春26/永保四年1084中宮子日に)
C2918 **常真**(つねざね・檜垣ひがき、初名;常清、貞和男/本姓;度会わたらい)1477-1573長寿*97歳*　伊勢の神職;
1502伊勢外宮六禰宜/60一禰宜/63従三位/72正三位、「永正天文外宮遷宮記」著
恒実(つねざね・戸田/大巻)→*秀詮*(ひであき/ひであきら・大巻/戸田、藩士/郷土史)Ｃ３７７７
恒三郎(つねさぶろう・奥田)→　*鶯谷*(おうこく・奥田、儒者)　Ｃ１４１０
恒三郎(つねざぶろう・奥埜)→　*弘光*(ひろみつ・奥埜おくの、寺院侍臣/歌)　Ｉ３７９４
常三郎(つねさぶろう・関)　→　*政方*(まさみち・関せき/関藤、医/国学/歌)４００６
C2919 **経重**(つねしげ・高階たかしな、明順あきより男)?-?　平安後期廷臣;紀伊・大和守/従四上、成順なりよりの弟、
1062(康平5)源頼義の後を受け陸奥守;前九年の役平定のため京を[鞭を揚げ発信];
着任後郡司・国内の民は不服従;[何のなすすべなく帰洛];解任/朝廷内混乱;頼義再任、
経忠(藤原経任の養子)・藤原行房室の父、歌人:続詞花集入集、新古今866、
[行く末に阿武隈河のなかりせばいかにかせましけふの別れを](新古;離別866/続詞花集、
陸奥邦みちのくにの介にてまかりける時藤原範永に贈る歌/阿武隈に逢ふを掛る、
範永の返歌867;君に又阿武隈河をまつべきに残り少なき我ぞかなしき)
C2920 **経茂**(つねしげ・大中臣おおなかとみ/家名;正眞院、初名;兼時、時国男)1247-?　1299存　代々春日社神主、
1283新権神主/94正神主;正五下/99解官、1298「春日社造替記」著
C2921 **経重**(つねしげ・勧修寺かじゅうじ、経顕男/本姓;藤原)1355-89*35*　廷臣;1381参議/84従二位、
1389権大納言;その夜没、歌:新後拾遺965、
[ともにさてうき名やたたむあづまなるかすみの浦の煙ならねど](新後拾;965)
C2922 **経茂**(つねしげ・勧修寺かじゅうじ、経直男/本姓;藤原)1430-1500*71*　廷臣;1460参議/61従三位、
1466権中納言/1482大蔵卿/90正二位、1479「経茂卿記」著、
連歌:1483独吟連歌、1483文明十五年八月十五夜和漢聯句参加、新菟玖波;6句入
C2923 **経林**(つねしげ・中川なかがわ/本姓;荒木田、沢田泰経男)1699-1762*64*　中川経晃つねてるの養子、経高の父、
伊勢宇治の神職;1752内宮二禰宜/従三位、1729「皇太神宮秘記」、「六月浜出記」外行事記録
[経林(;名)の別名/通称]別名;泰珍/経永、通称;右近/弾正
B2922 **経重**(つねしげ・川野かわの)　?-　?　江前期安藝広島の俳人;貞門系、
1676季吟「続連珠」/79宗臣「詞林金玉集」入
G2971 **恒重**(つねしげ・吉田よしだ、盛重男)1812-81*70*　讃岐丸亀の商家笠島屋の生、
国学;高松藩兵法家中村尚輔ひさすけ(尚孝)門、高松に住、

[恒重(;名)の字/通称/号]字;子徳、通称;正右衛門、号;菊坡
経成(つねしげ・高階)　→　*経成*(つねなり・高階たかしな、廷臣;歌人)　Ｃ２９８８
常成(つねしげ・滝川)　→　*征成*(ゆきしげ・滝川たきがわ、藩士)　Ｅ４６５１
恒茂(つねしげ・速水)　→　*春暁斎*(2世しゅんぎょうさい・速水、絵師)　Ｍ２１７４
F2958 **毎鎮**(つねしず・河津かわづ/旧姓;浦、)1829-70*42*　筑前糸島郡の神職/京の吉田家に入門、
糸島郡桜井神社大宮司、
[毎鎮(;名)の通称]　靫負/志摩守/兵部少輔ひょうぶのしょう
恒七(つねしち・佐野)　→　*千種庵*(4世ちぐさあん、春告/商家/狂歌師)Ｄ２８０４
F2946 **常島**(つねしま・岡原おかはら、)1802-1851*50*　伊予宇和郡城辺村の諏訪神社祠官/外50社祠官、
国学;本居大平・内遠門、
[常島(;名)の通称/号]通称;下総正、号;松の舎/松垣内/柳月庵/両崖
常十郎(つねじゅうろう・松島屋)→　*鹿門*(ろくもん・静嘯廬、俳人)　Ｂ５２１４
F2908 **つね女**(つねじょ)　？－　？　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[千千の文ひらけそめしも明らけき御代の光によりてなりけり]、
(大江戸倭歌;雑2033/寄書祝)
常四郎(つねしろう・高橋)　→　*恒道*(つねみち・高橋たかはし、藩士/国学/教育)Ｆ２９９６
常次郎(つねじろう・長坂/小笠原)→　*午橋*(ごきょう・小笠原、儒者/詩)Ｇ１９４５
常次郎(つねじろう・伊藤)　→　*驥斎*(きさい・伊藤いとう、藩士/西洋兵学)Ｋ１６５０
常次郎(つねじろう・都筑)　→　*吉容*(よしとみ・都筑つづき/志村、商家/歌)Ｎ４７２６
常次郎(つねじろう・堀家)　→　*徳政*(のりまさ・堀家ほりけ、神職/歌人)　Ｊ３５３８
常二郎(つねじろう・加藤)　→　*以翼*(よりすけ・加藤かとう/松井、国学/歌)Ｍ４７１３
常二郎(つねじろう・添田)　→　*一芳*(かずよし・添田そえだ、里正/国学者)　Ｕ１５８６
恒次郎(つねじろう・中井)　→　*芳滝*(よしたき・歌川うたがわ/中井、絵師)　Ｅ４７１５
恒次郎(つねじろう・難波)　→　*周政*(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人)　Ｖ１５２９
恒次郎(つねじろう・三輪田)→　*高房*(たかふさ・三輪田みわた、和漢学/神職)Ｚ２６７２
C2924 **経季**(つねすえ・藤原ふじわら、権中納言経通2男)1010-1086*77*　母;源高雅女、平安期廷臣;
1031蔵人/41周防権守/42正四下左中将/45蔵人頭/46修理権大夫兼任/1047(永承2)参議、
1047従三位備中権守/60右兵衛督兼任/62正三位/右兵衛督兼備後権守、
1068(治暦4)権中納言/69従二位/71正二位/76(承保3)治部卿兼任/80(承暦4)中納言、
1081辞任;息子兼平が家督嗣(従四下出雲守)、妻;藤原定頼女、兼平の父
歌:1035頼通歌合参加、
C2925 **経季**(つねすえ・中御門なかみかど/本姓;藤原、初名;高継、経継男)1299-1346*48*　廷臣鎌倉南北期廷臣、
右兵衛佐/蔵人/宮内卿/蔵人頭/1336参議/43正三位/46出家、歌人:1321亀山殿歌会参加、
1323亀山殿七百首参加(8首入)、松花集・臨永集入集、新千載1752、経宣つねのぶの弟、
[おとづるる荻の葉よりも吹く風の涼しきにこそ秋は知らるれ](新千載;雑1752、
元亨三[1323]年七夕亀山殿での七百首歌[;秋232/初秋風])
G2907 **常季**(つねすえ・中里なかざと、新三郎男)1766-1783夭逝*18*　伊勢松坂の富商の生/国学者;本居宣長門、
中里五兄弟の末、
[常季(;名)の初名/通称]初名;常彰、通称;友蔵
常副(つねすえ・度会わたらい)→　*常副*(つねすけ・檜垣/度会、神職/連歌)　Ｃ２９２９
常季(つねすえ・遠藤)　→　*常友*(つねとも・遠藤、藩主/歌人)　Ｃ２９７０
C2927 **恒佐**(つねすけ・藤原ふじわら、左大臣良世男)880-938*59*　母;紀豊春女の勢子、冬嗣の孫、
廷臣;894左近将監、春宮亮/蔵人頭/右近中将/915(延喜15)従四下参議、17従四上、
備前権守/922右衛門督兼播磨守/923従三位権中納言兼右衛門督/927中納言兼右衛門督、
930左衛門督/932(承平2)正三位/933大納言/36右大将兼任/37右大臣/38没、贈正二位、
歌人:935?恒佐大納言扇合を主催、勅撰2首;新古869/新勅1281、
[神無月まれのみゆきにさそはれてけふ別れなばいつか逢ひみん](新古;離別869、
898亭子院[宇多法皇]の芳野宮滝御幸帰途に住吉で同行の素性法師と別れる時の詠)
[恒佐(;名)の通称]　一条右大臣/土御門大臣つちみかどのおとど、　真忠・有相の父

C2928 **経輔**(つねすけ・藤原ふじわら、隆家男/母;源兼資女)1006-81*76* 道隆の孫、廷臣;従五下讃岐権守、
1028従四上左中将/34正四下頭中将/1039(長暦3)参議兼左大弁/40従三位/42勘解由長官、
1045権中納言/46中宮権大夫兼任/49正三位/50従二位/51正二位/59太宰権帥兼任、
1065(康平8)権大納言;中宮大夫兼任/68皇太后宮大夫;病のため出仕せず/69辞任/70出家、
1035頼通歌合・賀陽院水閣歌合参加/1049内裏歌合参加、
勅撰3首;後拾遺752/千載1257/新勅撰215、長房の父、
[こひしさも忘れやはするなかなかに心さはがす志賀の浦波](後拾遺;恋752、
むかし別れた女と石山寺に籠り合ったので詠む)

Q2988 **常佐**(つねすけ・度会、) ? - ? 鎌倉南北期;伊勢外宮神職;権禰宜、
歌人;1334(建武元)度会朝棟亭八月十五夜歌会参加、
[わきてすむ秋の半と宮川の浪間の月の影ぞさやけき](朝棟亭歌会;79)、
[数ならぬ身を打歎く思ひにもかぎらざりけり秋の夕暮](同;81)

C2929 **常副**(つねすけ・檜垣ひがき、別名;常方、貞和男/本姓;度会わたらい)1639-89*51* 伊勢坂之世古の神職;
1662伊勢外宮十禰宜/従五上/86四禰宜/87正四上、1663「檜垣兵庫家証文旧記案集」、
連歌;1679「延宝千句」入
[常副(;名)の通称] 重太郎/左大夫

G2952 **経輔**(つねすけ・宮川みやがわ、本姓;山部)1764-1832*69* 肥後阿蘇郡の阿蘇神社祠官、
神道・国学;宮川慎・本居宣長門、歌人、
[経輔(;名)の通称] 糺/縫殿ぬい

C2930 **恒助**(つねすけ;通称・内田うちだ、名;靖共、小塚半了[恵助]男)1779-1855*77* 熊本藩士;1797外様足軽、
奉行所根取/勘定頭助役/川尻船手作事所御用筋取締、
「阿蘇の煙」、「肥後藩文人画家名誌」著

F2945 **経資**(つねすけ・岡田おかだ、本姓;荒木田)1788-1828*41* 伊勢度会郡の伊勢神宮内宮権禰宜、
外御師、国学者;本居春庭・大平門、
[経資(;名)の通称] 縫殿ぬい/縫殿之允/兵庫

恒助(つねすけ・奈河/近松)→ *一洗*(いっせん・金沢かなざわ、歌舞伎作者)Ｈ１１４９
恒助(つねすけ・太田) → *可笛*(鹿笛かてき・太田おおた、俳人) Ｏ１５１０
恒資(つねすけ・太田) → *稲主*(いなぬし・太田おおた/源、神職/国学)Ｋ１１０６
恒輔(つねすけ・大槻) → *西磐*(西盤せいばん・大槻、儒者/西洋史)Ｊ２４４５
恒輔(つねすけ・木下) → *正賢*(まさかた・木下きのした、商家/歌人) Ｐ４０１２
経助(つねすけ・近升/金沢)→ *一洗*(いっせん・金沢かなざわ、歌舞伎作者)Ｈ１１４９
経資(つねすけ・綾小路/源)→ *生覚*(しょうかく;法名、廷臣/歌人) Ｈ２２７３
経資(つねすけ・藤原) → *浄恵*(じょうえ;法諱、廷臣/僧/歌人) Ｆ２２３９
経亮(つねすけ・橘/橋本、橘窓)→ *経亮*(つねあきら・橘/橋本,故実家) Ｂ２９５９
経弼(つねすけ・宮村) → *貞幹*(ていかん・宮村みやむら、儒者/教育) ３０４６
常介(つねすけ・鈴木) → *朗*(朗あきら・鈴木、儒/国学者/歌人) １０１３
常助(つねすけ・古山) → *尹猷*(ただのり・古山ふるやま、藩士/和漢学)Ｚ２６３８
常輔(つねすけ・多田) → *暘谷*(ようこく・多田ただ、儒者) ４７８１
常典(常介つねすけ・山田)→ *常典*(つねのり・山田、国学・歌学) Ｄ２９２０

E2993 **常澄**(つねずみ・苅谷/刈谷/仮谷かりや、通称;三七)?-? 紀伊和歌山藩士;七里役、国学;本居大平門、
のち夏目甕麿みかまろ(1773-1822)門;遠江新居に住、大平撰「八十浦の玉」下巻下入、
[春日さす局が岳たけの雪消えて谷川水の瀬の音さやけし](八十浦1003、伊勢川俣の山道)

E2995 **常純**(つねずみ・服部はっとり)1815-1879 江後期旗本;百石/幕臣;左衛門佐/従五下長門守/筑前守、
小納戸頭/1863長崎奉行;開港間もない長崎港の警護;警護隊組織/1866軍艦購入、
1866勘定奉行/67海軍奉行並/68(慶応4)若年寄、維新後;新政府に出仕、
1871修史局2等協修として地誌編纂参加、1877まで地理局地誌課勤務、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[高砂の尾上の桜吹きすぎて外山の松に春風ぞ吹く](大江戸倭歌;春262)
[常純(;名)の通称]通称;又一郎

常蔵(つねぞう・大脇) → *春嶺*(はるみね・大脇おおわき、国学者) Ｇ３６９８

常蔵(つねぞう・松田)　→　*駒水*(くすい・松田まつだ、藩士/儒者)　Ｃ１７０６
常蔵(恒蔵つねぞう・青木)→　*茂房*(しげふさ・青木/源/向井、国学者)　Ｓ２１５２
常蔵(つねぞう・広江)　→　*秋水*(しゅうすい・広江ひろえ、商家/詩人)　Ｘ２１７１
常蔵(じょうぞう・加島屋)　→　*常史*(つねふみ・岡おか、書肆/国学/歌)　Ｆ２９４４
恒蔵(つねぞう・小川)　→　*蒼山*(そうざん;号・小川おがわ、俳人)　Ｈ２５４９
恒蔵(つねぞう・佐藤)　→　*秀長*(ひでなが・佐藤、藩士/渡米日記)　Ｄ３７４６

C2931 **経隆**(つねたか・源みなもと、道方男)999-1081(or1058没?)*83(or60)* 母;播磨守国盛女、平安中期廷臣;
正四下信濃守/備前守/常陸介、経長・経信の兄、四条太皇太后宮信濃の父、
歌人;大弐資通歌合参加、後拾遺895、往生人;拾遺往生伝入、
[しぐるれどかひなかりけり埋むもれ木は　色づくかたぞ人もとひける](後拾遺;十五895)
(母の死後弔問客ははぶりの良い弟たちばかり/地位名声で差のあることを歎く)

C2932 **経高**(つねたか・平たいら/吉田、平行範男)1180-1255*76* 平範家の孫/幼少時吉田経房の猶子;のち復姓、
平安鎌倉期の廷臣、1220蔵人頭/26参議/38正二位/40民部卿、故実家;日記の家と称される、
日記「平戸へいこ記」、1229「寛喜度改元定記」、詩:1213内裏詩歌合参加(;権右中弁の時)、
[煙霞林遠暮雲掛　桃李蹊深春日垂](内裏詩歌合;三番左)

D2969 **経隆**(つねたか・賀茂かも)　? -　?　平安期神職/歌人;1182重保撰「月詣和歌集」入、
[頼めずは何に命のかからましげにこそ恋はいのちなりけれ](月詣;六恋544/契経年恋)

C2933 **経隆**(つねたか・土佐とさ/春日/本姓;藤原、初名;有房、土佐隆親or光長男?)?-?　母;稲毛景成女、
鎌倉前期の絵師;正四下中務大輔/土佐権守/画所預、「小野雪見御幸絵詞」画、
建長年間1249-56頃紫宸殿の賢聖障子を描いたと伝える

C2934 **経高**(つねたか・中御門なかみかど、光任男/本姓;藤原)?-? 1389存 南朝廷臣;蔵人頭/左中弁、
1381権中納言/大納言、歌人:1365正平廿年点取三百首和歌/1375五百番歌合参加、
1376内裏千首参加、
新続古(;読人しらず2首)、新葉16首;47/111/219/271/426/476以下、
[いかばかり山のあなたも霞むらん曇りていづる春の夜の月](新葉集;春47/千首歌)

C2943 **経考**(つねたか・)　? -　?　連歌;1445大山祇神社法楽連歌;百韻・千句連中

C2935 **恒隆**(つねたか・望月もちづき)1596-1673*78* 常陸水戸藩士;先手足軽頭/水戸城普請惣奉行/勘定目付、
検地総奉行;藩内の大工事の殆どを手掛ける、光圀の命で笠原新田～城下の上水道敷設、
飢饉時の領民救済に尽力、民政に活躍、「御縄之節申渡書」著、
[恒隆(;名)の通称/愛称]通称;与九郎/五郎左衛門、
愛称;分別五郎左衛門/知恵第一の五郎左衛門

C2936 **経高**(つねたか・春日かすが)　? -　?　江中期享保1716-36頃仙台の暦法家、
1732「暦林要略」、「和朝暦解大全」著

C2937 **経高**(つねたか・中川なかがわ、経林つねしげ男/本姓;荒木田)1736-1810*75* 伊勢宇治神職;1759内宮十禰宜、
1781内宮一禰宜/正三位/99十二位、歌人、「文殿月次和歌」「連歌柔必万難備」「連懸次第」、
「喪祭次第」、1781-1810「経高長官日次記」著、
[経高(;名)の通称/号] 河内/左馬、号;如雪園/花下亭

G2926 **庸孝**(つねたか・福永わふくなが、旧姓;数藤)1812-71*60* 阿波徳島藩士、国学者、湯浅春緒の父?(兄?)、
[庸孝(;名)の通称] 伊勢蔵

G2957 **恒敬**(つねたか・宮坂みやさか、恒由つねよし男)1824-84*61* 信濃上諏訪郡桑原町の酒造業;酒布屋、
国学・歌;父門、維新後;権少講義、
[恒敬(;名)の通称]通称;作左衛門(父の称)

経高(つねたか・藤波)　→　*氏朝*(うじあさ・藤波ふじなみ/薗田、神職)　Ｃ１２３２
経孝(つねたか・飛鳥井)　→　*経有*(つねあり・飛鳥井/藤原、歌人)　Ｂ２９６３
常孝(つねたか・森田)　→　*良見*(良美よしみ・森田、藩士/国学者)　Ｈ４７２９

C2938 **経高母**(つねたかのはは・中御門なかみかど、光任の室)?-? 1375存 南朝方の歌人:「五十番歌合」参加、
百首歌・千首歌に参加、新葉集16首;97/216/384/404/419/668/737以下

C2939 **経武**(つねたけ・吉見よしみ、経孝男)1624-1706*83* 紀伊和歌山藩士、竹林流弓術;石堂竹林為貞門、
1640印可を受;正統を継承、1660京の大矢数惣一となり五百石を受;のち千石、「矢之巻」著、
[経武(;名)の通称/号]通称;喜太郎/台右衛門、号;李満/(剃髪後;)順正、

F2949 **経威**(つねたけ・岡本おかもと/本姓;賀茂、経堅男)1785-1844*60* 山城愛宕郡上賀茂神社社家/国学;父門、
[経威(;名)の通称] 巳生丸/監物/下野介/下野守
常武(つねたけ・村田) → *箕山*(きざん・村田、藩士/儒/詩歌/俳) １６１４
C2940 **経忠**(つねただ・藤原ふじわら、通称;堀河中納言、師信男)1075-1138*64* 母;僧増守女、廷臣;1133参議、
1134大蔵卿/36中納言/37従二位、白河・鳥羽院近臣、1137出家、篳篥の名手、
歌人;1095郁芳門院前栽合・1121内蔵頭長実家歌合・34中宮亮顕輔家歌合参加、
続詞花・万代集入、勅撰7首;金葉(5首109/397/486/667/695)千載(1034)新勅(354)、
[年ごとに聞くとはすれど郭公ほととぎす声はふりせぬものにぞありける](金葉;夏109、
藤原長実卿家歌合;郭公)、
妻;藤原公実女(鳥羽天皇の乳母)
C2941 **経忠**(つねただ・近衛このえ、関白左大臣家平男/本姓;藤原)1302-52*51* 鎌倉南北期廷臣;1314従三位、
1330関白/従一位/左大臣/34氏長者/36関白、1337吉野に出奔/南朝の左大臣、
後醍醐天皇寵臣/1352賀名生で出家;翌日没、歌人;内裏歌会に参加/歌会を催(続草庵集)、
勅撰3首;続後拾遺417(;右大臣?)/新拾遺1561(;後猪熊前関白左大臣)/
新続古今1532(;堀河前関白左大臣)、経家つねいえの父、
[しのぶともただ一声はほととぎすさのみつれなきよはなかさねそ](新拾;雑1561)、
[経忠(;名)の号]堀河殿/後猪熊殿のちのいのくまどの/堀河前関白左大臣ほりかわのさきのかんぱくさだいじん
C2942 **恒忠**(つねただ・長谷川はせがわ/本姓;橘、初名;忠雄、通称;市右衛門)?-? 江前期播磨明石藩士;
兵学者:井上実下・長沼宗敬門、「兵要録補闕」著
G2953 **経忠**(つねただ・宮川みやがわ、号;如水)?-1847 肥後阿蘇郡の阿蘇神社の社家、
神道・国学・歌;宮川経輔門
C2944 **常忠**(つねただ・速水かやみ、山田以文2男)1791-1829*39* 速水常純の養子、京の廷臣;1805従六下、
1811右兵衛大尉/21正六下、故実家、国学/歌;小川布淑のぶとし[萍流]門、
「清流歌集」「積塵集」「梨陰文集」「萍流類集」「古今便覧」、「恒例臨時公事儀註図並考証」著、
[常忠(;名)の字/号]字;藤忠、 号;梨陰/清流、 常主の父
経尹(つねただ・藤原懐実)→ *経尹*(つねまさ/つねただ・藤原、歌人) Ｄ２９６４
経尹(つねただ・世尊寺) → *経尹*(つねまさ/つねただ・世尊寺、歌人) Ｄ２９６５
経雅(つねただ・荒木田/中川)→*経雅*(つねまさ・つねただ・中川/荒木田、神職/歌)Ｄ２９７０
経胤(つねたね・醍醐) → *兼潔*(かねきよ・醍醐、廷臣/右大臣) Ｏ１５４４
経種(つねたね・枝吉) → *神陽*(しんよう・枝吉えだよし、藩儒/勤王派)Ｑ２２０２
G2968 **経為**(つねため・山本やまもと、兼尚3男)1734-1806*74* 山城愛宕郡の神職;賀茂新宮神社禰宜、
国学;岡本清足門、
[経為(;名)の初名/通称]初名;兼為、 通称;虎之介/安芸介/越前守
C2945 **恒足**(つねたり・国友くにとも、通称;栄助)?-? 江後期文化1804-18頃秋元但馬守家中、
国学者:平田篤胤門、「義人録講説抄」「光禅寺蔵屏風合戦絵考」著
C2946 **常足**(つねたり・上野うえの、若瑞[泰輔]男)1790-1851*62* 洋学者/1822-39幸野家の嗣;御用時計師、
1839幸野俊平に譲渡;復姓/自宅敷地内に1839蘭方諸薬製錬所・硝石製錬所設置経営、
写真術も研究、「礫家秘函ほうかひかん」編1848「停車園器械図録」著、
[常足(;名)の幼名/通称/号]幼名;英太郎/雄七、 通称;俊之丞、
号;若竜/知新斎/潜翁、停車園
C2947 **常足**(つねたる・伊藤いとう、常成2男)1774-1858*85* 筑前鞍手郡古門村八剣(古物)神社神主;
1824父を継承、儒;亀井南冥門/国学;青柳種信門、松阪を訪れ本居大平に入門、
伴信友・足代弘訓と同門、自宅に開塾;国学・歌を教授、福岡藩学館創設に尽力、
桜井文庫創設に関与、御大典に際し従五位、香川景樹と交流、地誌編纂に意欲、
歌集「青雲歌集」「槙家集」、「雨夜集」「硯海和歌集」「万葉佳詞註解」「伊勢物語註解」、
「雨夜物語の燈」「韻学紀聞」「古寺徴」著、1837「国県和歌集」41「百社起源」編、40「山桜戸」、
1804-41地誌「太宰管内志」完成(全82冊);藩主黒田長溥に献上、「筑前風土記」編、
「陸奥準風土記」「出羽準風土記」「岡県集おかあがたしゅう」外編著多数、波多野庸成つねなりの甥、
[常足(;名)の通称/号]通称;魚沖なおき、 号;槇乃屋、 波多野弓子(歌人)の父
常太郎(つねたろう・秋山) → *和光*(かずてる・秋山あきやま、幕臣/歌人) Ｔ１５３７

常太郎(つねたろう・近藤) → *周円*(しゅうえん;法諱、社僧/歌人)　Ｎ２１８８
常太郎(つねたろう・水沢) → *定穀*(さだよし・水沢みずさわ、商家/国学)　Ｐ２０５３
C2948 **経親**(つねちか・平たいら、法名;浄空、時継男)?-?1322存 母;高階経雅女、廷臣;甲斐守/丹波守/蔵人頭、
1309正二位/13権大納言;伏見院近臣、17出家、前期京極派歌人;玉葉集撰集事務に関与、
1303三十番歌合・伏見院仙洞五十番歌合参加、為兼家歌合(京極為兼・為相・為子と4人)参、
1315京極為兼催「詠法華経和歌」参加、
勅撰6首;玉葉(306/1718/1771/2146/2407)風雅(346)、菟玖波集;1句入、親時・宗経の父
[月影のもるかと見えて夏木立しげれる庭に咲ける卯の花](玉葉集;三夏306)
C2949 **経親**(つねちか・大江おおえ/長井/家名;毛利、初名;泰秋、基親男)?-? 南北期武士/廷臣;左近将監、
従五下、歌人;続千載1771/新拾遺1637、藤葉集入、重経の父
[秋の夜のしぐれてわたる村雲にたえだえはるる山の端の月](新拾遺集;十八1637、
藤葉;秋238;第3句浮雲にたえだえのこる)
F2990 **恒親**(つねちか・田代たしろ、)1767-1823*57*　伯耆米子の医者/鳥取藩医、国学;本居宣長門、
衣川長秋と交流;長秋[やつれ蓑の日記]入、
[恒親(;名)の字/通称/号]字;子達、通称;元春、号;霞岳亭
F2980 **常躬**(つねちか・渋川しぶかわ、)1877-1904*88*　陸奥仙台藩士/国学者、
[常躬(;名)の通称/号]通称;十郎/助太夫、号;秋山/半日舎閑人
常親(つねちか・坂内/三浦)→ *親馨*(ちかか・三浦/坂内、儒者;藤樹学)２８６６
恒千代(つねちよ・西郷) → *近思*(ちかもと・西郷、藩家老/儒/国学) Ｃ２８０５
C2950 **常嗣**(つねつぐ・藤原ふじわら朝臣、藤原葛野麻呂7男)796-840*45* 母;菅野池成女浄子、
廷臣;820右京少進、式部大丞/右少丞/831従四下参議/勘解由長官/832下野守兼任/右大弁、
834遣唐大使:副使小野篁と争う、835左大弁/837大宰権帥、838入唐/839帰国;従三位、
隷書に精通/詩文が得意、「令義解」編纂に参加、詩;経国集入
C2951 **経継**(つねつぐ・中御門なかみかど、中納言吉田経俊男/本姓;藤原)1258-? 1326存 母;平業光女、
中御門家の祖、1301正四下蔵人頭/大蔵卿/1302(乾元元)参議/右大弁/03従三位左大弁、
造東大寺長官/1305権中納言/07正三位;太宰権帥兼任/08(延慶元)辞任/10従二位、
1318正二位/19(元応元)権大納言;20辞任/26(嘉暦元)出家;法名乗性じょうしょう、
大覚寺統の廷臣、歌:二条為氏門、
歌人;1319文保百首/23亀山殿七百首(36首入)・亀山殿百韻連歌参加、
1324石清水社歌合参加、藤葉集3首入、井蛙抄に評入、
勅撰42首;新後撰(413/472/903)玉(1306)続千(9首)続後拾(6首)風雅(345)以下、菟;8句入、
[秋風の身にしむ比のさよ衣うちもたゆまずたれを待つらん]、
(新後撰;秋413/擣衣、左大弁経継名)
[亀山殿七百首歌に、
時鳥しばしなすぎそ武蔵野はなきて入るべき山のはもなし](藤葉;夏115/前大納言)
C2952 **経嗣**(つねつぐ・一条いちじょう/本姓;藤原、号;成恩寺、二条良基男)1358-1418*61* 一条経通の養子、廷臣、
1368従三位/91従一位/94左大臣/関白、学問;父良基門、将軍義満により重用、日記「荒暦」、
義満の妻を准母とし義満を太上天皇とする計画;義満没のため頓挫、経輔・兼良かねよしの父、
1405「宸筆御八講次第」09「北山行幸記」16「石清水臨時祭次第」、歌人;1402観桜歌会を主催、
1407内裏九十番歌合参加/10「三席御会の序」筆、1412「詩歌晴御会」、自邸で屢々歌会、
勅撰10首;新後拾(923)新続古(9首57/222/780/969/1062/1364/1455/1890/2134)、
[あらち山越ゆべき道もゆきくれぬやたのの草に枕むすばん](新後拾遺;羈旅923)
経嗣(つねつぐ・中御門なかみかど)→ *経任*(つねとう・中御門/吉田、廷臣/歌)Ｃ２９５９
常次(つねつぐ・藤本) → *箕山*(きざん・藤本、鑑定/評判記/俳) １６１３
常次(つねつぐ・森) → *雪翁*(せつおう・森もり、藩士/文筆家) Ｋ２４７３
恒次(つねつぐ・山本) → *比呂伎*(ひろき・山本やまもと、和漢学/神職)Ｍ３７２４
C2953 **常綱**(つねつな・田代たしろ、上原うえはら恒堅男)?-1816 田代賢綱の養嗣子/1787家督;築後久留米藩士、
馬廻組/1797致仕、和漢学;不破守直門、歌を嗜む、「諸家系譜類」「続藩臣先祖書」著、
[常綱(;名)の幼名/通称/号]幼名;小吉、通称;八右衛門、号;友華
C2954 **常恒**(つねづね・板屋いたや, 三番叟早人さんばそうはやと, 江都園、山村やまむら吉衛門)?-1806 狂歌;スキヤ連

C2955 **常貫**(つねつら・久志本くしもと、常道男/本姓;度会わたらい)1808-72*65*　江末期江戸の神職/国学者、
「家譜編年録」編、[常貫(;名)の通称;]七十郎/隼人

G2954 **経連**(つねつら・宮川みやがわ/本姓;山部、旧姓;草部)1819-83*65*　肥後阿蘇郡の国学者;宮川経一門、
阿蘇郡阿蘇神社祠官宮川経輔の養子;神職、通称;駿河

C2956 **経晃**(つねてる・中川なかがわ、経晨つねあき男/本姓;荒木田)1650-1724*75* 伊勢宇治神職;1681内宮十禰宜、
1718一禰宜/正三位、漢学/国学に通ず、歌を嗜む、渋川春海と親交、「詠十二首和歌」、
「詠十二首和歌」「内人交名」/1681-1724「経晃卿神事日次記」1718-24「経晃日次記」外著多、
[経晃(;名)の通称]　虎之助/進之丞　、養嗣子;経林つねしげ

C2957 **常照**(つねてる・度会)　?-　?　江中期伊勢外宮権禰宜/歌、1720「神事和歌」編

C2958 **経任**(つねとう/つねのり・源みなもと、政職まさもと男)1000-29*30* 平安中期廷臣;従五下蔵人/内記/式部丞、
越後権守、政成の父、道長の勘気を蒙った逸話(大鏡入)、後拾遺978、
[かぎりあれば天の羽衣ぬぎかへて降おりぞわづらふ雲のかけはし](後拾遺集;十七978)
(巡爵に当り蔵人を辞して地下になることの歎き)

Q2994 **経任**(つねとう・藤原ふじわら、懐平3男)1000-1066*67* 藤原北家小野宮流、母;藤原佐理女(能書;父門)、
大納言藤原斉信養子;九条流、廷臣;1014右近権少将/従四下;後一条天皇即位後昇進遅滞、
1030蔵人頭/31正四下/35(長元8)参議/36従三位/理大夫・左兵衛督・検非違使別当を兼帯、
1054正二位/65(治暦元)権大納言、66(治暦2)没、
経任母(藤原佐理女);1056(天喜4)皇后宮寛子(四条宮)春秋歌合の右方清書

C2959 **経任**(つねとう・中御門なかみかど/家名;吉田、初名;経嗣、為経男/本姓;藤原)1233-97*65*　鎌倉期廷臣、
蔵人頭/右大弁/1269参議/75正三位/77(建治3)権大納言/正二位、太宰権帥、
為方・為俊・経守・定任・覚経・経恵・経子(遊義門院宣旨)の父、1283「経任卿記」/「熊野記」著、
歌人;1265白河殿七百首/文永2年歌合/78弘安百首/85八月十五夜三十首/93内裏御会参加、
勅撰15首;続拾(5首84/716/733/900/1258)新後撰(6首)玉(1403)続千(1918)新続古(2首)、
[今もまた昔ながらの春にあひてもの思ひなく花をみるかな](続拾遺;春84/百首歌)
[あはれをばいかにしのべと棹しかの老の寝覚の月に鳴くらむ](永仁内裏御会33)、
[経任(;名)の通称/法名]通称;中御門大納言、法名;昭悟
娘　→ *経子*(けいし・西園寺、遊義門院宣旨/歌)Ｏ１８１５

C2960 **常任**(つねとう・久志本くしもと/本姓;度会/源、度会季光or度会常季男)?-?　久志本家の祖;
平安後期1050-77頃伊勢外宮禰宜/五位、医術;勅宣で神宮医(以後子孫代々業を継承)、
「略用修製集」著、　[常任(;名)の通称]　兵部少輔

G922　**常任**(つねとう・平田ひらた、通称;出雲/市正)1811-34早世*24*　上総市原郡の神職・国学;平田篤胤門、
賀茂大神宮(のちの高瀧神社)神主

C2961 **経遠**(つねとお・甘露寺かんろじ/本姓;藤原、勧修寺かじゅうじ晴豊男)1576-1602早世*27歳*、
母;土御門つちみかど有脩女、甘露寺経元の養嗣子、廷臣;1599右中弁/1601蔵人頭/02正四上、
有職故実に精通、歌・連歌を嗜む、
「夢想之連歌百韻」、「経遠記」「経遠口宣案」「藤原経遠御教書記」著、
[経遠(;名)の法号]　禅空
常遠(つねとお・藪)　→　*慎庵*(しんあん・藪やぶ、藩士/儒者)　Ｄ２２４５

C2962 **経時**(つねとき・北条、3代執権時氏長男/泰時の孫)1224-46早世*23* 母;松下禅尼(安達景盛女)、
北条氏得宗家の一門/父の時氏が1230(寛喜2)早世;若狭守護職継嗣/34元服/41評定衆、
1242(仁治3)祖父泰時没;鎌倉幕府四代執権;訴訟制度改革、将軍藤原頼経を頼嗣に交代、
1243正五下/武蔵守/黄疸罹病;46(寛元4)執権辞職;出家(号;安楽)/没;
同母弟の時頼が5代執権

C2963 **常辰**(つねとき・久志本くしもと、常光つねみつ男/本姓;度会わたらい)1509-90*82* 代々伊勢外宮祠官・医者;父門、
織田信長に出仕/丹波守/従四上、1553「医学色葉」73「竹田家修合参種辨」85「山野集」著、
「服餌要集」編/「薬林撰葉集」「選葉集」「奥義集」「五急活法」「一流大事法」「家伝通外」外多、
[常辰(;名)の通称/号]丹波/丹波守、号;石心子度民

C2964 **常辰**(つねとき・隼士はやと)?-1685　京の俳人:立圃門、1660「こま(木間)さらひ」、
1660「慕棨ぼけい集」/1676「柾木葛まさきのかずら」編、1676西鶴「古今誹諧手鑑」入、
[雲水に菊をながすや鉾の先](手鑑/祇園会の菊水鉾;室町四条上ルより出す)、

[常辰(;名)の通称/号]通称;長兵衛、号;松風軒/白徳翁/親祐軒、常長の父、和及の師
C2965 常言(つねとき・御薗みその、常斌つねあき男/本姓;源)1767-1809*43* 京の鍼医;打鍼医の御薗家七代当主、1776主計助、1801正五下、1803落飾、国学:荒木田久老門、1800「風俗歌解」35「東遊歌解」、「亀石堂目録」編/「催馬楽歌解」著
常晨(つねとき・檜垣) → *常晨*(つねあき/つねとき・檜垣ひがき、神職) Ｂ２９４８
経則(つねとき・勧修寺) → *経則*(つねのり/つねとき・勧修寺かじゅうじ、廷臣/記録)Ｄ２９１９
C2966 経俊(つねとし・吉田よしだ/家名;勧修寺かじゅうじ/坊城、資経男/本姓;藤原)1214-76*63* 母;藤原親綱女、廷臣;1258参議/62権中納言/68正二位/71中納言/後嵯峨・亀山院政下の評定衆/伝奏、「経俊卿記」/1246「寛元四年賀茂御幸記」51「後深草天皇閑宮遷幸記」著、1267「京極宮佶子御産記」著、坊城ぼうじょう俊定の父
C2967 経逸(つねとし・勧修寺かじゅうじ/源、顕道男/本姓;藤原)1748-1805*58* 兄敬明の嗣;1779参議/左大弁、1789権大納言/正二位/90兼按察使;院執権/没後;贈内大臣、「口宣草」「色目類聚抄」編、「改元辨官要」編/「勧修寺経逸詠草」「権中納言拝賀経逸卿御記」著、1779「小除目奉行記」外著多、
[経逸(;名)の法号] 温恭院
F2931 毎敏(常敏つねとし・牛尾うしお、通称;大学)?-? 江中・後期;筑前早良郡の飯盛宮神社神主、国学者;本居宣長(1730-1801)門/歌人
C2968 常齢(つねとし・若松わかまつ、下代伊作[末広蘇来]3男)1814-74*61* 1822(8歳)宇和島藩士若松秩祐養子、1831家督嗣;宇和島藩士;見届役番代/36江戸詰、儒者:佐藤信淵門、下士救済の経世学研究、1841帰藩;56物産方役所開設に関与/66物産方惣差配/農政中心の藩政改革・殖産に尽力、「宇藩経済録」「改正秘策」著、
[常齢(;名)の幼名/通称/号]幼名;堅治、通称;総兵衛、号;霜幹
E2999 恒俊(つねとし・曲直瀬まなせ/本姓;越智)?-? 江後期;歌人、医者?、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[旅衣裾野のかたは雲晴れて行手の峰にかかる夕立](大江戸倭歌;夏621/旅夕立)
G2950 経年(つねとし・三輪みわ、甚九郎男)1840-1919*80* 尾張名古屋小牧の味噌製造業、国学;上松茂岳門、歌人/古筆鑑識に長ず、[杉蔭社]を創設;子弟教育、
[松上鶴 たつは皆もとの木すゑにかへりけり浦の松かけ汐やみつらん]、
(1912[明治45]歌御会始の選歌)、
[経年(;名)の通称/号]通称;知蔵/甚兵衛、号;杉廼屋/万年、法号;善良院
経俊(つねとし・源) → *隆俊*(たかとし・源みなもと、廷臣/歌人) Ｄ２６１８
経年(つねとし・中村) → *金水*(きんすい・松亭しょうてい、人情本) １６６３
経年(つねとし・賀茂) → *経春*(つねはる・賀茂/岡本、神職/国学) Ｄ２９２９
経年(つねとし・岡本/賀茂)→ *経春*(つねはる・賀茂、神職/国学/歌) Ｄ２９２９
経利(つねとし・橋本) → *順福*(のぶよし・橋本はしもと/橘、和学) Ｊ３５６１
G2969 常富(つねとみ・横田よこた、通称;喜一、篤門すずかど男)1806-82*77* 信濃伊那郡の国学者/歌人、国学・歌;森広主・市岡猛彦門(;父と同門)
常富(つねとみ・西村/平沢)→ *岡持*(おかもち・手柄、朋誠堂喜三二、黄表紙/狂歌) １４０９
常富(つねとみ・星野) → *葛山*(かつさん・星野ほしの、藩士/儒者) Ｈ１５７８
C2969 経朝(つねとも/つねあさ・世尊寺せそんじ/本姓;藤原、広橋頼資男)1215-76*62* 世尊寺行能の養子、廷臣;摂津守/左京権大夫/1261従三位、能書/歌人、1247後嵯峨院百三十番歌合/48宝治百首参加、1251影供歌合参加、1275「心底抄」、「児観音縁起」書、「右筆条々」著、雲葉集入、勅撰11首;続後撰(491)続古(1322)続拾(741/780)新後撰(1227)玉(852)続千(1446)以下、[ひさぎおふる清きかはらの霜の上にかさねてさゆるふゆの夜の月](続後撰;491/冬月)、
[経朝(;名)の通称/法名]通称;勘解由小路かでのこうじ/かげゆのこうじ、白河、法名;寂朝、経尹つねまさ・定成の父
息女も歌人 → *経朝女*(つねとものむすめ・世尊寺、新後撰入)Ｃ２９７３
C2970 常友(つねとも・遠藤えんどう、初名;慶澄/常季つねすえ、慶利男)1628-76*49* 美濃郡上藩主;1646父遺領相続、歌人:東常縁の末裔;常縁以来の古今伝授関係を伝承、

1670「蒙吟詠藻」(;自序)/「常友百首」「常友公集」著、
[常友(;名)の幼名/通称/法号]幼名;岩松、通称;内蔵介くらのすけ、法号;常敬院
C2971 **常知**(つねとも・山本やまもと、秋田屋)?-? 京の書肆、1666-72仮名草子・俳諧書を出版
C2972 **常朝**(つねとも・山本やまもと、重澄男)1659-1719*61* 肥前佐賀鍋島藩士;学者、藩主鍋島光茂に出仕、
小小姓/御歌書方/書物奉行/1692京役;三条西実教から光茂念願の古今伝授受領の為奔走、
1700光茂没後に出家隠棲、歌人、「愚見集」「軍書」「草案雑談」「常朝書置」「常朝餞別書」著、
1710-16武士道書「葉隠」を口述(:田代陣基つらもと編)、
[常朝(;名)の幼名/通称/号]幼名;不携、通称;市十郎/権之丞/神右衛門、号;旭山
G2962 **常倫**(つねとも・森川もりかわ、)1793-1855*63* 出羽久保田(秋田)藩士;寄合組、和学者、
[常倫(;名)の通称/号]通称;金吾/監物、号;眞斎
F2928 **経智**(つねとも・市岡いちおか、浅之助嶢智長男)1794-1867*74* 信濃飯田の荒町陣屋代官職、
国学・歌;植松茂岳門、祖父智寛・父嶢智も学者・歌人、師茂岳の飯田来訪時に宿舎を用意、
致仕後は美濃久々利に帰り家老職、三浦有藻・野村有信・中山茂樹・岡澤定秋らと交流、
真影流剣術・本草学を修得/茶道・生花を嗜む、
[経智(;名)の通称]通称;慶之助/九八郎/寛蔵、法号;大寛院
F2930 **常朝**(つねとも・上野うえの、通称;九八郎)?-? 紀伊和歌山藩士/国学/歌;加納諸平もろひら門
F2964 **常伴**(つねとも・久志本くしもと、本姓;度会)1817-84*68* 伊勢度会郡の伊勢外宮禰宜、
国学;足代弘訓門、
[常伴(;名)の通称/号]通称;縫殿ぬい、号;黙蛙もくあ
常朝(つねとも・西山) → *政樹*(まさき・西山/中里、国学者/歌) Ｌ４０８１
常智(つねとも) → *常智*(じょうち・伊庭いば、連歌) Ｋ２２８２
C2973 **経朝女**(つねとものむすめ・世尊寺せそんじ)?-? 鎌倉期歌人、世尊寺経朝(1215-76)の女、
新後撰129、兄弟に経尹つねまさ
[春ごとにさそはれてゆく花なれど桜や風のやどりしるらん](新後撰集;二129)
C2974 **経豊**(つねとよ・勧修寺かじゅうじ、経重男/本姓;藤原)?-1411 廷臣;1405参議正四上/06中納言、
1411従二位権大納言;その年没、歌:1407内裏九十番歌合参加/新続古今集1793
[あま人の衣ほすまもしら雪のつもればかかる袖のうらなみ](新続古今;十七1793)
C2975 **経豊**(つねとよ・中川なかがわ/本姓;荒木田)1676-1741*66* 伊勢神職;1705内宮十禰宜/30一禰宜正三位、
1738従二位、1730-41「経豊長官日次記」、「御公儀御書付之類」外記録多数、
[経豊(;名)の別名] (初名;)経賢/(次名;)経豊/(改名;)守親/のち経豊に戻す
G2955 **経猶**(つねなお・宮川みやがわ/本姓;山部、)?-1892 江後期;肥後阿蘇郡阿蘇神社の社家、
神道・国学;宮川慎門、
[経猶(;名)の通称/号]通称;大学、号;満瓊
C2976 **経豊**(つねとよ・広幡ひろはた、前秀さきひで男/本姓;源)1779-1838*60* 母;稲葉正諶女、近衛経熙の猶子、
1812権大納言/24内大臣/25従一位、1823-30「経豊公記」著、
[経豊(;名)の号] 瑞王華院ずいおうけいん、
C2977 **常名**(つねな・檜垣ひがき、貞丘男/本姓;度会わたらい)1765-1844*80* 伊勢宮後の神職;1794外宮十禰宜、
1817従三位/32一禰宜/35正三位/44致仕、歌/連歌、「常名日記」、没後「安政六年五百首」入、
[常名(;名)の通称/号]通称;勝弥/幸丸/左近/右兵衛、号;煨栗園わいりつえん
C2978 **経直**(つねなお・荒木田あらきだ/家名;粟野あわの)?-1385or1387? 伊勢宇治の神職/1366内宮五禰宜、
1381一禰宜/長吏、歌人;新後拾遺1516、連歌;菟玖波2句入、
[五十鈴河せぜの岩波かけまくもかしこき御世となほ祈るかな](新後拾;神祇1516)
F2970 **常尚**(つねなお・佐瀬させ、旧姓;笹原)1633-1709*77* 陸奥会津の蚕養神社祠官、佐瀬茂義の兄、
神道;服部安休・吉川惟足門/吉田家入門、常安つねやすの父、
[常尚(;名)の通称/諡]通称;大膳亮、諡;竜直霊社
経直(つねなお・勧修寺) → *経方*(つねかた・勧修寺かじゅうじ、廷臣/歌) Ｂ２９９０
経直(つねなお・立入) → *経徳*(つねのり・立入たてり、廷臣/記録) Ｄ２９１６
C2979 **経仲**(つねなか・源みなもと、藤原経通男)?-?1103存(高齢)母;源高雅女、源経房の養子/廷臣;右衛門佐、
出雲守/常陸介/皇后宮権亮/皇太后宮権亮、歌人;1076・77・81(3度)歌合主催、
1091藤原宗通家歌合参/96師時家歌合判者、夫木抄入集

C2980 **経長**(つねなが・源みなもと、道方4男/母;源国盛女)1005-71*67* 廷臣;1042正四下蔵人頭兼宮内卿、
1043(長久4)参議;宮内卿兼左京大夫/従三位/44右大弁兼任/46勘長官兼任/47正三位、
1050従二位/宮内卿/左大弁/勘長官/近江権守のち備後権守/58(天喜6)権中納言/宮内卿、
1063正二位/66宮内卿・皇后宮大夫兼任/68中宮大夫・大嘗会装束司長官/69権大納言、
皇后宮大夫兼任/1071(延久3)病で致仕;出家/没、
歌;1031彰子催「上東門院菊合」右講師、35「賀陽院水閣歌合」左講師/50麗景殿女御歌合参、
秋風集入集、郢曲・篳篥の名手、金葉334、経隆・経信の兄、
[君うしや花の都の花を見で苗代水にいそぐ心よ](金葉;別334、
藤原兼房[1001-69]が丹後守に下る時に詠)
母;国盛女 → *経信母*(つねのぶのはは・源、女房歌人) Ｄ２９０６
弟;経信 → *経信*(つねのぶ・源、詩歌人) ２９１１
息女 → *経長女*(つねながのむすめ・源みなもと、歌人) Ｃ２９８６

C2981 **経長**(つねなが・丹波たんば、初名;有経、経基男)?-? 1249存 鎌倉期医者:典薬頭/施薬院使、
兵庫頭/図書頭;昇殿許可、歌人、勅撰5首;続後撰(1152)続拾遺(1166)新後撰(1076)以下、
[をしへおくそのことのはをしるべにてよもの草木の心をぞわく](続後撰;雑1152、
本草をひらき見てよめる)

C2982 **経長**(つねなが・吉田よしだ/本姓;藤原、法名;証覚、為経男)1239-1309*71* 母;藤原定高女、鎌倉期廷臣、
1274蔵人頭/77参議/83権中納言/86兵部卿/88中納言/後深草上皇院政を機に致仕/正二位、
1301大覚寺統の後宇多院政で還任/03権大納言;出家、大覚寺統の亀山後宇多院の廷臣;
歌:二条為氏門、1276亀山殿和歌御会の講師、定房の父、
日記「吉続きちぞく記」、「弘安改元定記」著

C2983 **常長**(つねなが・大中臣おおなかとみ/家名;河辺、初名;満長、秀長男)?-? 神職;1521-28頃伊勢大宮司、
「大宮司聞書」著

C2984 **恒長**(つねなが・東坊城ひがしぼうじょう、初名;知長、長維男/本姓;菅原)1621-1700*80* 母;広橋総光女、廷臣、
1631文章得業生/従五下/侍従/33従五上/37正五下/39少納言/41従四下/42文章博士、
1644従四上/48正四下/54従三位非参議/58正三位参議・文章博士/61式部大輔兼任、
1662権中納言・式部大輔/権中納言辞任/式部大輔、68従二位/73正二位/74権大納言;辞任、
1676(延宝4)改名;恒長、詩歌、「朔旦冬至賀表」/1699「朔旦冬至賀表」著

F2962 **経永**(つねなが・吉川きっかわ、広逵男)1714-1764*51* 母;栗原忠良女の多喜(正理院)、1715父早世、
1715(正徳5/2歳)家督嗣;周防岩国6代領主、1718(競合2)百姓一揆/28柳井町で大火災、
1731岩国札発行/32干魃;年貢3分の1減収、1738(元文3)専横の家老吉川外記らの不正発覚、
1762干魃で1万石損失、1764(明和元)没;不遇の生涯、国学を修学、妻;中条信実女、
子なく養子経倫が家督嗣、
[経永(;名)の通称/法号]通称;亀二郎/左京亮、法号;遍照院

C2985 **庸修**(庸脩つねなが・平野ひらの)?-1776 江中期;播州印南郡平津村の医者/和漢学・天文・地理に関心、
暦算;大阪の大島芝蘭門;1729免許状を受、郷土史家、医業の傍ら開塾;子弟教育、
1762「播磨鑑」著、「播磨州輿地通志」編、
[庸修(;名)の字/通称/号]字;養甫、通称;才市郎/才一郎/佐一郎、号;歴陽/露竹/風帆堂
経永(つねなが・中川) → *経林*(つねしげ・中川/荒木田/沢田、神職)Ｃ２９２３

C2986 **経長女**(つねながのむすめ・源みなもと)?- ? 平安中期歌人、権大納言経長(1005-71)の女、
勅撰3首;続千載(371/1298)続後拾遺(775)
[もの思はぬ人はよそにやながむらん憂き身ひとつの秋の夕暮](続千載集;四秋371)

C2987 **常夏**(つねなつ・久志本くしもと、常典男/本姓;度会わたらい)1755-1827*73* 江戸の医者/国学/歌人、
家集「芸窓輯藻うんそうしゅうそう」(門人小笠原長保[一指]編)、1782「和歌玉柏」99「六義口訣」、
1830「古今六義口訣」、「詠歌一体密註」編、「鞆考」「玉箒」「永正天文外宮遷宮記」外著多数、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[さらでだに木陰すずしき遣水にひかりさしそふ庭のかがり火]、
(大江戸倭歌;雑1993/源氏物語の篝火)、
[常夏(;名)の通称/号]通称;織部/外記、号;穆如斎/為春菴/芸窓翁うんそうおう

C2988 **経成**(つねなり・つねしげ・高階たかしな、業敏男)1021-99*79* 廷臣;常陸・筑前守/正四下、

歌人;1073後三条院歌会参加、金葉Ⅱ68 、
[桜咲く山田をつくる賤しづの男おはかへすがへすや花を見るらん](金葉;春68、
田を鋤返すと繰返すを掛る)
C2989 **経業**(つねなり・藤原ふじわら、信盛男)1226-1289*64* 廷臣;1237文章得業生/越後権少掾/讃岐守/蔵人、
東宮学士/皇后宮大進/1273内蔵頭/蔵人頭;74住吉社の告訴で解任/赦免;式部大輔、
12777参議/78致仕/84従二位/89出家;翌日没/大蔵卿/加賀権守、1275「賀茂祭絵詞」著
C2990 **経成**(つねなり・勧修寺かじゅうじ、初納;経興、経豊男/本姓;藤原)1396-1437 母;藤原隆冬女、廷臣;
1420参議/右大弁/右衛門督/正四下/21中納言従三位/24権大納言/37従二位、
歌:新続古今1708
[影やどす雲のいづくはしらねどもみるほどもなき宵の稲妻](新続古今;十七1708)
C2991 **常也**(つねなり・小島こじま、通称;新三郎、屋号;小島屋)?-1718 安藝広島の白神組の町役/地誌家、
1702「厳島道芝記いつくしまみちしばのき」7巻著
C2992 **経音**(つねなり・大炊御門おおいみかど、経光男[実は孫]/本姓;藤原)1682-1714*33* 母;細川立孝女、廷臣;
1696従三位/1709権大納言/中宮大夫/12正二位、「経音つねなり卿記」、「高倉家秘説装束抄」編、
1709「中御門天皇御元服伝奏事」11「天皇御元服記」、法号;後随心自在院慧眠普照
G2916 **庸成**(つねなり・波多野はたの、旧姓;伊藤)1741-1817*77* 筑前鞍手郡の生、国学者、伊藤常成の兄、
筑前遠賀郡山鹿村の総社狩尾かりお神社祠官、伊藤常足つねたるの伯父、波多野仲子の父、
養嗣子;黒山春樹はるき、
[庸成(;名)の通称/号]通称;飛騨守、 号;月波楼
C2993 **常成**(つねなり・速水はやみ、房常男/本姓;藤原)1749-97*49* 廷臣;1775従六下/滝口/77左衛門大尉、
1790正六下、「前王廟陵記」補填(1778刊)
C2994 **恒成**(つねなり・素速斎そそくさい)?- ? 江後期江戸の戯作者、
1805「怪談四更鐘」/08「福来笑門松」/09「奇談立山記」著、樹下石上じゅげせきじょうと同一か、
[素速斎恒成(;号)の別号] 素速斎可不速
樹下石上と同一? → *石上*(せきじょう・樹下じゅげ、浄・戯作) Ｄ２４６０
C2995 **恒成**(つねなり・瀬川せがわ/山川、名;貞卿)?-? 江後期天保1830-44頃京の戯作者:暁鐘成門、
洒落本・読本、1832「傾城情史」33「変宅論」/34「嵐峡花月奇譚」「滑稽鬼霊論」、
1835「四谷怪談」/36「意気客初心」「小夜衣真砂物語」/41「三韓退治図会」著、
[恒成(;号)の字/通称/別号]字;和忠、通称;美濃屋文蔵、
別号;澄成/鶴山逸人/隔梅山(散)人/関亭かんてい京鶴/山月庵京鶴/山月庵主人
C2996 **常成**(つねなり・鳥越とりごえ、柏野常興男/鳥越家を継嗣)1766-1840*75* 備中上秦村の出身;足守藩士、
国学:藤井高尚・篤胤門、歌;1819「富士百首」、「初ならひ」「東行梅鶯日記」「葵峰遺事」著、
[常成(;名)の通称/号]通称;新助/新介、 号;橿斎きょうさい/橿園、 法号;詞林院
F2997 **経成**(つねなり・竹内たけうち/葛城、本姓;日野)1818-80*63* 大隅始羅郡の加治木島津家出仕;薩摩藩士、
国学;平田篤胤門、1849(嘉永2)[高崎くずれ]に連座予想;黒田長溥を頼り福岡藩に亡命;
葛城彦一と改名/1862(文久2)赦免帰郷;藩命で上京;勤王活動、
近衛忠房夫人(光蘭院)に出仕、
小松帯刀・大久保利通の命で九州・長州を視察;「葛城彦一日記」著、
[経成(;名)の別名/通称/変名]別名;重任/彦一(・葛城)、通称;弥次郎/伴右衛門/五百部、
変名;内藤助右衛門
F2910 **恒成**(つねなり・安濃あの、別名;固成)1833-1899*67* 出羽能代の薬舗主人;屋号川口屋、
国学者;鈴木重胤門、のち白川棚倉の都々古別つつこわけ神社(陸奥一宮)の宮司
常成(つねなり・植木) → *悦*(えつ・植木うえき、藩士/兵学者) Ｅ１３０８
C2998 **常主**(つねぬし・橘たちばな/姓かばね;朝臣、橘嶋田麻呂しまだまろ男)787-826*40* 母;淡海三船女、
橘奈良麻呂の孫、平安初期廷臣;817従五下/21従四下/22参議/弾正大弼/下野守、
「弘仁格式」編纂に参画、世評に焼身自殺をしたと伝える、詩;経国集入
恒之丞(つねのじょう・津田)→ *通明*(みちあき・津田/山田、藩士/馬術家)Ｂ４１０７
恒之丞(つねのじょう・久保)→ *正臣*(まさおみ・久保くぼ、藩士/国学者) Ｐ４０３６
C2997 **恒之進**(つねのしん・津島つしま、名;久成/国倫、八兵衛照成男)1701-54*54* 越中高岡の酒屋の生、
上京/本草学;松岡恕庵門;塾の学頭、毎年大阪で本草会を催、戸田旭山と親交、

「攻五本草」「李時珍本草綱目觸けい」「和漢草木状」「葵峰遺事」著、
木村[巽斎]兼葭堂けんかどうの師、
[恒之進(;通称)の字/別通称/号]字;桂庵、別通称;八良右衛門、
号;彭水/如蘭/洞虚とうきょ/桂堂、法号;大清院
常之進(つねのしん・山田/津阪)→*東陽*(とうよう・津阪/菅原/山田、儒者)Ｈ３１８２
常之進(つねのしん・宮崎)→　*筠圃*(いんぽ・宮崎みやざき、儒者/書画)　Ｅ１１７０
常之助(つねのすけ・名村)　→　*貞五郎*(さだごろう・名村なむら、通事)　Ｉ２０１６
2911　**経信**(つねのぶ・源みなもと、道方男/母;源国盛女)1016-97*82*　経隆・経長の弟、俊頼の父、廷臣;1067参議、
1077正二位/91大納言、94大宰権帥;95任地下向;当地没、法令故実に精通/詩人・歌人;歌論、
管弦(琵琶)・書画を嗜む、「経信卿記」「伊勢物語知顕抄」「都督亞相草」「琵琶譜」「帥記」著、
詩;1051「侍臣詩合」参加56「殿上詩合」参加/「本朝無題詩」20首入集、続文粋入、
歌;1049/78内裏歌合参加、後朱雀～堀河朝の歌会歌合で活躍、新歌風を主張、
1089四条宮扇合・94高陽院歌合判者、「難後拾遺」「後拾遺問答」著/家集「大納言経信卿集」、
勅撰85首;後拾遺(6首30/450/725/810/1052/1063)金(27首)詞(171)千(445)新古(19首)以下、
清輔[続詞花集]8首・雲葉集10首入、母も歌人;(→　経信母つねのぶのはは・源)、
[夕されば門田の稲葉おとづれて芦のまろやに秋風ぞ吹く](金葉二度本173;梅津で題詠)、
[経信(;名)の通称]　帥大納言、桂大納言、都督亞相、通時・基綱・俊頼の父
母も歌人　　→　*経信母*(つねのぶのはは・源みなもと、道方室/勅撰歌人)Ｄ２９０６
C2999　**経宣**(つねのぶ・中御門なかみかど、法名;乗信、経継男/本姓;藤原)1279-1340*62*　母;藤原隆教女、廷臣;
左衛門佐/蔵人頭/1320参議/35従二位/大覚寺統廷臣、38出家、歌人;1303後二条院歌合参、
1307歌会始参、藤葉集入、勅撰5首;続千載(1603)新千(1657)新拾(2首)新後拾(1246)、菟入
[つらさをも思ひとがめぬ我が身こそせめてうらむる心なりけれ](続千;恋1603)
[永仁七年(1299)四月後宇多院に三首歌講ぜられける時　待郭公を、
有明のつれなき月のかげよりもなほ待出でぬほととぎすかな](藤葉;夏101)
Q2987　**常庸**(つねのぶ・度会わたらい、)?－　?　鎌倉南北期;伊勢神職/外宮禰宜/神主、
歌;1334(建武元)度会朝棟亭歌会参加(3首)、
[くもりない影もしられて五十鈴河清き流れにすめる月かな](朝棟歌会;28)
[身ひとつにかぎらぬ秋の哀れかとよその涙の袖をとはばや](同;30)
D2900　**常信**(つねのぶ・高向たかむこ)?－　?　戦国期16ct初伊勢の神職;伊勢外宮神官、
俳人:荒木田守武(1473-1549)らと「何袋四吟百韻」
D2901　**常信**(つねのぶ・檜垣ひがき、初名;常誠、貞元男/本姓;度会わたらい)?-?　室町後期伊勢神職;
1509外宮十禰宜;従五下/48五禰宜;従四下/60家督を息子貞徳に譲渡、連歌;宗長宗牧門、
1550宗養と両吟百韻、1592紹巴と「何船百韻」、守武晨彦等何袋四吟百韻に参加
D2902　**常信**(つねのぶ・狩野かのう、尚信男)1636-1713*78*　京の生/江戸の絵師:父門、木挽町狩野家2世、
妙手の称、奥絵師;法眼/法印(中務卿法印)、古画鑑定に精通、黄檗参禅;隠元隆琦門、
歌:十首和歌/百首和歌、「百馬図巻」「架鷹図」「八景図」「徒然草図」「唐八景図」「草花図」、
「日光八景図」「四季山水図」「草花魚貝虫類写生図」「富岳閣図」「蘭亭図」外著多数、
歌;茂睡[鳥之跡]入/1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、1713(正徳3)没、
[多古の浦の汀の松の隙ごとに打出づる波やふぢの初花](茂睡[鳥の迹]春182)、
[玉章たまづさのこたへは猶ぞ待たれけるかき絶よとは恨みやりても]、
(若むらさき;148/かき絶えに書きを掛る)、
[常信(;名)の幼名/通称/号]幼名;三位、通称;右近、
号;**養朴**/古川叟/耕寛斎/青白斎/紫薇翁/塞雲子/朴斎/弄毫軒/潜屋、法号;常心院
F2921　**常信**(つねのぶ・伊藤いとう/旧姓;岩淵)1676-1758*4*　筑前鞍手郡古門村八剣(古物)神社祠官、
国学;埴生清生門、「倉久村春日神社社記」著、伊藤道保みちやすの師、
[常信(;名)の通称/号]通称;権太夫/和吉/淡路守
D2903　**常陳**(つねのぶ・久志本くしもと、常惇男/本姓;度会わたらい)1732-91*60*　伊勢神職;1754外宮禰宜/一禰宜、
1781従三位/85正三位、1785-91「常陳卿日次」著
[常陳(;名)の通称]　鍋次郎/左門
D2904　**常宣**(つねのぶ・河内こうち、山崎やまざき成尭男)?-?　河内常度の養嗣子、江後期幕臣:1791大番、

大坂御鉄炮奉行(570石)、「徳川家浪華置附大砲図」著
[常宣(;名)の通称]冬次郎/半兵衛/左太郎
G2914 **庸信**(つねのぶ・西原にしはら、通称;民右衛門)?-1861　近江膳所藩士、歌人;[鳰のうみ]入
D2905 **常庸**(つねのぶ・久志本くしもと/本姓;度会わたらい、常全男)1817-88*72* 伊勢神職;1826外宮禰宜/50従三位、
1862外宮一禰宜/従二位、1864-65元治の疑獄連座、歌;足代弘訓門、
「伊勢公卿勅使部類記」1862-68「常庸卿日次」著、
[常庸(;名)の字/通称/号]字;登卿、通称;睦九ぼくきゅう/左門、号;聴鶯
G2945 **常宣**(つねのぶ・三輪みわ、通称;箭次せんじ)1833-1908*76* 上野勢多郡下川淵村の国学者
G2958 **常信**(つねのぶ・宮島みやじま/本姓;林)1842-1912*71*　信濃伊那郡吉田村の神職、国学者、
国学;平田銕胤門、
[常信(;名)の通称/号]通称;為三郎/為之進/美鈴、号;三美/一廼舎
常忍(つねのぶ・富木とみき;俗世)→　*日常*(にちじょう・常忍じょうにん、日蓮僧)Ｃ３３３２
経信(経言つねのぶ・吉川)→　*広家*(ひろいえ・吉川きっかわ、武将/領主/連歌)Ｆ３７５３
常信(経信つねのぶ・堀/小川)→　*原甫*(げんぽ・堀/小川、書肆)　Ｊ１８４７
恒信(つねのぶ・速水)　→　*春暁斎*(初世しゅんぎょうさい・速水はやみ、商家/読本)Ｊ２１４０
恒信(つねのぶ・及川)　→　*良寿*(よしひさ・及川おいかわ、医者/国学)　Ｇ４７３３
経延(経信つねのぶ・中川)→　*経冬*(つねふゆ・中川/荒木田、神職/歌)　Ｄ２９６１
D2906 **経信母**(つねのぶのはは・源みなもと、源国盛女、源道方の室)984?-1056?*73?*　母;源致書女、
経信・経隆・経長の母、女房歌人;道長女に出仕?;出羽弁と交流、作文・琵琶・琴を嗜む、
「経信卿母集」、俊頼髄脳入、後葉集・続詞花集・万代集に入、
勅撰4首;後拾遺324/金葉Ⅲ74/新古今1399/続古今410、
[明けぬるか川瀬の霧の絶え間より遠方をちかた人の袖の見ゆるは](後拾;秋324/山里の霧)
[経信母の通称]大納言経信母/帥大納言母そちのだいなごんのはは、(薙髪後;)高倉尼上たかくらのあまうえ
D2907 **常則**(つねのり・飛鳥部あすかべ、常史)?-?　平安中期村上天皇期の宮廷絵師:大和絵の様式形成、
955「宸筆法華八講」経巻表紙絵/964清涼殿西庇南壁の「白沢王像」画(;村上天皇御記入)、
972歳末御祓に牛・馬・犬・鶏等を製作、宮中の屏風絵を描く;(栄花物語・源氏物語入)
D2908 **経則**(つねのり・中原なかはら)　？－　？　平安後期官人;五位/東市正/白河殿預、
歌人;金葉集Ⅱ254(Ⅲ256)、
[明日よりは四方の山辺の秋霧の面影にのみたゝむとすらん](金葉;三秋254/九月尽)
G2986 **経範**(つねのり・藤原ふじわら、大学頭孝範[1158-1233]男)?-?　鎌倉期廷臣;左衛門大尉/文章博士、
式部大輔/従三位/侍読、宗範(大内記)・保範(丹後守)の兄弟、
茂範(文章博士/従二位侍読)・明範(右京権大夫/従二位/1314没)・諸範・淳範の父、
詩人;1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勧進)に詩入、
[一万八千東土月　雨吹撃演上方雲](追善詩歌;3/序品)
D2909 **経教**(つねのり・九条くじょう、道教男/本姓;藤原)1331-1400*70* 母;藤原季衡女、廷臣;1338従三位、
左大将、1347右大臣/49左大臣/55従一位/58関白/氏長者/95出家、
歌:1356延文百首/永和百首入、1367新玉津島歌合参加、
勅撰13首;風雅(1072)/新千(3首)新拾(2首)新後拾(5首)新続古(2首)、
[たまさかの人めのひまをまちえても思ふばかりは契りやはする](風雅;恋1072)、
[経教(;名)の法名/法号]法名;祐円、　法号;後報恩院　、忠基・教嗣の父
2912 **常矩**(つねのり・田中たなか、名;忠俊)1643-82*40*　京俳人:季吟門/1677頃より談林;京談林の実力者、
1673「誹諧捨舟」編、1677「蛇之助じゃのすけ五百韻」編;のち[蛇之介じゃのすけ常矩]と称される、
1677「敝帚やぶれははき」「俳諧二百韵」編、78「ねざめ」編/79「誹諧塵取ちりとり」編/80「花見三吟」著、
1681「俳諧雑巾」「雛諺雑巾」編、追善「打曇砥うちくもりと」秋風編、跡目;宗雅(改号;常牧)が継承、
[蛇じゃのすけがうらみの鐘や花の暮](蛇之助五百韻:発句/大酒飲にはまだ飲足りない)、
[常矩(;号)の通称/別号]通称;甚兵衛/(剃髪後;)眞斎、別号;敝帚子へいそうし
D2910 **恒徳**(つねのり・木梨きなし、藩医木梨尚盛男)?-?　江前期紀州藩士;1669別家を立てる、詩人、
1680「韋絃録」-82「古今武経」、「政策一編」(;徳川光圀に称賛された)、「軍法武士鑑」著
[恒徳(;名)の字/通称/号]字;遂成、通称;文左衛門、号;薬翁
D2911 **経憲**(つねのり・大中臣おおなかとみ、初名;経光、時氏男)1648-1729*82* 大中臣経元の養子/春日社権神主、

1719従三位/25春日社神主/正三位、「春日社年中行事」著
D2912 **常範**(つねのり・井口いぐち)　？－　？　江前期京の医者;前田甚右衛門門、二条通で開業、
のち江戸で水戸家に出仕、天文研究、1689「天文図解」編、
[常範(;名)の通称]　鮫屋三五郎/井口新七
D2913 **常典**(つねのり・久志本くしもと/本姓;度会わたらい)?-1785　江戸の医者/歌人、
1756「続類題林和歌集」/62「神国問答」82「玉柏」、「初学題林和歌集」著
[常典(;名)の号]　然住軒、常夏つねなつの父
D2914 **常典**(つねのり・檜垣ひがき、貞根男/本姓;度会わたらい)1750-1804*55*　伊勢の神職/広辻千弘の養子;
不縁のため復姓;実家を継承/1767外宮十禰宜/従三位/1801三禰宜、「称号譜」著、
[常典(;名)の別名/通称]別名;常影(初名)/常憲、通称;益二郎/弘屋/常松/大炊/主税
D2915 **庸徳**(つねのり・奥田おくだ/初姓;穎川えがわ)1753-1811*59*　京五条大黒町の質商、陶工、
天明1781-89頃京焼で磁器焼造を試行、「相宅小鑑」編、名工青木木米・欽古堂亀祐の師、
[庸徳(;名)の通称/号]通称;茂右衛門、号;陸方山/穎川えいせん、屋号;丸屋、法号;修善庵
D2916 **経徳**(つねのり・立入たてり、初名;経直/号;賀楽狂夫、経康男)1755-1824*70*　廷臣;禁裏上御倉職、
正五下、中務大丞/大和守/1787悠紀所行事/1801致仕、1807吉迪「睡余小録」付録:編跋、
「立入左京亮宗継たてりさきょうのすけむねつぐ入道隆佐記」編
参考　立入左京亮宗継 →　*宗継*(むねつぐ・立入たてり、廷臣)Ｂ４２６３
D2917 **典則**(つねのり・根岸ねぎし/本姓;中原/修姓;岸、喜右衛門男)1758-1831*74*　武州青梅の青梅縞問屋、
儒・詩;井上金峨・中原章門、禅・歌:澄月・日野資枝門、晩年は家業を養子に譲渡;
禅と歌に専念、「嶰谷かいこく詩集」「渓雲軒和歌集」「渓雲軒随筆」「渓雲軒歌日記」「禅海珍宝」、
「伊勢物語抄」「千載和歌集抄」「続千載渓雲抄」「新千載渓雲抄」「続一花五葉」「扶桑蒙求」、
「俳諧糸衣渓雲抄」「釈教和歌集渓雲抄」「禅偈礎」「老懐百首」「嶰谷先生老懐百首」外著多数、
[典則(;名)の幼名/初名/字/通称/号]幼名;文太郎、初名;鳳質、字;文卿、
通称;喜右衛門/太平、号;嶰谷かいこく/渓雲軒けいうんけん、法号;鳳質文卿居士、
齋藤途興みちおきの師
E2981 **彝倫**(つねのり・杉谷すぎたに、別名;彝/字;正直/通称;参河)1768-1843*76*　肥後玉名郡分田ぶんだ村神職;
分田村八幡宮の祠官、国学;伊勢松坂の本居宣長門
G2905 **経竿**(つねのり・中川なかがわ、)1770-1844*75*　伊勢度会郡の内宮禰宜、国学;本居春庭門
[経竿(;名)の通称]松二良/靭負ゆげい ,☆竿;算さんの略字(10画)
D2918 **恒徳**(つねのり・奈須なす、田沢保久男)1774-1841*68*　母;関本長幹女、幕医奈須恒隆の婿養子、
江戸の医者;初め多紀元徳門/のち曲直瀬まなせ道三門;古医方に精通、1796家督;幕医継承、
書誌学的研究;医史研究に貢献、「医官要編」「医籍攷」「豹斑録」「玄盅漫筆」「玄盅漫筆」著
「捧心方」「大同類聚方」「万安方」など室町時代以前の医書の校訂、
18581858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[枯れわたる檜の葉風邪の音にだにさびしき秋の声は有りけり](大江戸倭歌;秋1010)、
[恒徳(;名)の字/通称/号]字;士常、通称;宗三/玄竹/玄盅げんちゅう、号;柳村、法号;久昌院
F2938 **恒徳**(つねのり・大塚おおつか、)1776-1841*66*　近江彦根藩士/歌人、若年時は放蕩生活、
のち改心;父母への不孝を嘆き神仏へ参詣、歌;近江歌人伝・寿に入、
[恒徳(;名)の字/通称/号]字;子行、通称;萩右衛門、号;芹水軒
F2911 **典則**(つねのり・青木あおき)1778-1840*63*　豊前小倉の里正、国学・歌;秋山光彪門、絵師、
[典則(;名)の字/通称/号]字;君貼、通称;植吉、号;左萍さへい
D2919 **経則**(つねのり/つねとき・勧修寺かじゅうじ、良顕つねあき男/本姓;藤原)1787?-1836*50?*　廷臣;1821参議、
正四上左大弁/1825権中納言/32正二位、「執奏別記」「新嘗祭小忌辨備忘」著
D2920 **常典**(つねのり/つねすけ・山田やまだ/本姓;源、平井弥兵衛男)1808-63*56*　伊予吉田藩士;世子侍読、
家督を弟に譲渡、浪人;諸国遊歴、江戸で国学・歌学:本間游清・村田春門・清水浜臣門、改姓、
本居内遠門、紀州藩家老水野忠央の知遇で和歌山藩校の督学、[丹鶴叢書]編纂参画;主宰、
1845「源氏物語系図」/54「千木のかたそき」、「蕗園詠草」「臣木舎集」「江戸新名所百首歌」著、
外編著多数、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[惜しけれどためしばかりをかへじとて春の衣に別れけるかな](大江戸倭歌;384更衣)、

[春日野の草の若葉にゆふかけて遊ぶ心は神ぞ知るらん](現存百人一首;44)、
[常典(;名)の別名/通称/号]初名;晋、通称;晋七/常介、号;蕗薗ろえん/臣木舎おみきのや/藍江/楓江
F2934 **常則**(つねのり・遠藤えんどう、)1812-1875*64* 近江野洲郡野洲町の酒造業;富商/野洲晒屋の1、
歌人;[鳰のうみ]入
F2941 **典則**(つねのり・大野おおの、旧姓;宮島)1813-65*53* 飛騨下呂の生/大野家を継ぐ;飛騨高山住、
能書家/国学・歌人;山崎弘泰門;筆頭、師没後遺児弓雄に田中大秀からの文台を継がせる、
末遠すえとおの父、
[風によす/松に吹くならひ有とも白雲のよそに聞くらし夕ぐれの風](短冊)
[典則(;名)の通称/号]通称;小四郎、 号;真葛園大養父
D2921 **常範**(つねのり・大淵おおぶち、栗本友玄男)1816-89*74* 大淵家を嗣ぐ/江戸の本草学:祖父栗本丹洲門、
幕府医官;1864侍医/法眼/82和漢学医学講究所の温知社薬物会開設に参画、
1838「皇和魚譜」校訂/59「麕麝考しょうじゃこう」著、
[常範(;名)の字/通称/号]字;孟鴻、 通称;祐玄、 号;棟庵
G2931 **常徳**(つねのり・古久保ふるくぼ、通称;文右衛門、直之男)1820-1903*84* 紀伊日高郡の国学者、
資愛すけちかの兄/実行さねゆきの父
D2922 **常典**(つねのり・細川ほそかわ、常之男/本姓;源)1823-? 江後期廷臣;1851蔵人/左衛門権少尉、
禁色昇殿;正六上、1852「加茂臨時祭私記」53「前新朔平門院七回御忌懺法講」著
D2923 **恒憲**(つねのり・志村しむら)1823- 1898*76* 仙台の和算家/家塾経営、維新後は小学校教員、
「奇説集」編、「天文雑集」「算法諸約術集成」「晴雨日記」、1846「授時暦推歩」56「運気造」著、
[恒憲(;名)の通称] 将輔/晋平
D2924 **恒敬**(つねのり・前田まえだ、別名;晴見、恒風男)1829-70*42* 金沢藩士;1854父の知行の一部を拝領、
小松城番/寺社奉行/家老/若年寄、「前田将監家系」「作州殿御配置御願之一件留」著、
[恒敬(;名)の通称] 将監、恒知(金沢藩年寄前田直知の四男)を祖とする
D2925 **経徳**(つねのり・高階たかしな、経由男)1834-88*55* 廷臣;1854従六上/筑前介、維新後宮内省侍医、
「禁中行事記聞」編/「禁中行事記聞下巻 別録勅使方本度帳」編
G2940 **典則**(つねのり・松平まつだいら、川越藩主松平斉典[1797-1850]4男)1836-83*48* 母;お登勢、
長兄典常早世;1846世子/49典則に改名、1850(嘉永3)父没;家督嗣;武蔵川越藩5代藩主;
従四下大和守、相模湾の警備;1853ペリー来航時の警護、1854(19歳)眼病のため隠居、
1857(安政4)静寿斎と号す;三の曲輪で隠居生活ながら[前君様]として藩政に参与、
歌人;尾高高雅門(1842藩に歌で出仕)、藩主松平直克(直侯養子)の上野前橋藩転封に随行、
尾高高雅も前橋に随従、1872前橋城が前橋県庁となり典則は柿の宮に移住/77東京住、
益・鋭・基則・久子・八重の父/直侯なおよし(徳川斉昭8男/6代川越藩主)の養父、
[典則(;名)の初名/通称/号]初名;典術つねやす、 通称;誠丸、 号;静寿斎
G2966 **典則**(つねのり・矢部やべ、通称;幾太郎、彦右衛門男)1838-1907*70* 江戸生/尾張名古屋藩士;
1859(安政6)家督嗣;禄2百石/馬廻組/小納戸/膳番/使番格、
漢学;細野要斎門/国学・歌;上田仲敏(御野みぬ)・植松茂岳・間島冬道門、宝生流謡曲を嗜む、
維新後;北地部宰に属す;小隊司令/神職、晩年;東京住;大日本婦人会歌文を添削、
1907(明治40)播磨高砂の息子直彦宅に没す
F2935 **経教**(つねのり・遠藤えんどう/本姓;藤原、彦太右衛門男)1840-1917*78* 越後蒲原郡の神職、
維新後;1872石船神社祠官、81神宮教院教部官;村を巡回し神道教化に尽力、
1912神宮神部署主事補;新潟支署詰、直日会を設立;神道講話を実施、歌会を主宰、
1870上京し国学;平田鉄胤門(篤胤没後門)、東久世通禧・三室戸和光・千家尊福と交流、
「万葉集講録」30巻著、
[経教(;名)の通称/号]通称;栄八、 号;陽崖堂/藤廼舎
G2911 **常経**(つねのり・成尾なるお、通称;哲之丞)1850-77戦死*28* 薩摩鹿児島藩士、歌;是枝生胤門、
西南戦争に西郷軍の三番大隊十番小隊半隊長として参加;1877(明治10)戦死

元典(つねのり・竹尾/石野)→ *万彦*(まひこ・佐々木/石野、幕臣/歌人)Ｌ４０００
経任(つねのり・源) → *経任*(つねとう・源、廷臣/歌) Ｃ２９５８
経徳(つねのり・岩井田) → *尚徳*(ひさのり・岩井田いわいだ、神職/国学)Ｉ３７５５
恒徳(つねのり・太田代) → *東谷*(とうこく・太田代おおたしろ、儒者) Ｅ３１１４

恒徳(つねのり・伊藤)　→　一葉(いちよう・千菊園、狂歌作者)　Ｇ１１５５
常憲(つねのり・檜垣)　→　常典(つねのり・檜垣/度会わたらい、神職)　Ｄ２９１４
常矩(つねのり・高宮/最上)→　徳内(とくない・最上もがみ、探検家/紀行)Ｌ３１２５
常訓(つねのり・新渡戸)　→　十次郎(じゅうじろう・新渡戸にとべ、藩士)　Ｘ２１６０
常徳(つねのり・細川)　→　常之(つねゆき・細川/源、廷臣/記録)　Ｅ２９１６
常徳(つねのり・檜垣/久志本)→　末美(すえよし・福井ふくい/度会、神職)　Ｆ２３７６
常徳(つねのり・相木)　→　紫溟(しめい・相木あいき、藩士/儒・詩人)　Ｖ２１８２
常範(つねのり・佐藤)　→　一米(いちべい・五大庵ごだいあん、神職/俳)　Ｊ１１１８
恒八(つねはち・真藤)　→　利明(としあき・真藤しんどう、藩士/神職/歌)Ｍ３１０１
常八(つねはち・松岡)　→　清信(きよのぶ・松岡まつおか、和算家/同心)Ｑ１６１２
常八(つねはち・西坂)　→　成庵(せいあん・西坂にしざか、藩儒/詩文)　２４５６
常八(つねはち・板垣)　→　信人(のぶひと・板垣いたがき、菱花園/商家・狂歌)Ｈ３５３８
常八郎(つねはちろう・小南)→　栗斎(りつさい・小南こみなみ、藩儒)　Ｂ４９９２

D2926 **常春**(つねはる・小堀こぼり、村岡伊太夫政友男)1700-71*72* 熊本藩茶道2世小堀長斎(茂竹)の養子、
熊本藩士:武道家/遊泳術;実父門、茶道;養父門/1714茶事を修学/47茶道博士、
1756「水馬千金篇」58「踏水訣」「茗理正伝」/60「踏水譜」63「以徳政要」著、
「論訓」「古流結法図」著、
[常春(;名)の号]東渓/長順/長斎、

G2959 **鎮栄**(つねはる・村瀬むらせ、号;和風堂)1719-82*64*　因幡鳥取藩国老荒尾家(米子城主)の家臣、
村瀬家6代目、伯耆米子住;国学者/歌道/書;有栖川宮家入、米子歌壇の重鎮

G2908 **常春**(つねはる・中沢なかざわ、)1740-1787*48*　近江彦根の歌人;八坂雨林門、
歌;[彦根歌人伝・続寿]入、
[常春(;名)の字/通称/号]字;亀足、通称;彦右衛門、号;時木

D2927 **常春**(つねはる・大沢おおさわ、通称;左次右衛門)?-?　江中期上州伊勢崎の町役人、
1796「伊勢崎町新古日記」著

D2928 **経美**(つねはる・中川なかがわ/本姓;荒木田)1798-1856*59* 伊勢宇治の神職;1815内宮十禰宜/42従三位、
1855二禰宜、「稀覯親聞録きてんしんぶんろく」/1826「文政九年産実や八王子社神遷記」著

F2936 **常春**(つねはる・小木曾おぎそ、藩士島地宥左衛門五六3男)1812-75*64* 信濃飯田藩士小木曾義徳の養子、
飯田藩士;飯田堀候に出仕/中小姓御本丸御番、維新後;権少参事、島地保定(楽叟)の弟、
歌人;父(植松茂岳門)門/桜井春樹門、
[常春(;名)の通称/号]通称;勝三郎/寛治、号;喜斎

D2929 **経春**(つねはる・賀茂かも/岡本おかもと、賀茂経必男)1818-80*63* 山城愛宕郡上賀茂神社祠官/正四下、
のち下鴨神社宮司/国学・歌;賀茂季鷹・春日潜庵・平田鉄胤門、皇学所講官、
1838「酒古名区志証」/66「うすかすみ」、「樟の下水」「詠史百首」著、経樹つねきの弟/経邦の父、
[経春(;名)別名/通称/号]別名;経年/経迪/経寧、通称;隆蔵/三彦/壱岐守、
号;樟陰山房/篁邨こうそん/護松廬/蓼渓書屋りょうけいしょおく

D2930 **常春**(つねはる・荒川あらかわ、字;元禧、号;養愚)?-?　江後期1830-64頃江戸芝新網町の詩人、
1836「桜百絶」著
常春(つねはる・貝原)　→　和軒(わけん・貝原、儒者/詩歌人)　５３２０
常春(つねはる・小笠原)　→　嘯山(しょうざん・小笠原おがさわら、幕臣/歌)Ｊ２２２８
常晴(つねはる・藤原)　→　南窓(初世なんそう・田辺、講釈師)　Ｊ３２２５

D2931 **卓彦**(つねひこ・松木まつき、初名;彦居、智彦男/本姓;度会)1710-71*62* 伊勢外宮禰宜;1746九禰宜、
1755正四上/67三禰宜、神学に精通、1729「策問策対」編/46「卓彦禰宜職引付」58「懐古編」著、
[卓彦(;名)の通称]　辻之助/民部　、言彦のぶひこ(1742-1817)の父

D2932 **常彦**(つねひこ・渡辺わたなべ、常視[常親]男/本姓;源)1796-1828*33* 青蓮院門跡の侍法師(坊官)、
1823法橋、「十二書記」編、随の父

D2933 **常彦**(つねひこ・岡本おかもと、岡本豊彦の甥)?-?1877-86没 備中都窪郡中洲村の絵師;伯父豊彦門、
「東游紀行画稿」画、
[常彦(;名)の字/通称/号]字;確乎、通称;典馬、号;菱邨

D2934 **経彦**(つねひこ・佐野さの、経勝男)1834-1906*73*　豊前企救郡徳力の神道家;岡村嘉辰門、

国学;山名豊樹・西田直養なおかい門/医を修学、皇国医道を唱導、国事奔走;高杉晋作らと交流、
維新後は宗教家;神理教会を小倉に設立;初代管長、大教正、
歌・俳諧を嗜む、1861「吾平山御陵考」63「日子山考」、「天津皇産霊考」「穴門考」著、
[経彦(;名)の幼名/号]幼名;左吉麿/左吉/右吉麿/卯吉/右吉/右橘、号;桃舎/明誠大神
神号;天津神理誠之道知部経彦命

常彦(つねひこ・久志本) → *常芬*(じょうふん・久志本くしもと/度会、幕医)Ｌ２２５２

常彦(つねひこ・尾崎) → *良暢*(よしのぶ・尾崎おざき、神職/国学) Ｌ４７８９

D2935 **経久**(つねひさ・賀茂かも、号;井関神主、氏久男)?-?1305存 山城の神職;1293上賀茂社神主/四位、
1305.8.7賀茂社遷宮執行、1305「賀茂遷宮記」「御遷宮日記」「御造営記」、「嘉元年中行事」著、
勅撰10首;新後撰(981/1269)玉葉(1940)続千(1581)続後拾(742)風(1557)新千(3首)新拾、
久世の弟、忠久・基久の父
[契りしはただなほざりのゆふべともしらで待ちけるほどぞはかなき](新後撰;恋981)

D2936 **常尚**(つねひさ・檜垣ひがき、貞尚男/本姓;度会わたらい)1251-1316 伊勢の神職;1282外宮八禰宜/正五下、
1291正四上/1305一禰宜、檜垣将監家の祖、「禁忌集要」著、常良の兄、貞蔭の父

D2937 **恒久**(つねひさ・河井かわい、号;友水)?-? 江戸前期水戸藩士、光圀の命で1685「鎌倉志」編

D2938 **常久**(つねひさ・大島おおしま、吉綱よしつな男)1623-96*74* 和歌山藩士;1657父病死により家督、槍術家:
大島流槍術師家2代目、博識/詩歌を嗜む/禅に通ず、「大島当流槍術秘伝明鑑」著、
[常久(;名)の通称/号]通称;小源太/雲平、号;草庵/耕心斎
父 → *吉綱*(よしつな・大島おおしま、大島流槍術の祖)

G2934 **恒久**(つねひさ・本多ほんだ、正房男)?-1738 越前福井藩家老:高知席本多修理家第3代、
初め1694(元禄7)藩主松平吉品の近習/96(元禄9)兄富敬が没;家督嗣;2千5百石、
1705(宝永2)家老/24加増300石、32(享保17)称念寺境内に南朝功臣新田義貞の碑建立、
和学者/1736隠居;養子本多正賀(兄富敬男)が家督嗣、1738(元文3)没、
[恒久(;名)の別名/通称/号]別名;久中/正倫、通称;修理/源蔵/左門/治右衛門/四郎右衛門
号;此面/波寸見

F2951 **常尚**(つねひさ・沢潟おもだか、本姓;岡田/坂/荒木田)1732-1803*72* 伊勢度会郡;伊勢内宮権禰宜、
国学;本居宣長門、
[常尚(;名)の通称] 丹治/伊織

D2939 **常久**(つねひさ・殿村とのむら、道宇男/本姓;大神おおみわ)1779-1830*52* 伊勢松阪の商人、
異母兄篠斎(しょうさい、安守)に兄事、国学;歌:本居宣長・春庭門、本草学;岩崎灌園門、
1820「宇津保物語年立」/27「夜舟物語」、28「みつくり」「かたばみ草」「橘柑考」著、
1830「門の落葉」編/30「千草の根さし」、「但馬日記」「和名抄草木考」「花千首」著、
「十五番歌合」「月次会歌集」「泉国辨千楯大平常久三辨」著、大平「八十浦の玉」中巻;長歌入、
[常久(;名)の通称/号]通称;万蔵、号;蟹麿/いはの舎/巌軒[嵓軒がんけん]、法号;嵓軒了久居士

F2978 **恒久**(つねひさ・芝原しばはら、旧姓;岡)?-1873 伊勢津の芝原千郷ちさと(1783-1813)の養嗣子、
国学者;養父門、
[恒久(;名)の字/通称/号]字;享叔、通称;七右衛門(;養父の称)、号;柳処/闇々堂

D2940 **恒久**(つねひさ・江刺えさし、辺男)1826-1900*75* 盛岡藩士;目付役/武家故実修得、国学者;
黒川盛隆・島川鎌満門/古典学;江戸の平田鉄胤・伊能穎則・小中村清矩門、維新後は神祇官、
1853「茂喬歌集」(黒川盛隆同門の漆戸うるしど茂喬しげたかを追悼)/57「高茂追慕歌集」著、
1864「奥々風土記」編、「言玉集」「続言玉集」編、「称辞集著」、
[恒久(;名)の通称/号]通称;専司/秀香/和多里、号;菊廼屋/万可記、

F2954 **尋寿**(つねひさ・川上かわかみ、)1830-1909*80* 飛騨高山の詩歌;富田節斎(礼彦いやひこ)門、
国学;歌;上木うわぎ清成門、
[尋寿(;名)の通称/号]通称;善右衛門、号;雪舎ゆきのや

D2941 **恒久**(つねひさ・組屋くみや) ? - ? 江戸末期若狭小浜の国学者、「若狭国風俗」編
[恒久(;名)の通称/号]通称;六郎左衛門、号;拙叟/三秀園

恒久(つねひさ・山田) → *雲窓*(うんそう・山田、詩/俳人) Ｄ１２９０

恒久(つねひさ・中島) → *石浦*(せきほ・中島なかじま/中浦、医/儒者)Ｄ２４８３

常古(つねひさ・檜垣) → *常古*(つねふる/つねひさ・檜垣/度会、神職) Ｄ２９６２

D2942 **経秀**(つねひで・田向たむけ、のち経家つねいえ、長資男/本姓;源)1418-6245 右近中将/1456従三位/57参議、
1457致仕、田向家は代々伏見宮に近習・楽道(郢曲)家、
歌;1450後崇光院[仙洞歌合]参加(5首;右近中将経秀名)、
[有明の月にしば鳴くさよ千鳥あはれやとまる須磨の関守](仙洞歌合;二十四番左48)

D2944 **常栄**(つねひで・中西なかにし、初名;延栄、出口延勝男)1819-6446 中西若狭の養子、伊勢山田の神職、
伊勢外宮権禰宜、国学;足代弘訓門、「鶏肋集」著、
[常栄(;名)の通称] 末之丞/兵衛ひょうえ/弥兵衛

G2912 **常英**(つねひで・縄田なわた/本姓;源、)1819-9577 美濃大垣藩士、国学・歌人;加藤千蔭門、
[常英(;名)の通称] 喜平太

常栄(つねひで・西村) → *忠兵衛*(ちゅうべえ・西村/伊勢屋、指峰堂穉笑、書肆)Ｇ２８８４
常之(つねひで・檜垣) → *常之*(つねよし・檜垣/度会わたらい、神職) Ｅ２９２３
恒仁(つねひと) → *亀山天皇*(かめやまてんのう、大覚寺党祖/歌)１５７８
常人(つねひと・武田) → *識正*(としまさ・武田たけだ/臼玉、国学/歌)Ｖ３１２３
常姫(つねひめ・池田) → *村子*(むらこ・池田いけだ/伊達、藩主室/歌)Ｄ４２６５

D2945 **恒平**(つねひら・橘たちばな、敏行男)922- 98362 母;和子女王、廷臣;948播磨権大掾/952越前介、
962玄蕃頭/961豊後守/967尾張守/972美濃守/976木工頭/977正五下近江介/979修理大夫、
983参議;病気出家;没、歌;977三条左大臣頼忠家前栽合参加、
[はこやまの端はよりいでくる秋の月水のおもてらす鏡とぞみる](頼忠家前栽合)

2913 **経衡**(つねひら・藤原ふじわら;北家内麿流、公業男)1005-72?68(1077存の説あり) 母;藤原敦信女、
廷臣;正五下、兵部少輔/大学頭/大和守・甲斐守/1031蔵人、
1033資房に狼藉をはたらき殿上から追放される、1054筑前守、歌人;和歌六人党の1、
1038・41源大納言師房家歌合/50祐子内親王家歌合参加、1068後三条帝大嘗会に屏風歌、
1071藤原頼通八十賀に賀歌を献上、別本和漢兼作集に歌・詩句入、袋草紙に種々の逸話、
家集「経衡集」(;77通宗との贈答あり)、「経衡十巻抄」著(散佚)、続詞花集7首入、
勅撰16首;後拾遺(8首64/75/325/343以下)詞花(71)千載(485/913/1282)新古(2首)以下、
[たづねくる人にも見せん梅の花散るとも水に流れざらなん](後拾遺;春64、
道雅の八条の山荘の襖障子を見ての詠/なんは願望)
[前二条関白(師通) 宇治入道前太政大臣(祖父頼通992-1074)の八十賀し侍りける時、
杖の歌とてよませ侍りけるによめる、
やちよまで契れる杖は百年にちかづく君がよはひとぞ思ふ](続詞花;賀327)

D2946 **経平**(つねひら・藤原、経通男)1014-9178 平安中後期;大宰大弐/刑部少輔、通宗・通俊の父、
歌;1035賀陽院水閣[関白左大臣頼通家]歌合(住吉社述懐和歌)参加、
「経平大弐家[通宗女子達]歌合」は経平赴任中に留守邸七条亭で通宗没後催行(通俊判)
[住吉にかひあるたびの祈りぞと岸の松風吹きも伝へよ](頼通家歌合;住吉社述懐)

D2948 **経平**(つねひら・衣笠きぬがさ/家名;近衛/本姓;藤原、家良男)?-1274 母;藤原親能女、廷臣;右中将、
1266参議/67従二位/68権中納言/70正二位、歌人:1251影供歌合/65亀山殿五首歌合参加、
勅撰17首;続後撰(482)続古(7首107/338/375/518/980/1206/1734)続拾(5首)以下、
[浅茅生あさぢふの下葉も今はうらがれて夜な夜ないたくさゆる霜かな](続後撰;冬482)

D2949 **経平**(つねひら・近衛このえ、関白右大臣家基男/本姓;藤原)1287-131832 母;亀山天皇皇女、廷臣;
1309内大臣/13右大臣/15従一位/16左大臣、歌:1315京極為兼催「詠法華経和歌」参加、
勅撰3首;玉葉(140)風雅(1738)新千載(1171)、
[たえだえにかかれる峰の白雲やはや咲きそむる桜なるらん](玉葉;春140/内大臣名)

D2950 **経平**(つねひら・児玉こだま、通称;玄蕃)?-? 室町期武蔵の鷹匠、1557「鷹絵図之書」、「鷹之薬方」著

D2951 **経平**(つねひら・土肥どひ、貞平男/本姓;平)1707-8276 母;熊沢蕃山の孫の通子、岡山藩士;1729家督、
岡山藩番頭/1764忌憚に触れ蟄居;宇治郷の別荘竹裡館で著述専念/故実研究、
和学;日野資朝門//歌;烏丸光胤門、「風のしがらみ」編/「湯土問答」「歌枕備中民談」、
「備前国志」「備中名所記」「経平秘函」「田鶴のすさひ」、1762「窈窕」63「備前名所記」、
1771「源氏花鳥芳囀」「かひやかした」、74「備前軍記」75「春湊浪話」81「緑雲庵口筆」外著多数、
[経平(;名)の通称/号]通称;吉五郎/典膳、
号;富山山人/牛山、宇治郷散人/醒社/竹裡館/緑雲庵、法号;凌雲院、延平の父

F2956 庸平(つねひら・川中かわなか、)1794-1868*75*　　河内の国学者;中島広足門、
[庸平(;名)の通称/号]通称;三郎平、号;緑廼舎みどりのや/常耕
D2952 経平(つねひら・松岡まつおか、通称;良哉)1800-86*87*　周防熊毛郡平生の医者/国学:本居大平門、
長門萩で医業/のち萩藩毛利家の医者、「松岡経平家集」、「紅葉の落葉」編、
「周防国式内神社考」著、「匡房卿家集」;勅撰私撰集から採歌編纂、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[久方の天の岩戸の神遊び今のうつつに見るぞかしこき](大江戸倭歌;冬1322/神楽)
D2953 経平女(つねひらのむすめ・衣笠きぬがさ、通称;僧正聖尋母)?-?　鎌倉後期歌人、鷹司基忠の室、従三位、
勅撰3首;新後撰1200/続千1731/続後拾1223、冬平・冬基・冬教・聖尋らの母、
[とはれぬをうしともせめていひてましただなほざりのつらさなりせば]、
(新後撰集;十七恋1200)
参照　→ *冬平*(ふゆひら・鷹司)1275-1327　Ｅ３８３８
→ *冬基*(ふゆもと・鷹司)1285-1309　Ｅ３８４２
→ *冬教*(ふゆのり・鷹司)1305-1337　Ｅ３８３７
D2954 経広(つねひろ・勧修寺かじゅうじ/本姓;藤原、坊城俊昌男)1606-88*83* 母;豊臣重正女、勧修寺光豊の嗣
廷臣;1631参議/41権大納言/50正二位、1658より武家伝奏/72落飾、「貫首拝賀記」著、
1629「内侍所御神楽記」、「万治度改元記」「小朝拝記」「経広卿御記」「勧修寺経広詠草」著、
連歌;玄陳と「何船百韻」、「昌琢点仙洞御点取」、歌;1638後鳥羽院四百年忌御会参加、
[きゝあへぬたゞ一声は思ひねの夢かうつゝか山ほととぎす](後鳥羽院忌;50/郭公)、
[経広(;名)の初名/号]初名;俊直[1615年まで]、号;(出家号)紹光、法号;風山紹光
Q2991 常広(つねひろ・後藤ごとう、)？-　？　　江前期;武士?/歌人、伝不詳、
1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[たのまじな逢う事難き中ならば硯の石の命長さも](若むらさき;168)
D2955 経熙(つねひろ・近衛このえ、初名;師久、関白太政大臣内前うちさき男/本姓;藤原)1761-99*39* 廷臣;
1779内大臣/改名;経熙、1781従一位/87右大臣、「経熙公記」、1781「立太后次第」著
[経熙(;名)の法号]後予楽院のちのよらくいん、妻;有栖川宮職仁親王女薫子のぶこ、基前もとさきの父
G2909 怡広(つねひろ・永井ながい、)1822-1903*72*　　陸奥弘前の薬種商、歌・国学;長利おさり仲聴なかあきら門、
[怡広(;名)の通称]準助
経熙(つねひろ・勧修寺/万里小路)→ *経郷*(つねさと・勧修寺かじゅうじ、連歌)Ｃ２９１６
常熙(つねひろ・柘植)　→ *葛城*(かつじょう・柘植つげ、医者/詩人)　Ｎ１５４５
D2956 経房(つねふさ・源みなもと、左大臣高明4男/母;右大臣藤原師輔女)969-1023*55* 廷臣;984従五下、
987昇殿/996従四下右中将/997備中守/998左中将/1000蔵人頭/正四下/1005(寛弘2)参議、
1007従三位/12正三位/13従二位/15(長和4)権中納言/18正二位皇太后宮権大夫、
1020(寛仁4)大宰権帥兼任;1023任地大宰府で急死、998中将の時に枕草子を流布、
歌;拾遺528(;健守[けんしゅ・こんしゅ]法師と贈答)、
[山ならぬすみかあまたに聞く人の野伏のぶしにとくも成りにける哉](拾遺集;九528)
(健守が仏名に野外で奉仕するのを山伏が野伏になったと揶揄した贈歌)
D2957 経房(つねふさ・藤原ふじわら/吉田、光房男)1143?-1200*58?* 母;藤原俊忠女、廷臣;1182参議/民部卿、
京の吉田に住;吉田を名乗る、親幕府派で源頼朝の信任、1185議奏公卿の1/91正二位、
1198権大納言/1200出家;没、1199「正治元年経房卿堂供養記」著、
日記「吉記きっき」(1166-78?;現存は1173-88/当時の国内情勢研究の重要資料)、
平家物語・沙石集に逸話、光長・定長の兄、定経の父、藤原俊成の甥、
歌人;1184別雷社後番歌合参加/86自邸経房家歌合主催/95民部卿経房家歌合主催、
和漢兼作集入集、勅撰12首;千載(4首434/764/883/1268)続後撰(334)続拾(807)以下、
[鴛鴦をし鳥のうきねのとこやあれぬらんつららゐにけり昆陽こやの池水](千載;冬434、
氷始結という心)
[経房(;名)の法名/号]法名;経蓮、号;吉田よしだ/勘解由小路、通称;吉田権中納言
D2958 常房(つねふさ・飯尾いいのお/本姓;三善、政常男)1422-85*64* 阿波飯尾の歌人:尭孝門、仏教に通ず、
能書家、細川成之に出仕、「法華二十八品歌」「春日縁起」「飯尾常房古文門書」著、

「化物草紙」書、
[常房(;名)の通称/法号]通称;彦六左衛門、法号;宗元院
D2959 常房(つねふさ・月出つきで) ? - ? 幕末期伊豆田方月ヶ瀬の和算家、
1854「鉤股勾配伝」校
F2900 恒房(つねふさ・石崎いしざき) ? - ? 江後期;歌人、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[夜もすがら梅が香ふかき旅枕荒れたる宿のとりどころなる](現存百人一首;61)
G2932 常房(つねふさ・堀家ほりけ、常足[1771-1852]男)1830-6738 備中賀陽郡の吉備津神社社家の生、
母;千代(歌人/1796-1863)、国学者・歌;父母門、
[常房(;名)の通称]通称;文之介/因幡
常房(つねふさ・平沢) → 太寄(太奇たいき・平沢、俳/狂歌) Ｂ２６１９
D2960 常書(つねふみ・畠山はたけやま、通称;郷八、常操[つねもち1771-1841]男)?-? 江後期江戸歌人、「梅の雪」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[行末のよるべは誰としら波にうき枕して幾夜へぬらん](大江戸倭歌;雑1985/遊女)
F2944 常史(つねふみ・岡おか、) 1828 - 1892 65 伊予松山の書肆;加島屋、国学・歌;中村良顕門、
[常史(;名)の通称]通称;常蔵、屋号;加島屋
常史(つねふみ・飛鳥部あすかべ)→ 常則(つねのり・飛鳥部、平安期大和絵)Ｄ２９０７
F2955 常文(つねぶみ・川口かわぐち、通称;虎之助)1842-9251 伊勢飯高郡の結城神社宮司、
国学;八羽はっぱ光謙・足代弘訓門、
1874(明治7)野呂万次郎と共に宣長・篤胤を祀る山室山神社(本居神社)を創建
D2961 経冬(つねふゆ・中川なかがわ/本姓;荒木田、初名;経延/経信)1648-17045 7 伊勢神職;1661内宮十禰宜、
1698二禰宜/99従三位、歌人、「詠三十二首和歌」「詠十五首和歌」「詠十二首和歌」著、
「詠二十首和歌」「詠十八首和歌」「歌仙連歌」著/1679延宝千句参加、「経冬覚書」編
D2962 常古(つねふる/つねひさ・檜垣ひがき、貞代男/本姓;度会わたらい)1747-1801 5 5 伊勢宮後の神職;
1762外宮十禰宜;従五上/86三禰宜/従三位/97一禰宜/98正三位、歌、「常古卿日次」著
[常古(;名)の通称] 仙千代/縫殿ぬい 、養嗣子;貞度さだのり
常牧(つねまき・半田) → 常牧(じょうぼく・つねまき・半田はんだ、俳人) Ｂ２２６２
D2963 経正(経政つねまさ・平たいら、経盛男)?-1184一谷戦死 武将、幼少時稚児として仁和寺覚性親王門、
17歳の時;宇佐八幡へ奉幣使、左馬権守/皇太后宮亮/1179正四下但馬守、琵琶、
1183都落ち;覚性法親王から拝領の琵琶名器[青山]を守覚法親王に返却、敦盛の兄、
歌人;藤原俊成門/平家歌壇で活躍:自家歌合催、「経正朝臣集」、住吉・広田・別雷社歌合参、
勅撰9首;千載(199/246;読人しらず)新勅(387)玉葉(260/342/364/1661/2652)新拾遺(553)
[いかなれば上葉うはばをわたる秋風に下折したをれすらむ野辺のかるかや](千載246)
D2964 経尹(つねまさ/つねただ・藤原ふじわら、別名;懐実かねざね、懐経男)?-? 平安後期廷臣;従五下/左兵衛尉、
上西門院蔵人、歌人;1172広田社歌合参加、新拾遺集754、
蔵人の時後徳大寺実定の命で小侍従に詠歌した逸話(平家物語/十訓抄/今物語/新拾遺入)、
[ものかはと君がいひけむ鳥の音のけさしもなどか悲しかるらむ]、(新拾遺;八離別754)、
[経尹の称] 物加者ものかはの蔵人(;逸話の歌から称された)
D2965 経尹(つねまさ/つねただ・世尊寺せそんじ、経朝男/本姓;藤原)1247-1320 74 廷臣;左馬権頭/少納言、
1290(正応3)従三位、94正三位/1301(正安3)宮内卿/06従二位/10出家(;法名寂尹)、
能書家:行成から9代目;代々世尊寺流、1292「厳島社頭和歌」書写、
勅撰6首;新後撰(889)玉葉(2057)続千載(1260)続後拾(1201)新千(1263)新拾(1862)、
出家後の通称;勘解由小路二品禅門、定成さだなりの兄、行房ゆきふさ・有能・行尹ゆきただの父、
[今はただ色にいでてやうらみまじうき身をしらぬ名には立つとも](新後撰;恋889)
D2966 恒昌(つねまさ・奈須なす、外科医奈須重貞男)1593-1679 87 江戸の医者:曲直瀬まなせ正慶門/1638幕医、
将軍家光・堀田正盛を治療/1659法印/73致仕、1659「医方聚要いほうじゅよう」、「薬方彙纂」著、
[恒昌(;名)の通称/号/法号]通称;玄竹、号;久昌院、法号;日休
B2931 庸昌(つねまさ・香川かがわ、通称;藤太夫、庸夷男)?-1766 代々讃岐の金光院別当山下家の一族、
三豊郡西田井の住人/俳人、1753「讃陽拾遺実録」、「家密枢鑑」著、
[庸昌(;)の号] 其目/蝶々翁/蝶々坊/東紫庵

D2967 常雅(つねまさ・花山院かざんいん、持実もちざね男/本姓;藤原)1700-71*72* 母;家女房、江中期廷臣;
1712従三位/36内大臣/47従一位/49右大臣;同年致仕、詩文に秀でる、
「花山院常雅記」「花山院前右大臣常雅公書」、1737「紹述先生碣銘」著、法号;順正院
D2968 職応(つねまさ・上林かんばやし)1707-1782 羽前田川の郷土史家、余目・清川地方を調査、
「余目安保軍記」「北楯問答記」「鶴岡一栗軍記」「狩川大堰由来記」「清川堰口開発聞書」著、
[職応(;名)の通称] 小八郎/小左衛門/趁跛けんぱ
D2970 経雅(つねまさ・つねただ・中川なかがわ、経正男/本姓;荒木田)1742-1805*64* 伊勢度会郡宇治の神職;
1773内宮十禰宜、1797二禰宜、神宮典故に通ず、国学/歌;宣長と交流、
1774「伊勢式内神社巡参記」75「大神宮儀式解」88「和歌打聞」「氏神まうての記」著、
「中川家系」「歴代廟陵記」編、「清波瀲集」「慈裔真語」「御遷宮要記」「経雅記」著、
「経雅神主筆記」「経雅卿雑記」外著多数、歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末入、
[石見のやつねのうらわに立つ波のしくしくにしも恋しけむ君]
(八十浦;304/安永五1776秋石見国小篠御野此宇治に滞在後帰郷時の別離の詠)、
[経雅(;名)の通称] 岩五郎/豊後/尚侍
D2971 常昌(つねまさ・村田むらた) ? - ? 江中期姫路藩の儒医、1753「宝暦記」「宝暦後期」、
「玲瓏翁雑録」著、継儒(姫路藩医)の養父
D2972 常政(つねまさ・多賀たが、通称;三大夫、常尚男)?-? 江中期の故実家、清水(徳川)重好の家臣/、
1773「石灯籠水鉢図」編、伊勢貞丈さだたけと交流;1771貞丈「五武器談」(;常政と質疑応答記事)
1780「花がつみ考」/85「二上峯」編、「馬鎧図」「多賀常政聞書」「多賀常政随筆」「破烟草の辨」著
D2973 庸政(つねまさ・前島まえじま)1774-1805 代々甲斐南八代村の医者、漢学;甲府徽典館入学/詩、
代官小島蕉園の知遇;吟詠を嗜む、俳諧;同郷の敲氷門、「峡中詩叢」著、
3回忌追善集「稲穂波」、
[庸政(;名)の字/通称/号]字;従甫、通称;昇平、号;観魚亭/棕園/敬父/安々亭、 玄長の父
D2974 常正(つねまさ・内野うちの、通称;近江/号;榊屋)?-? 江後期1804-30頃の江戸の国学者:平田篤胤門、
1811「霊の宿替」、24「阿鵞秀百首」「睫の鑑」、「神儒仏今昔論」著
G2956 経正(つねまさ・宮川みやがわ)1793-1872*80* 肥後阿蘇郡阿蘇神社の社家、
神道・国学;宮川経輔・中島桂園門、
[経正(;名)の通称] 出羽/讃岐
G2917 庸正(つねまさ・橋本はしもと、通称;甚左衛門)1809-64*56* 駿河府中の国学者;古学、
1852(嘉永5)花野井有年[医方正伝]の跋文執筆、
D2975 庸昌(つねまさ・小笠原おがさわら)?- ? 江後期天保1830-44頃信濃の儒医、
江戸下谷泉橋佐久間町に住、「奇病攷」「経験方攷」「療治雑話」「療治手談」、「漫游雑記」著、
[庸昌(;名)の字/通称/号]字;彦卿、 通称;奎蔵/圭蔵、 号;信南/信輔/日新楼
D2976 常正(つねまさ・岩崎いわさき)1821 - 1843早世*23* 本草家/考証、1821-42弘賢「古今要覧稿」編纂参加、
岡村尚謙の師
F2912 経正(つねまさ・矢吹やぶき、通称;林太郎)1827-1881*55* 美作勝田郡和気郷行延(信)村の里正、
歌人;平賀元義門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、
[いにしへの大御ゐでまし思ほえば桜散るなり和気の大宮](巨勢総社千首、
後醍醐天皇隠岐遷幸途次の御輿停の桜)
D2978 経幹(つねまさ・吉川きっかわ、経章長男)1829-67*39* 母;長井元簡女、岩国12代領主;1844(天保15)襲封、
文教政策で治政;1847藩校養老館・54医学館を設立、宗家毛利家と幕府間の斡旋に尽力、
正室;足守藩主木下利愛女の順子(延)、側室;井上円治女、経健・重吉の父、
1867病死を秘匿され1868毛利敬親の推挙で初代岩国藩主(6万石)となる;69経健が家督嗣、
1858「遊後楽園記」著、1861-4「吉川経幹車上日記」著、「吉川経幹周旋記」著/「習静楼遺稿」、
[経幹(;名)の別名/通称/号]初名;章貞、 通称;亀之進/監物、 号;南陽/習静楼/春山楼、
諡号;有恪ゆうかく院春山玄静
D2979 常政(つねまさ・須賀、蘭林斎)?- ? 江中期大阪の絵師、浅山蘆国あしくに[?-1818]の師
F2987 常昌(つねまさ・曾我そが、)1835- 1910*76* 美濃恵那郡付知つけち村の里正、国学者、
歌;田中大秀門/国学;平田銕胤門、
歌;杉下太郎右衛門編[千代のみどり]入・[明治五百人一首]入

[常昌(;名)の通称]長四郎/助次郎
G2963 **常正**(つねまさ・森津もりつ)1840- 1916*77*　京の九条家に出仕/国学者、
大和北葛城郡の広瀬神社権禰宜、のち備前岡山住
経正(つねまさ・立花)　→　*宗茂*(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓)　Ｂ４２３９
経正(つねまさ・貴島)　→　*北秀*(ほくしゅう・葛飾かつしか、絵師)　Ｄ３９４１
経雅(つねまさ・荒木田)　→　*経雅*(つねただ・荒木田、神道)　Ｃ２９４３
経理(つねまさ・勧修寺)　→　*経理*(つねおさ・勧修寺、廷臣/国事奔走)１９９７
常正(つねまさ・岩崎)　→　*灌園*(かんえん・岩崎いわさき、本草学者)　Ｐ１５９７
常正(つねまさ・山口)　→　*石室*(せきしつ・山口やまぐち、篆刻家)　Ｋ２４１３
常昌(つねまさ・檜垣)　→　*常良*(つねよし・檜垣/度会、神職/歌人)　Ｅ２９２０
常昌(つねまさ・高野)　→　*恬斎*(てんさい・高野たかの、藩医/詩人)　Ｄ３０４８
常政(つねまさ・桂)　→　*宗信*(むねのぶ・桂かつら、絵師)　Ｃ４２１３
経正(つねまさ・城戸)　→　*千楯*(ちたて・城戸/大江/蛭子屋、書肆/国学)２８１３
常松(つねまつ・檜垣)　→　*貞根*(さだもと・檜垣ひがき/度会、神職)　Ｊ２０９０
常松(つねまつ・檜垣)　→　*常典*(つねのり・檜垣/度会わたらい、神職)　Ｄ２９１４
常松(つねまつ・楓井)　→　*保定*(やすさだ・楓井かえでい、藩士/医/国学)Ｆ４５７３
D2980 **恒丸**(つねまる・今泉いまいずみ、名;一)1751-1810*60*　磐城三春の俳人:江戸の白雄門、1806下総佐原住、
1806・09一茶が訪問、1806「葛斎月並抜萃」、「続埋木」著、妻;素月尼も俳人、
[如月の木蔭木蔭の寒さ哉]、
[恒丸(;号)の通称/別号]通称;与右衛門、別号;葛斎/養拙斎/石巌山人せきがんさんじん、
法号;大寧得一居士
D2981 **常丸**(つねまる・忍岡しのぶがおか、姓;藤本)?-?　江戸下谷上野町の呉服商;常陸屋主人、戯作者;
十返舎一九と親交、1783「曾我のひながた」84「夜が昼星の世界」1822「新続商売往来」著、
1823「妙薬妙術集」24「あとみよそわか」、「大あたり噺の的」著、狂歌も嗜む、
[忍岡常丸(;号)の通称/別号]通称;常陸屋甚兵衛、別号;東川とうせん、
常丸(つねまる・錦小路/津守)→　*国礼*(くにあや・津守つもり、神職/歌人)Ｃ１７６２
経麿(経満つねまろ・高橋/村田)→　*新八*(しんぱち・村田/高橋、藩士)　Ｐ２２６４
D2982 **経覧**(つねみ・阿保あほ/本姓;小槻宿禰、小槻山公[阿保朝臣]今雄男)?-912　平安前期廷臣;算博士、
従五下/主税頭、歌人、906「日本紀竟宴歌」参加、勅撰2首;古今458/新拾遺1386、
[思ひかねたばかりごとをせざりせば天の岩戸はひらけざらまし]
(新拾遺集;十六神祇1386/日本紀竟宴歌)
G2915 **恒見**(つねみ・野村のむら、通称;淵蔵)?-1909　越前福井藩老稲葉家の家臣、歌人;橘曙覧(1812-68)門
恒海(つねみ・山中)　→　*霜解*(しもとけ・初世千種庵ちぐさあん、書師/狂歌)Ｆ２１９５
常躬(つねみ・渋川)　→　*常躬*(つねちか・渋川しぶかわ、藩士/国学)　Ｆ２９８０
D2983 **経通**(つねみち・藤原ふじわら、懐平男)982-1051*70*　母;源保光女、廷臣;1016蔵人頭/19(寛仁3)参議、
1020従三位/正三位、治部卿/24検非違使別当/備前守/左兵衛督/29(長元2)権中納言、
1034従二位/左衛門督/37正二位/46大宰権帥/50帰京、51(永承6)出家;没、
妻;源隆雅女の姉妹、姉の子;経仲・経季・経平/妹の子;顕家
歌人;1021土御門歌会/24頼通高陽殿での駒競後宴和歌に参加、
1032上東門院菊合/35賀陽院水閣歌合に参加、別本和漢兼作・秋風集入、金葉集Ⅱ28(Ⅲ34)、
[今はとて越路こしぢに帰るかりがねは羽もたゆくや行きかへるらん](金葉;春28)
[経通(;名)の通称]　土御門帥つちみかどのそち
D2984 **経通**(つねみち・藤原ふじわら;北家頼宗流、通称;高倉大納言、泰通男)1176-1239*64*　母;藤原隆季女、
鎌倉期廷臣;1214参議、27正二位/35権大納言/36出家、順徳天皇近臣、1236出家、歌人;
1200若宮歌合/03和歌所影供歌合/05新古今集竟宴和歌/13内裏歌合/14月卿雲客妬歌合/
1216内裏百番歌合/18順徳院中殿御会/32洞院摂政家百首参加、
藤原公頼(五条二位)と親交(隆祐集入)、
勅撰2首;新古今1513/新続古346、万代集/続歌仙落書/雲葉集入
[うき身世にながらへばなほ思ひ出でよ袂に契るあるあけの月](新古;雑1513、
身の不遇を月に訴える)

[建保四年(1215)内裏十首歌合に、
なつかりのあしふきわぶる難波めのさみだれながらすぐるころかな](雲葉;夏330)

D2985 **経通**(つねみち・一条いちじょう/本姓;藤原、内経男)1317-6549 母;今出川公顕女、廷臣;1325従三位、1337左大臣/38関白/氏長者/42従一位、「玉英」「光明院御即位記」著、歌;1336「仙洞三席御会始」参:詩歌兼作/1345?小倉実教[藤葉集]5首入(前関白左大臣名)、勅撰7首;風雅(593/1920)新千(489/1425/1878)新拾(238)新後拾(867)、
[小夜更けて人はしづまるまきの戸にひとりさしいる月ぞさびしき](風雅;秋593)、
[経通(;名)の号] 後芬陀利花院ごふんだりかいん、

D2986 **恒通**(つねみち・稲葉いなば、知通2男)1690-17203*1* 母:溝口重雄女、豊後臼杵7代藩主:1706襲封、従五下飛騨守/伊予守、幕命による普請手伝続き藩財政窮乏;倹約令・御用金課税、運上金制度・借上制度を制定;早世のため再建失敗、長男菫通が家督嗣、1707「豊後臼杵城修理」著、正室;松平直明女、菫通・朽木徳綱・通古・山高信昉・女(柳生俊平室/久松定武室)・女(勧修寺顕道室)の父、
[恒通(;名)の通称/法号]通称;彦六、法号;本輪院

G2929 **恒道**(つねみち・藤枝ふじえだ、号;内記)?-1791 江中期陸奥盛岡南部藩士;家老、国学・歌人

F2996 **恒道**(つねみち・高橋たかはし、通称;常四郎つねしろう)1830-96*67* 陸奥会津藩士;京都守衛常備隊に属す、国学・歌人/戊辰戦争後;1870斗南藩命で北海道山越郡開墾係/集団入植;開拓失敗、帰国せず黒岩で農業/1875神威内に移住;80岩内で教員/92岩内古宇両郡同修舎設立、私学振興に尽力/岩内郡副戸長、岩内町の大和公園内に顕彰碑あり

B2994 **常方**(つねみち・小笠原おがさわら、初名;直彭、永井直該男)1784-? 1796存 小笠原常倚の養子、幕臣;1775家督、騎射師範/小姓組、故実家:幕府礼典・武術式を指導/1796致仕;寄合、「書礼礼法」「陰陽祝儀集伝記」「初祝儀次第」「女中躾集」「萬躾方書」「萬披露之次第」すべて伝

D2987 **常達**(常逵つねみち・久志本くしもと/本姓;度会わたらい)1788-1850*63* 伊勢山田の神職;外宮二禰宜、従三位、国学:1814本居春庭・大平門、1824「文政七年甲申年月次歌合」参加、
[常達(;名)の通称] 幸三郎/縫殿ぬい、常伴の父

F2932 **常道**(つねみち・碓氷うすい/本姓;藤原、)1811-52*42* 伊豆加茂郡下田八幡宮社司、国学;平田篤胤門、
[常道(;名)の通称] 倉吉

D2988 **常通**(つねみち・坪川つぼかわ、四郎兵衛男)1823-? 同族坪川十治の養子、加賀大聖寺藩士;御徒組、足軽頭指引役/算用場小算用役、和算家;山口知貞門;関流算法目次を受、「帰源枢要」編、「帰源推歩」編、「神氏一百解」「久氏三百解」「点竄解勾殳玄一百題」「掃除式一百諺解」、
[常通(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;直作、字;栄卿、通称;与右衛門/文八、号;得夫斎

常道(つねみち・村田) → *庫山*(こざん・村田むらた、儒者/書) Ｇ１９６１
常道(つねみち・中里) → *常嶽*(つねおか・中里なかざと、商家/歌人) Ｂ２９７８
常道(つねみち・高野) → *余慶*(よけい・高野たかの、藩儒/藩政) Ｂ４７７７
常通(つねみち・山川/森田)→ *良郷*(よしさと・森田/山川、藩士/文筆) Ｄ４７４２
恒通(つねみち・文川堂) → *野逸*(やいつ・文川堂、俳人) ４５３４

D2989 **経光**(つねみつ・藤原ふじわら/家名;勘解由小路かでのこうじ・広橋、藤原頼資男)1213-74*62* 母;源兼資女、廷臣、文章得業生;対策及第、蔵人頭/1241参議/左大弁/47権中納言/55正二位/60民部卿、摂関家近衛家実・兼経の執事、1274出家;没、「民経記」「元日白馬節会部類記」「任国例」「経光卿記」著、歌人;1232石清水若宮歌合参、1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勧進)に詩入、勅撰6首;続後撰(1369)続古(741)続拾(762)新後撰(1606)以下、雲葉集入、
[すゑとほき千世のかげこそ久しけれまだ二葉なるいはさきの松]、
(続後撰;賀1369/主基風俗歌ふぞくうた;石崎)、
[経光(;名)の法名] 蓮寂 、兼仲の父

D2990 **常光**(つねみつ・久志本くしもと/本姓;度会わたらい、常員男)1471-1542*72* 代々伊勢外宮祠官、医者;父門、従五下/医名高かった、「管蠡草灸診抄」「管蠡備急方」著、
[常光(;名)の通称] 周防守

D2991 **経光**(つねみつ・大炊御門おおいみかど、経孝男/本姓;藤原)1638-1704*67* 廷臣;1659従三位/60権中納言、1694従一位/1704左大臣、「里亭会始」著、法号;後香隆寺深誉信海

G2976 **常満**(つねみつ・印波いなば)　？－　？　江前期;上方の歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]15首入、
[白露を秋のかたみにつつむべき尾花が袖も風に散りつつ](林葉累塵;秋592)
G2977 **経満**(つねみつ・鳥山とりやま)　？－　？　江前期;上方の歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]8首入、
[秋はまたはつせのひ原吹く風のはげしからぬも身にぞしみぬる](林葉累塵;秋393)
D2992 **恒充**(恒光つねみつ・小川おがわ、通称;忠右衛門)?-?　江中期美作津山藩士;江戸留守居、
1703赤穂義士討入の見聞記を藩主に献上、1707「忠誠後鑑録」編
D2993 **恒充**(つねみつ・木梨きなし)　？－ 1855地震圧死　長州萩藩士/土佐派絵師:浮村定直門、
江戸藩邸滞在中に1855安政大地震で没、「八江萩名所図」画、
[恒充(;名)の通称/号]通称;衛門七、号;三丘
D2994 **恒光**(つねみつ・村田むらた、光窿こうりゅうの孫)?-1870　伊勢津藩士/和算:祖父門/江戸の長谷川寛門、
1833「算法側円詳解」編/36「算法地方指南」49「新巧算法」53「量地手引草」著、
「算法極形指南」「栢堂算梯」「増訂不朽算法」著、
[恒光(;名)の通称/号]通称;長太郎/佐十郎、号;如訥/栢堂/洞江/朽木軒きゅうぼくけん
経光(つねみつ・藤原)　→　*定高*(さだたか・藤原、廷臣/連歌/日記)　Ｂ２０９４
常満(つねみつ・中里)　→　*常嶽*(つねおか・中里なかざと、商家/歌人)　Ｂ２９７８
D2995 **経宗**(つねむね・藤原ふじわら、経実男)1119-89*71*　母;藤原公実女公子、廷臣;1149参議、二条天皇外戚、
後白河天皇女御懿子の兄、親政派の中心;信西(通憲)と対立/1160後白河上皇の命で配流、
阿波滞在;1162召還/64右大臣/66左大臣/74従一位、晩年は後白河院院司;院の信任が厚い、
1189法然門;受戒出家、「高門記」、勅撰2首;千載623/新勅458、
[千世ふべきはじめの春と知りがほにけしきことなる花桜かな](千載;賀623、
二条院御時大内におはし初めて花有喜色といへる心を詠ませ給ふによむ)、
[経宗(;名)の通称/法名]　中御門なかみかど/大炊御門おおいみかど/従一位大炊御門左大臣、
法名;法性覚
常操(つねもち・畠山)　→　*常操*(じょうそう・畠山、故実/歌人)　Ｕ２２０３
常持(つねもち・匕さじ)　→　*匕常持*(さじのつねもち、狂歌)　Ｍ２０８９
常持(つねもち・筆ふで/巴扇堂)→　*巴扇堂*(2世はせんどう、筆匠/狂歌)　Ｅ３６７５
D2996 **経基**(つねもと・源みなもと、経基王/六孫王、清和天皇第六皇子貞純親王男)?-961　母;源能有女、武将;
信濃・伊予・武蔵守/左衛門佐/大宰大弐/式部丞/兵部少輔/鎮守府将軍、
938武蔵介のとき在地土豪と争う/939平将門征討軍の副将/藤原純友追捕次官、上野介、
958源賜姓;清和源氏の祖、歌;拾遺集686/909　、満仲の父
六孫王とは清和天皇第六皇子貞純親王の王子の意
D2997 **経元**(つねもと・甘露寺かんろじ/本姓;藤原、初名;範家/範信、冷泉為豊男)1535-85*51*　甘露寺伊長の嗣、
廷臣;1570参議/従三位/79権大納言/80正二位、家学;有職故実に精通、
「経元卿記」「御教書案」、1567「臨時叙位略次第」68「親王御元服記」著、法号;乗雲院
D2998 **常基**(つねもと・檜垣ひがき、初名;常元、貞次男/本姓;度会わたらい)?-1670　伊勢坂之世古一之木の神職;
外宮権禰宜、正五上、「常基古今雑事記」/1663「檜垣兵庫家証文旧記案集」編、
常和つねかずの弟、貞命さだのぶの父
D2999 **恒固**(つねもと・寺島てらしま、号;梅処)?-?1835存　尾張枇杷島の歌人;伴高蹊門、大館高門と交流、
「梅処漫筆」(;道直と共編)
常幹(つねもと・手賀)　→　*歌志久*(かしく・国字垣かながき、狂歌/俳諧歌)Ｌ１５７８
E2900 **経盛**(つねもり・平たいら、忠盛男)1124-1185壇ノ浦入水*62*　母;源信雅女、清盛弟、武将/伊賀守・若狭守、
1177正三位/81参議/修理大夫、83都落ち、経正・敦盛の父、歌人:1166-四度の自家歌合主催、
1170住吉/72広田/78別雷社歌合参加、1182家集「経盛集」、
続詞花2首・言葉集・治承三十六人歌合入、
勅撰12首;千載(668:読人しらず)新勅(305)続後撰(432)玉葉(6首50/922以下)風雅(3首)、
[いかにせむ御垣みかきが原に摘む芹せりのねにのみ泣けど知る人もなき](千載;十一恋668)
E2901 **経盛**(経森つねもり・中川なかがわ、経寄男/本姓;荒木田)1618-169*77*　伊勢宇治神職;1633内宮十禰宜、
1687内宮一禰宜従三位/89正三位、歌人、1647「勅幣中興記」58「天粟昼零記」、「上階款状」、

「経盛記」「経盛卿神宮勘文」「東家捧心集箋註」、歌;1652「慶安五年和歌五十首」
E2902 常守(つねもり・中里なかざと、別名;任重、号;于言斎)?-?宝暦1751-64頃没 江中期伊勢松坂の国学者,
歌文に長ず、地歴の考証研究、
1738「中里常守詠百首歌」、地誌;1760「伊勢名所参考抄」著
恒弥(つねや・本多) → *康桓*(やすたけ・本多ほんだ、藩主/詩歌) Ｇ４７６０
G2985 経泰(つねやす・惟宗これむね、)? - ? 平安中期廷臣/歌人;1165清輔[続詞花集]入、
[中原致時むねとき(有象ありかた男/960-1011明経博士/従四上)が家ちかどなりけるに、
紅梅の咲けりける をうなして折りに遣したりけるをさいなみて木になん結付ける、
とききて いひつかはしける、
梅の香を袖にうつすとするほどに花ぬすむてふなはつきにけり](続詞花;戯咲953)
E2903 経泰(つねやす・源;宇多流、経逸男)?-? 平安末期廷臣;陪従、安藝権守/豊前守/正五下、
歌;1186文治二年民部卿藤原経房歌合参加、
[旅寝する宮城が原の草枕夢むすばせぬ鹿のこゑかな](文治二年民部卿歌合;86)
E2904 経泰(つねやす) ? - ? 連歌、1472紹永催「美濃千句」連衆
F2971 常安(つねやす・佐瀬させ、常尚つねなお男)1671-1722*52* 陸奥会津の蚕養神社祠官;父を継嗣、
神道・国学;父門、
[常安(;名)の通称/諡]通称;主膳正、 諡;有真古正霊社
E2905 経康(つねやす・立入たてり、初名;直和、宗益むねます男)1731-1811*81* 禁裏上御倉職/従四下左京亮、
河内守、「立入経康記」著
F2933 毎保(つねやす・浦うら/本姓;藤原、)?-1825 筑前志摩郡の淀姫神社神主、国学者;本居宣長門、
筑前国中神職取締、
[毎保(;名)の通称]常陸介/上総
G2961 恒安(つねやす・森もり、) 1770 - 1815*46* 因幡鳥取の国学者;衣川きぬがわ長秋門
E2907 常保(つねやす・細川ほそかわ、常顕男/本姓;源)1770-1834*65* 廷臣;1822蔵人;禁色昇殿、
1831皇太后宮権少進兼任/34従五下、1820「加茂臨時祭還立」著
E2906 常安(つねやす・檜垣ひがき、貞舎男/本姓;度会わたらい)1774-1842*69* 叔父檜垣貞本の養嗣子;
のち檜垣貞洪家を合嗣、伊勢の神職;外宮祠官正四下/1836舎人解任、尾張一色で没、
1797「辨々撥霧集答問打聴」著
E2908 常安(つねやす・森寺もりでら、字;遜卿、常倫男/本姓;源)1791-1868*78* 京の三条家諸大夫;
三条実方/実美に出仕、正四位/出羽守・大隅守・長門守・因幡守/1831雅楽権助、
1858安政獄に連座;59江戸永押込、1862赦免、1812「山家百首」著/48「地下任叙之事」校訂
F2973 其湛(つねやす・齋藤さいとう、)1797-1855*59* 若狭小浜の酒造業、歌人;香川景樹門、
[其湛(:名)の字/通称/屋号]字;於兎吉、 通称;仁左衛門/左衛門、 屋号;木綿屋
G2941 常保(つねやす・松室まつむろ、)1816-1904*89* 江戸の国学者
常安(つねやす) → *常安*(じょうあん、連歌) Ｇ２２６５
常安(つねやす・本田) → *東陵*(とうりょう・本田、儒者/詩文) Ｉ３１２９
常安(つねやす・中里) → *常秋*(つねあき・中里なかざと、国学者) Ｇ２９０６
常保(つねやす・畠山) → *常操*(じょうそう/つねもち・畠山、故実/歌学)Ｕ２２０３
典術(つねやす・松平) → *典則*(つねのり・松平まつだいら、藩主/歌人) Ｇ２９４０
E2909 常康親王(つねやすしんのう、仁明天皇皇子/母;紀名虎女種子[;三国町?])?-869 文徳・光孝天皇の弟、
父没後;851出家、雲林院住;雲林院宮(雲林院親王)と称される、歌人;遍昭・素性らと交遊、
867家集「洞中小集」(菅原道真序;菅家文草入)、雲林院は遍昭に譲渡(元慶寺別院となる)、
母が三国町なら貞さだ登のぼるの同母の兄?、古今781(;雲林院の親王みこ名)、
[吹きまよふ野風をさむみ秋萩のうつりもゆくか人の心の](古今集;十五恋781)
E2910 経行(つねゆき・源みなもと、源知行[行阿]男)?-? 南北期廷臣;大和守/五位、
歌人、1359成立新千載2201、
[思ひ出づる昔の秋のめぐりきてなき影浮ぶ袖の月かな](新千載:哀傷2201/月前懐旧)
E2911 経行(つねゆき・南部なんぶ/本姓源、遠江守)?-? 1469-87頃南部住の武家、連歌;新菟2句入、狂歌、
[苗代をおとせる水に落ちゆくは軍いくさに下手のかはづなるべし](古今夷曲集;一春歌)
E2912 恒幸(つねゆき・吉見よしみ、幸勝ゆきかつ男/本姓;菅原)1641-97*57* 尾張の神職;1666正四下/民部大輔、

1668家督;名古屋東照宮祠官、1669「尾張国府宮神記」著、妻;佐藤良信女の蓮子れんこ、
幸寛ゆきひろ・幸和よしかずの父、
[恒幸(;名)の幼名/通称]幼名;竹之助、 通称;喜太郎/壱岐

F2917 **経行**(つねゆき・井上いのうえ、)1672-1734*63* 備前岡山藩士;藩医/歌人、子休しきゅうの父、
明石藩医の井上桐庵とは別人、
[経行(;名)の通称/号]通称;桐庵/朴庵、 号;玉成/醒翁

E2913 **常征**(つねゆき・彦坂ひこさか/本姓;藤原)1692-1765*74* 三河渥美郡野依村の八幡神社神主、
神道;中西直方(1634-1709)門、詩歌を嗜む、
1729「延喜式神名帳三河国廿六座考」「参河国式社考」著、61「彦坂常征神主古稀賀集」編、
[常征(;名)の通称/号]通称;筑後、 号;寄藻

E2914 **常行**(つねゆき・野矢のや、寿位男)1747-1801*55* 岩代会津藩士/江戸常詰、歌人;二条流、常方の祖父、
藩主の歌学の相手、「五月雨日記」「隙行駒」「狐女郎」「法之鼓」「不問語」、「常行翁遺稿」、
[常行(;名)の幼名/通称/法号]幼名;権太郎/与八郎、 通称;惣蔵、 法号;広誉浄栄居士

F2957 **常之**(つねゆき・河澄かわすみ、)1752-1816*65* 河内日下村の商家河澄家15代当主;素封家、
唯心尼の親族/国学者・歌人;上田秋成・村田春門門、
晩年秋成は妻に死別・眼病療養のため唯心尼の誘いで河内日下の正法寺などに滞在;
1798(寛政10)河澄家の奥座敷[棲鶴楼]で花合参加;常之・唯心尼(平瀬助道未亡人)・
森公道・祖盈(正法寺住職)らと交流;秋成の随筆「山霧記」入、秋成[藤簍冊子つづらぶみ]入、
[日影さす匂ひもはかな中垣に露おきまさるあさ貌の花](藤簍冊子;雨かはづ/花合)、
[夏草にまじりて咲けど撫子の露に秋そふ花の盛りは](同;常夏[瞿麦なでしこ])、
[常之(;名)の通称/号]通称;作兵衛、 号;棲鶴楼

E2915 **常之**(つねゆき・井上いのうえ/小原、夏鼎ひろさだ[素堂]男)1769-1840*72* 母;政子(歌人)、
備中倉敷の商家(富豪)/町役;1795家督、歌人:母と小沢蘆庵門、妻;貞子(鼎子さだこ、歌人)、
多芸;画;岸駒門;鶴を画く・散学の拍子が得意、隠居後上京;貴顕の間を往来;
法橋に叙せらる;小原姓を称す、澄月・木下幸文らと交流、自選歌集「鄙塵集」著、
[常之(;名)の別名/字/通称/号]別名;**端木**はしき/輗げい、字;子典、
通称;三左衛門/三郎右衛門/広輔、 号;慶雲斎/旭岡/蘆汀、 屋号;宮崎屋、
法号;慈照圭雲居士

E2992 **常之**(つねゆき・藪やぶ) ? - ? 紀伊の剣刀彫物師/大坂住、国学;本居大平門、
大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌796[日照に雨を待つ]797[日照に大雨を喜ぶ]866[待心]入、
[まつしまの浦のあまらがやくしおのむねこそやくれ来ぬ人待てば](八十浦;867反歌)

E2916 **常之**(つねゆき・細川ほそかわ、別名;常徳、常保男/本姓;源)1784-1851*68* 廷臣;1828右衛門権少尉、
院蔵人、1834改名常徳/40蔵人;禁色昇殿/51従五下、常典つねのりの父、
1831「伊予常典家督相続出身御肴献上書留」著、
1832「前盛化門院50回御忌於洞中被行懺法講私記」著

E2917 **常志**(つねゆき・伴ばん、別名;纜、常久男)1803-? 廷臣;1826従六下陸奥介/40主殿大允/43正六下、
1848「大嘗会次第」著

F2909 **常幸**(つねゆき・) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[小夜衣かへすひまなき思ひ寝の夢にもまたやうらみかさねん](大江戸倭歌;恋)

E2918 **経之**(つねゆき・中御門なかみかど/本姓;藤原、坊城ぼうじょう俊明男)1820-91*72* 中御門資文の養嗣子、
廷臣;1864参議/従三位:1862幽居中の義兄岩倉と王政復古を画策/66国事建言;勅勘閉門、
1867赦免;同志と討幕の密勅降下に尽力/1868従二位権大納言、1863「救民勅答」著

E2919 **庸行**(つねゆき・黒田くろだ) ? - ? 摂津福原の絵師:蔀関牛門、往来物作者、
1843「庭訓往来精注鈔」48「大坂往来」書/51「宝玉塵劫記大成」著、
[庸行(;名)の通称/号]通称;見徳、 号;成章館

常之(つねゆき・仁田) → *常之*(じょうし・仁田、俳人) Ｐ２１２５
常之(つねゆき・井上) → *常之*(じょうし・井上、俳人) Ｐ２１２６
常之(つねゆき・寺西) → *我竟*(がきょう・寺西てらにし、俳人) Ｊ１５３７

恒之(つねゆき・湯浅/荒川)→ *尭民*(ぎょうみん・荒川/湯浅、藩士/医者)Ｏ１６５７
恒之(つねゆき・四屋)　→ *穂峰*(すいほう・四屋よつや、藩儒)　Ｅ２３９９
経之(つねゆき・多田)　→ *海庵*(かいあん・多田ただ、儒者/砲術)Ｉ１５３５

2903 **常世**(つねよ・佐野さの、通称;源左衛門)?-?　上州佐野の武士、
窮乏時に大雪のなか旅の僧(北条時頼)を盆栽を焚いてもてなし「すは鎌倉」の意気を語る、
後に謡曲「鉢木」の主人公となり脚色されて行く

G2920 **常代**(つねよ・檜垣ひがき/本姓;度会、久志本常忠男)1790-1851*62*　伊勢度会郡の外宮神職;
檜垣貞賀さだよし女の貞子の婿養子、国学・歌;足代弘訓門(;妻と同門)、外宮二禰宜、
[常代(;名)の初名/通称]初名;常準、通称;安之助/刑部ぎょうぶ
常世(つねよ・井手)　→ *真棹*(まさお・井手いで/西村、藩士、歌人)Ｎ４０３６
経世(つねよ・中根なかね)　→ *東平*(とうへい・中根、儒者)　Ｈ３１０５

E2920 **常良**(つねよし・檜垣ひがき、別名;常昌、貞尚男/本姓;度会わたらい)1263-1339*77*　伊勢の神職/歌人、
1292外宮八禰宜/従四下/1316一禰宜、後醍醐天皇の命で北条高時調伏を祈願;30従三位、
度会神道の形成に貢献;「皇家沙汰文」、「古語類要集」「神祇玄要図」「太宗秘府要巻」、
外宮歌壇を形成;1321外宮北御門歌合参加(左方)、1334八月十五夜朝棟亭歌会参加、
後深草院二条「とはずがたり」・通海「太神宮参詣記」に逸話入、
勅撰4首;玉葉1374/続後拾1355/新千958/新拾1435、
[逢ふ事のむなしき名のみ残し置きて身はなきかずにききやなされん](玉葉;恋1374)
[常良(;初名)の通称]　檜垣大長官/鏑矢檜垣　、常尚の弟

E2921 **経慶**(つねよし・勧修寺かじゅうじ、別名;経敬つねよし、経広男/本姓;藤原)1644-1709*66*　母;徳永昌純女、
廷臣;1652元服昇殿/従五上/56蔵人正五上/62蔵人頭従四下/正四上右大弁、
1663(寛文3)参議・右大弁/64従三位/69左大弁/70(寛文10)権中納言/72正三位、
1673(寛文13・延宝元)改元定参仕/75春日祭上卿/77(延宝5)従二位権大納言;84辞任、
1694(元禄7)正二位/1707(宝永4)改名;経敬つねよし/1708(宝永5)従一位、
「経慶卿記」「経慶撰名勘公要抄」「衆僧補任諸記」「辨官眉事」「霊元天皇御譲位記」著、
1687「朝仁親王元服次第」外記録多数

E2922 **経喜**(つねよし・大蔵おおくら、喜教男)1637-98*62*　母;大蔵源右衛門女、金春流宗家の分流氏紀の孫:
江戸幕府抱え金春座付きシテ方の能楽師、「六輪一露抜書」:綱村へ相伝、
「大蔵流大鼓小鼓大秘事」著、
[経喜(;名)の別名/通称/法号]別名(一説に;)経善、通称;庄左衛門、法号;常休

E2923 **常之**(つねよし/つねひで・檜垣ひがき、初名;常応、貞悳さだのり男/本姓;度会)1710-81*72*　伊勢坂之世古の神職、
外宮一禰宜、1777-81「常之日次」著、
[常之(;名)の通称]　千代三郎/河内、　貞晋さだしげの父

E2924 **常芳**(つねよし・細川ほそかわ/本姓;源、細川貴常[公常]の嗣子)1729-1808*80歳*　廷臣;
1768蔵人;禁色昇殿、1770院判官代/94中宮権少進/民部大輔/従五下、
1794「欣子内親王立后記」著

G2913 **常善**(つねよし・新納にいろ、通称;四郎右衛門)?-?　薩摩鹿児島藩士、
歌人;武者小路実純さねいと(徹山/1766-1827)門、大坂住、登米子(1811-85/高崎温恭妻)の父

E2991 **恒由**(つねよし・宮坂みやさか)1795-1858*64歳*　江後期;信濃上諏訪郡桑原町の酒造業、有位の孫、
国学/歌;本居大平・清水浜臣・田中大秀・海野遊翁門、大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[恒由(;名)の別名/通称/号]別名;由賓、通称;作左衛門、号;真玉廼屋、屋号;酒布屋

E2925 **常善**(つねよし・檜垣ひがき、貞度さだのり男/本姓;度会わたらい)1801-62*62*　伊勢西河原の神職;
1814外宮十禰宜/44従三位/61外宮一禰宜/62正三位、歌/画/茶を嗜む;多数の文人と交流、
1822「遠祭記事」43「神馬御進献の記」44「越後入国之私記」著、
「花の構」「常善雑事記」「常善卿当用録」著、
[常善(;名)の通称]　仙千代/縫殿ぬい

F2907 **恒好**(つねよし・森もり)　?-　?　江後期;歌人
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[もろともにかけて祈りし注連縄のたえぬ契りぞうれしかりける](大江戸倭歌;恋1621)

F2968 **常宣**(つねよし・小町谷こまちや、)1819-1899*81*　信濃伊那郡の赤須大御食おおみけ神社祠官、

国学;堀内禹洴門、小町谷家60代目(;59代常言/61代延宣)、
[常宣(;名)の通称] 八玉彦/筑後正

E2926 **常美**(つねよし・山崎やまざき、通称;両二)1826-8661 三河吉田藩士、国学;羽田野敬雄門、
大国隆正が敬雄邸逗留中の詠歌を編集:1858「野々口隆正翁詠歌聞見集」編(羽田八幡文庫)
経美(つねよし・中川) → *経美*(つねはる・中川、神職/記録) Ｄ２９２８
経良(つねよし・田向) → *経兼*(つねかね・田向たむけ/源、廷臣/歌) Ｇ２９７９
英明(つねよし・源) → *英明*(ふさあきら・源、詩歌人) Ｂ３８９７
常善(つねよし・宇佐美) → *樸仙*(朴仙ぼくせん・宇佐美うさみ、医者/儒)Ｄ３９６５
常美(つねよし・押川/武井)→ *周発*(しゅうはつ・武井たけい、藩絵師) Ｙ２１２３

2914 **経頼**(つねより・源みなもと:宇多流、扶義男)985-10395 母;源是輔女、廷臣;1019右中弁/22蔵人頭、
1023中宮亮/30参議/左大弁/勘解由長官/38正三位、故実に精通、
清房・尊覚・済延・隆昭・信房のぶふさ・大納言源隆国妻の父、
1016-36日記「左経さけい記[経頼記]」、「類聚符宣抄」、歌;続詞花集入、
[後一条院御時(在位1016-36・4月没)中宮失せさせ給ひける(道長女威子1036・9月没)のち、
おまへの花の散るを見てよみはべりける、
花よりもむかしの人ぞこひちるるいづれの春もあはじと思へば](続詞花;哀傷383)

E2927 **経頼**(つねより・冷泉れいぜい、為経4男/本姓;藤原)?-1293 母;平棟基女、鎌倉期廷臣;1286参議従三位、
1291権中納言/92正二位/蔵人頭/宮内卿/出雲権守、
1284(弘安7)「後嵯峨院十三回聖忌御八講記」著、歌;藤葉集入、
[風にはれ風にぞくもる山ふかみ槇の葉しのぎすめる月影](藤葉;秋234)

E2986 **常頼**(つねより・絹笠きぬがさ) ? - ? 江前期大阪の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第二仏別発句/仏名脇句等入、
[釈迦の別れかなしきかなや金仏](生玉万句;仏別発句/2月15日釈迦の涅槃)

E2928 **常因**(つねより・紀き、号;浪花軒/浪華亭)?-? 江中期伊勢の生/大阪住;怪談収集家:読本作者、
1766「怪談実録」、「異説奇聞」編/「近世異説奇聞」著

F2972 **常職**(つねより・佐瀬させ、常安つねやす男)1696-17166 陸奥会津の蚕養神社祠官;父を継嗣、
国学/神道;父門/吉川惟足門、神道;吉田家入門、保科家に出仕/藩主松平容貞かたさだの侍講、
日新館で神道講義、
[常職(;名)の通称/諡]通称;内蔵権頭、 諡;社功霊社

E2929 **常倚**(つねより・檜垣ひがき、初名;貞恒、常固男/本姓;度会)1707-7771 伊勢神職;檜垣貞命さだのぶ養子、
1727外宮九禰宜/53一禰宜;従三位/71従二位、1753-77「常倚卿日次」、「常倚神宮引付」著、
[常倚(;名)の通称] 竹二郎/刑部おさかべ

G2918 **常職**(つねより・服部はっとり、)1795-18584 江戸の幕臣;幕府大番組、国学者、
[常職(;名)の字/通称/号]字;子業、 通称;久五郎/又一郎、 号;三省
常縁(つねより・東とう・平) → *常縁*(じょうえん・東とう、武将/歌人) Ｓ２２０１
恒頼(つねより・中村) → *宗卜*(むねしめ・中村なかむら、武将/城主) Ｅ４２１０
経頼女(つねよりのむすめ・源)→ *前典侍*(さきのすけ、歌人) Ｇ２０４７
津国内供(つのくにのないぐ) → *千観*(せんかん:法諱、天台僧/歌人) ２４２６
津の君(つのきみ) → *摂津*(せっつ・二条太皇太后宮、藤原実宗女)Ｅ２４５８
津入道(つのにゅうどう・出家後の号)→ *範永*(のりなが・藤原、歌人) ３５２２

E2984 **募**(つのる・山田やまだ/本姓;藤原、通称;三左衛門)?-? 江後期陸中盛岡藩士/槍術家;本間派新当流、
;北図書門、1830「大畑出張被仰候ニ付親類並大畑詰人数御書扣帳其他」
乙鳥先生(つばくろせんせい) → *宣道*(のりみち・岩間いわま、藩士/歌人) Ｆ３５８６
椿ノ廬(つばきのいお) → *茂栄*(しげひで・木村きむら、国学/歌人) Ｏ２１１９
椿之屋(つばきのや) → *顕駿*(あきとし・小野おの、国学者) Ｈ１０１６
椿舎(つばきのや) → *昌蔭*(まさかげ・山本やまもと/源/中島、藩士/国学)Ｏ４０８９

E2930 **翼**(つばさ・羽栗はぐり、吉麻呂よしまろ男/母は唐人/翔かける兄)719-79880 734父の帰国時に来日、
内薬正侍医
参考 → *吉麻呂*(よしまろ・羽栗はぐり、遣唐使人) Ｈ４７２１

翼(つばさ→たすく・白根/太田)→*多助*(たすけ・白根、藩士/歌人)　Ｅ２６７１
翼(つばさ・今田/大原)　→　*呑響*(どんきょう・大原おおはら、儒/経世家)　Ｓ３１１３
翼(つばさ・松永)　→　*良弼*(よしすけ・松永まつなが、和算家/藩士)Ｄ４７７８
翼(つばさ・赤松)　→　*翼*(よく・赤松、儒者)　Ｂ４７７０
翼(つばさ・杉田)　→　*玄白*(げんぱく・杉田すぎた子鳳、医/蘭学)　１８２９
翼(つばさ・田宮)　→　*半兵衛*(はんべえ・田宮たみや、藩士)　Ｉ３６５２
翼(つばさ・春日/加藤)　→　*竹亭*(ちくてい、加藤/春日、儒者/書)　Ｄ２８５０
翼(つばさ・宇津木)　→　*泰翼*(やすすけ・宇津木うつき/平、藩士/歌)Ｆ４５３７
鍔三郎(つばさぶろう・津田)→　*信成*(のぶなり・津田つだ、藩士/文筆)　Ｃ３５６３
E2931 **粲**(つばら・小出こいで/松田、別名;英粲)1833-1908*76* 石見浜田藩士/御歌所寄人、歌;瀬戸久敬門、
維新後;1877宮内省文学御用掛雇/92御歌所寄人、信行「六十六番歌合」判、
[粲(;名)の通称/号]通称;新四郎/鎮平、 号;如雲/梔園しえん/三小庵/槐陰書屋/乾坤廬
つぶりの光(つぶりのひかる・岸誠之、桑楊庵)→*光*(ひかる・頭つむり、狂歌)　３７０１
壺屋(つぼや)　→　*春章*(初世しゅんしょう・勝川/藤原、絵師)　Ｊ２１９４
壺坂僧正(つぼさかのそうじょう)→　*覚憲*(かくけん;法諱、法相僧)　Ｊ１５７０
壷坂法印(つぼさかのほういん)→　*家寛*(けかん;法諱、天台僧/声明家)　Ｇ１８８４
E2975 **壺石文**(つぼのいしぶみ)　?－　?　江戸狂歌;1787「才蔵集」入;
[青柳のみどりの眉は置きながら乱れし髪はなでつけもせず](狂歌才蔵集;一39)
(本歌;春風ややなぎの髪をけづるらむ緑の眉も乱るばかりに/千載集;亀山院)
(眉を置くはまゆずみを引くこと/置きながらに起きながらを掛ける)
E2932 **坪平**(坪比良つぼひら・本膳亭ほんぜんてい/杉箸亭さんちょてい)?-? 江戸本町の黄表紙・洒落本;山東京伝門?、
1782「世界の幕なし」「ひろふ神」/94「覗見喩節穴」95「手前漬赤穂の甎」「しわみうせ薬」
爪木阿闍梨(つまきのあじゃり)→　*円嘉*(えんか、天台僧/歌人)　１３９０
都末起庵(つまつきあん)　→　*文喬*(ぶんきょう・村井、俳人)　Ｆ３８０３
妻之丞(つまのじょう・小島)→　*彦十郎*(ひこじゅうろう・小島、歌舞伎役/作者)３７６０
E2933 **つま丸**(つままる)　?－　?　長崎俳人;1691江水「元禄百人一句」入
嬬麿(つままろ・殿村)　→　*篠斎*(しょうさい・殿村安守、商家/国学/歌)Ｊ２２０４
E2934 **津麻呂**(つまろ・宗形部むなかたべ)?-　?　万葉集中人物;筑前宗像郡の百姓(船頭);
志賀島の荒雄あらおに官船の対馬行を依頼(代行の荒雄は遭難死):万葉集3869左注
→　*荒尾*(あらお、志賀村の海人[白水郎あま])Ｂ１０６２
E2935 **柘枝仙媛**(つみのえのやまびめ、仙柘枝やまびめつみのえ/柘媛)?-?　万葉伝説/巻三385-7:柘の枝の化身の仙女、
吉野の漁夫味稲うましねとの関わり;懐風藻にも伝説あり、万葉387は若宮年魚麻呂あゆまろ作
積丸(つみまる・万石亭)　→　*仙果*(2世せんか・笠亭りゅうてい、篠田久次郎、戯作者)Ｆ２４００
E2972 **津無坊早耳**(つむぼのはやみみ)?－　?　狂歌;1785「徳和歌後万載集」3首入
[かけまくも鍾馗しょうきの姿恐れてや首うちたれて鬼百合の花](後万載;二170)
(詞書要約;鍾馗の画をかけた床の間に百合をいけたるのを見て)
頭光(つむりのひかる・つぶりのひかる、岸誠之、桑楊庵)→　*光*(ひかる・頭、狂歌)３７０１
E2980 **頭満麿**(つむりのまんまろ)　?－　?　狂歌;1787「才蔵集」入:
[浮世をばさらさら捨てしきれ数珠のくる人もなき山ずまゐ哉](才蔵集;508)
都茂吉(つもきち・竹村)　→　*実麗*(さねよし・竹村たけむら、歌人)　Ｑ２０９１
F2977 **積**(つもる・宮原みやはら、旧姓;荒武)1823-84*62*　因幡鳥取藩士;尚徳館吟味役、
国学/歌;衣川きぬがわ長秋門、
[みなとえもちかつく真帆の追いかぜにさちつむ海士や声きほふらむ]、
(沖探容画の因幡八景;賀露帰帆)、
[積(;名)の字/通称/号]字;士済、 通称;大輔、 号;海宇/寸碧楼
津弥(つや・白石)　→　*艶子*(つやこ・白石しらいし、歌人)　Ｆ２９８４
つや(・曾根)　→　*つや女*(つやじょ・曾根そね/森山、俳/歌人)Ｆ２９８８
E2994 **つや子**(つやこ・仙石せんごく)?－　?　旗本仙石政相まさとも(信濃矢沢陣屋領主)の妻、
歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[梅の花散るをうしとや思ふらん松にのみ来て鶯の鳴く]、

（大江戸倭歌；春92/松上鴬、仙石播磨守妻名）
［今さらにかかるべしとはしら雲のしらで頼みし事の悔しさ］（同；恋1481/悔恋）、
夫の政相まさとも；仙石政寿男/1840従五下播磨守；江戸住/1868知行地土着の命で矢沢住、
政雄と改名/本領安堵/下大夫に任命され東京定府の命で東京住

F2984 **艶子**（つやこ・白石しらいし、名；津弥）1795-1872*78*　長門下関赤間の廻船問屋白石卯兵衛の妻、
歌人、資風すけかぜの母

都や子（つやこ・丹羽）　→　久子（ひさこ・丹羽にわ/戸田、藩主妻/歌）Ｉ３７４１

F2988 **つや女**（つやじょ・曾根そね/旧姓；森山、）?-1887　伊予内子の俳人/歌人、新谷藩に出仕、
内子町の曾根霞洞（1832-1907；76歳/医者/製茶業/俳人）の妻?、
［つや女の初名/号］初名；内子、号；菖蒲あやめ

E2936 **津山検校**（初世つやまけんぎょう）?-1836　大阪地唄三絃名手/
1812「新増大成糸のしらべ」校訂；藤永検校らと

露入道（つゆにゅうどう）　→　*湖十*（初世こじゅう、俳人）　１９３１
露入道（つゆにゅうどう）　→　*晩得*（ばんとく・佐藤さとう、藩士/俳人）　Ｉ３６４４
露の五郎兵衛（つゆのごろべえ）→　*五郎兵衛*（ごろべえ・露の・露休、落語）１９５２
露の屋（つゆのや）　→　*松斎*（しょうさい・小出こいで、藩士/国学者）Ｊ２２０２
露舎（つゆのや）　→　*美頌*（よしみね・滝口たきぐち/紀、神職/歌人）Ｈ４７５４

E2937 **露丸**（つゆまる）　？-　？　江中期江戸山の手の雑俳点者：川柳と双璧、
1763万句合を催、1767「春楽三評」の点者（川柳・錦江と）/1772「安永元年露丸評万句合」

E2938 **強**（つよし・合田ごうだ、医者吉盤男）1723-73*51*　讃岐和田浜の医者：父門/上京し松原一閑斎門、
のち望月三英・山脇東洋門/長崎で吉雄耕牛門、「西海紀行」「西遊紀行」「広陵紀行」、
「壬申花の記」「医道聞書」、1762「紅毛医述」、「和蘭療法備忘録」、
［強（；名）の字/通称/号］字；千之、通称；求吾、号；温恭

強（つよし・原）　→　*健*（たけし・原はら/戸田、医者/国学/歌）Ｚ２６１０
彊（つよし・林はやし）　→　*洞海*（どうかい・林、蘭医）　Ｃ３１０６
貫氏（つらうじ・金春）　→　*禅竹*（ぜんちく・金春こんぱる、能役作者）　２４３４

E2939 **連起**（つらおき・長ちょう、連安男/膳連養嗣）1732-1800*69*　長善通の嗣子、加賀藩八家の1、1757家督、
金沢藩士/1774従五下大和守/1800致仕、「長家譜」編、連愛つらよしの父、
［連起（；名）の通称/法号］通称；右膳/津五郎/三左衛門/九郎左衛門、法号；恵迪斎

並蔭（つらかげ・村田）　→　*春野*（はるの・村田、春門男/国学者）　Ｇ３６６８

2915 **列樹**（つらき・春道はるみち、新名男）?-920　平安期廷臣；正六上/910文章生/太宰大典、
920壱岐守（赴任前に没）、歌人；勅撰5首；古今（303/341/610）後撰（79/549）、
［志賀の山越え　山川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり］（古今303）

列樹（並樹つらき・村田）　→　*春門*（はるかど・村田/宮崎、国学/歌）　３６３１
並樹（つらき・村田）　→　*嘉言*（よしこと・村田/平、春門男/国学者/絵師）Ｄ４７３０
並樹（つらき・村田）　→　*春野*（はるの・村田、春門男/国学者）　Ｇ３６６８
つらき（・朝起）　→　*朝起*つらき（あさおきのつらき、狂歌）　Ｃ１０６６

F2952 **貫実**（つらざね・恩田おんだ、）1798-1862*65*　信濃松代藩士；河原綱徳と共に家老、国学者、
［貫実（；名）の通称/号］通称；頼母、号；柳泉/桜廼舎さくらのや

E2940 **つらただ**　？-　？　平安前期歌人：
977三条左大臣（頼忠）前栽歌合；曾禰好忠らと後の会参加、
［水のうへに浮かべる月のそらすみてこよひの秋をながれてもみむ］（頼忠前栽合；100）

E2941 **連胤**（つらたね・鈴鹿すずか、隆芳男/本姓；中臣・卜部）1795-1871*77*　母；左京亮立入（藤原）経康女、
代々京の吉田社の社司（家老職）、1802（8歳）父没/同族鈴鹿通益を後見に母・祖母に養育、
漢学；松岡雄淵門/国学：山田以文門/歌；香川景樹門、1804（文化元）神祇権少祐に任官、
1812筑前守/1816（文化13）吉田神社権祝職；維持経営に尽力/33権少副、
1836（天保7）致仕；家督を長男長存に譲渡、1855吉田社正禰宜/59権預、
亀卜行事の時卜部に改姓、吉田社社殿再建等の功；1866従三位、
1870より30余年間「神社覈録」編纂に専念；1870完成、1838「あしたの露」編、
1855「冷泉院山陵」、「山陵順拝図絵」/1857「筑後国高良玉垂命の考」著、長存の父、

[連胤(;名)の幼名/通称/号]幼名;幸松、通称;筑前守、号;誠斎/尚娶しょうけい舎、
諡号;成功いさお霊神
E2961 **つらな**(・源、連か?)　? -　?　平安前期歌人;898亭子院女郎花合参加、
源連なら泉(正五下/少納言)の男で俊すぐるの甥、
[わが宿をみなへし人の過ぎゆかば秋の草葉はしぐれざらまし](女郎花合29)
(私を捨てた人が家の前を行過ぎるなら草葉はしおれないでその美を見せなさい)
E2942 **貫魚**(つらな・守住もりずみ、庄野しょうの延知男)1808-92*85*　阿波徳島の絵師;渡辺広輝門(;輝美号)、
江戸で住吉広定門、1838徳島藩絵師/1880大阪住;絵画共進会審査院、1844「亜墨新話」、
[貫魚(;号)の字/通称/別号]字;士済、通称;伸美/徳次郎、
別号;是姓斎/回春斎/寄生軒/輝美/定美
貫成(つらなり・井梁)　→　*井梁貫成*(いやなつらなり、狂歌作者)　Ｉ１１７５
E2943 **列根**(つらね・小沢こざわ、名;鎮監、鎮盈ささを男)1813-56 尾張名古屋藩士/蔵奉行手代/書物奉行手代、
俳人;父門;松の家の号を継承、1846「桂葉集」編/47「千々の色」編/「銀世界」編、
1851「常とは」編/52「温故集」「十還集」編、「波礼安末里」編(1862刊)、
[列根(;号)の通称/別号]通称;啓吉/勘兵衛、別号;松の家
つらね(・花道;狂名)　→　*団十郎*(5世だんじゅうろう・市川、歌伎役)　Ｉ２６３１
E2971 **面のあつき**(つらのあつき)　? -　?　狂歌;江戸スキヤ連/1783「狂歌知足振しったりぶり」入
E2944 **面のあつき**(つらのあつき、石田三九郎)?-?　1804-10頃播州の狂歌師
E2945 **津良河厚**(つらのかわあつ)　? -　?　狂歌,1785「後万載集」2首:356・855;
[勝栗かちぐりを負けたと呼ぶもことはりや浅草市の裏は六郷](徳和歌後万載集;四356)
(六郷;本庄藩六郷伊賀守邸、賽目の一の裏は六、市で客の値切りに売手がまけたと言う)
E2946 **連久**(つらひさ・森、別名;貫久、寛久男)1653-? 1721存 京の神職;1700上賀茂神社権禰宜/20神主、
1721隠岐へ配流/正四下、「神主森連久日記」「歴代神主伝」「競馬次第年中行事」、
[連久(;名)の通称]　飛騨
E2947 **連弘**(つらひろ・長ちょう、本多政礼男)1815-57*43*　長連愛つらよしの養嗣子、金沢藩士;1831家督、
加賀藩八家の1/従五下大隅守/1849政権把握;急激な経済改革を実施(上田竜郊に傾倒);
1854罷免解任、「藩士へ御貸銀について達書等」著、
[連弘(;名)の幼名/通称/法号]幼名;音吉、通称;又三郎/将之佐/九郎左衛門、法号;保合斎
E2948 **貫道**(つらみち・大神おおが/別姓;山口)?-? 江中期明和安永1764-81頃摂津東成郡(大阪)上ノ宮の神職、
神道講釈師、国学に秀で儒仏両典にも通ず、「幸神秘訣」「神国女訓抄」「南遊集」著、
[貫道(;名)の通称/号]通称;日向、号;竜雷神人
G2928 **貫道**(つらみち・藤井ふじい、通称;佐左衛門)1754-1807*54*　伊勢度会郡の国学者;本居宣長門、
藤井道治(市郎右衛門/1761-1822/同門国学者)と同族?
E2949 **貫道**(つらみち・真田さなだ、貫恕男)1820-1902*83*　信州松代藩士/1851家老職;53罷免;64復職、
幕末期の藩政参与/1869大参事;70藩札交換の騒擾事件で引責、「一誠斎紀実」、
[貫道(;名)の通称/号]通称;志摩、号;桜山
貫通(つらみち・米谷)　→　*吉郎右衛門*(きちろうえもん・米谷まいや、藩士/兵学)Ｌ１６３８
E2950 **陣基**(陳基つらもと・田代たしろ、宗澄男)1678-1748*71*　母;淵上又兵衛女、肥前佐賀鍋島藩士;1696右筆、
1709罷免、1710-16山本常朝つねともの武士道談話「葉隠」を編纂、
1731再び右筆;藩主宗茂に出仕、
[陣基(;名)の幼名/通称/号]幼名;源七、通称;又左衛門、号;胡酔/松盟軒、
E2951 **つらやす**(藤原)　? -　?　平安前期保明親王の帯刀/歌;904-23頃「帯刀陣歌合」入
E2952 **連恭**(つらやす・長ちょう、連弘つらひろ長男)1842-68早世*27* 加賀金沢藩八家の1、金沢藩士;1857家督嗣、
1860従五下大隅守/64長州征討の幕府軍に参加、「長家譜」編、
[連恭(;名)の幼名/通称/法号]幼名;富若、通称;九郎左衛門、法号;思誠斎
2916 **貫之**(つらゆき・紀き、茂行[望行]男)生年859/868/872説-没年945/946説*88-74?* 平安前期廷臣、
母;内教坊の伎女か?、歌人;901御書所預/905「古今集」撰者;仮名序、
923-31頃大監物/右京亮、土佐守;925帰京/943従五上/945木工権頭、
907「大井河行幸和歌」、「土佐日記」「貫之集」著、「新撰和歌集」編/「万葉集五巻抄」著、
「和歌深密書」「蟻通しの神の謡」「紀師匠曲水宴和歌」著、時文・紀内侍の父、

勅撰452首;古今(101首2/9/22/25/26/39/42/45以下)後撰(82首)拾遺(108首)以下、
[人はいさ心もしらずふるさとは花ぞ昔の香に匂ひける](古今集;42)、
[手に結ぶ水に宿れる月影のあるかなきかの世にこそありけれ](拾遺;哀傷1322、
辞世歌/病重く源公忠に贈る歌/貫之集・袋草子・宝物集二・沙石集五に入)、
文粋・菟玖波・雲葉集(18首)入、
[貫之(;名)の幼名]　内教坊阿古久曾
→　*時文*(ときふみ・ときふむ・紀、廷臣/歌;梨壺5人)　３１３５
→　*紀内侍*(きのないし、貫之女/歌人;古今和歌六帖撰?)　１６３０
→　*貫之妹*(つらゆきのいもうと、古今集花園左府本筆?)　Ｑ２９９５
貫之(つらゆき・板部/渋川)→　*虚庵*(きょあん・渋川/板部/万里小路/王、絵師)Ｎ１６０８
Q2995 **貫之妹**(つらゆきのいもうと・紀き、)?-　?　平安前期歌人;
[古今集花園左府(左大臣源有仁)御本]の自筆本?(袋草紙など);貫之自筆説あり
E2953 **連愛**(つらよし・長ちょう、連起つらおき男)1761-1831*71*　加賀金沢藩八家の1、1800家督;金沢藩士、
1826「長連愛書翰」、連弘の養父、
[連愛(;名)の通称/法号]通称;竹次郎/梅次郎/将之佐/九郎左衛門、法号;敬義斎
釣方(つりかた・普栗)　→　*普栗釣方*(ふぐりのつりかた、書肆・狂歌)　Ｂ３８７０
F2905 **釣女**(つりじょ)　?-　?　江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[たそかれのかきまほのかにみてしよりこころぞとまる花の夕がほ]、
(大江戸倭歌;恋1393)
釣彦(つりひこ・西原)　→　*晃樹*(あさき・西原、藩士/国学者)　１０４７
F2975 **つる**(・吉屋よしや)　?-　?　琉歌女流歌人、伝説的遊女、朝敏「苔の下」に伝あり
F2976 **つる**(・清水しみず)　?-1875　信濃伊那郡の飯田侯(堀家)の乳母、
歌人;堀成子なりこ(成姫/飯田藩主の室)門
鶴(つる・二川)　→　*鶴子*(つるこ・二川ふたがわ、書家/歌人)　Ｇ２９３０
E2954 **鶴右衛門**(つるえもん・小林、初世鶴屋喜右衛門)?-1777　書肆、浄瑠璃本屋の祖、「出世景清」:刊
E2955 **鶴右衛門**(つるえもん・小林、近房、2世鶴屋)?-1817　江戸書肆地本問屋、「東海道中膝栗毛」刊
E2956 **鶴右衛門**(つるえもん・小林、3世鶴屋)?-1833　書肆、馬琴・豊国と組み出版、絵双紙を著作
G2942 **鶴雄**(つるお・円尾まるお、旧姓;藤田)?-1857　和泉佐野の生/国学・歌;足代弘訓ひろのり門、
播磨竜野の醤油醸造業円尾家を相続;町惣年寄、
[鶴雄(;名)の初名/通称]初名;長克、通称;松之助/四郎五郎
F2960 **弦雄**(つるお・木村きむら、)1838-1897*60*　肥後熊本藩士、国学;林有通門、
維新後;宮内省出仕、
[弦雄(;名)の号]　邦斎/悲喜笑道人/臏斎ひんさい
E2958 **鶴雄**(つるお・滝村たきむら、通称;小太郎)1839-?　江戸赤坂住の幕臣/歌:鈴木重嶺・松平定常門、
「徳川家嫡庶譜略」編/「江戸城沿革略記」「御量」著
鶴夫(つるお・長田おさだ)　→　*鶴夫*(たづお・長田おさだ、国学/歌)　Ｂ２６４４
鶴夫(つるお/たづお?・萩原)→　*久訓*(ひさのり・萩原はぎわら/源、町役、国学)Ｋ３７６０
G2983 **鶴王**(つるおう・)　?-　?　三井寺(園城寺)の童、
歌人;1237刊[楢葉集]入(園城寺まつ[松]への贈歌)
[承元の末(1211)三井寺の童まつ山階寺(興福寺)に移し侍りけるなごりに、
いでてこしやどの軒端のしのぶ草露をばたれか涙とかみる](楢葉;雑676)
この時;まつ・菊苑真珠・奈良の金比毘羅の歌あり
鶴王(つるおう→たづおう)　→　*鶴王*(たづおう・頼子、尊氏女/夢中歌)　２７８２
鶴岡逸民(つるおかいつみん)　→　*何帛*(かげい・立林たてばやし、絵師)　Ｆ１５７７
E2978 **弦掛益人**(つるがけのますんど)　?-　?　狂歌;1787「才蔵集」入;384
[恨みわび待つ夜はつらき手枕にしびりも時もきれてこぬ君]
敦賀太夫(つるがだゆう・宮古路/富士松)→*若狭掾*(初世わかさのじょう・鶴賀、新内節/狂歌)５３０４
敦賀侍従(つるがのじじゅう・羽柴)→*頼隆*(よりたか・蜂屋はちや/源、武将/歌・連歌)Ｉ４７８８
鶴亀(つるかめ)　→　*有隣*(ゆうりん、俳人)　Ｅ４６０７

E2957 つるかめ(鶴亀;組連) ? - ? 江戸小石川の川柳の組連、
取次;1775･77「川柳評万句合」入/
取次例;[十五日ふくべを切って叱られる](1775万句合/前句;おとづれにけり々々)、
(8月15夜に化粧用の糸瓜へちま水を採る習慣)、
(娘が糸瓜の茎を切ったつもりが間違えて父の瓢箪ふくべの茎を切ってしまった)
E2977 鶴亀十千万亭(つるかめのとちまてい)?- ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入;
[初秋の三番叟からそよそよと身も凌ぎよくなるやすゞ風]
敦賀屋嘉三(つるがやかぞう)→ *嘉三*(かぞう･敦賀屋、薬種商/談義本) Ｍ１５７６
敦賀屋徳兵衛(つるがやとくべえ)→ *敦徳*(つるとく;号、商家/俳人) Ｅ２９６５
鶴賀若狭掾(つるがわかさのじょう)→ *若狭掾*(わかさのじょう･初世鶴賀、新内節創始) ５３０４
E2959 鶴吉(つるきち･橋本はしもと) ? - ? 岩代田村郡三春村の木馬製作者:三春駒製作の祖、
1830-天保頃「高柴村製木馬伝来ノ記」
鶴吉(つるきち･歌川) → *国房*(初世くにふさ･歌川うたがわ、絵師) Ｄ１７１６
F2974 鶴子(つるこ･沢村さわむら、旧姓;戸塚)1725-66*42* 近江彦根の歌人、藩士沢村維則の妻、
歌;[彦根歌人伝･亀]入
E2990 鶴子(つるこ･草深くさふか) ? - ? 伊勢安濃津の医者草深某の母、
歌;本居大平(1756-1833)門/大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、
[かりがねはおのが常世を思ひいでて花咲く春に何帰るらむ]、
(八十浦;783長歌「帰雁」反歌)
G2930 鶴子(つるこ･二川ふたがわ、鶴、相近[1767-1836]長女)1796-1869*74* 筑前福岡の歌人･書家;父門、
父門の鶴原友古ともひさ(1793-1864/書家/歌人)と結婚、子なし、異母妹;瀧子たきこ(絵師)
父 → *相近*(すけちか･二川、藩士/書/音楽/歌)Ｃ２３４１
夫 → *友古*(ともひさ･二川/鶴原、書/歌人) Ｗ３１２７
妹 → *瀧子*(たきこ･二川、玉篠ぎょくじょう、絵師) Ｚ２６３６
G2965 鶴子(つるこ･矢島やじま、旧姓;三村)1798-1853*56* 肥後益城郡のの惣庄屋矢島直明の妻、
国学者/歌人、2男7女の母;順子(竹崎堂の妻)･久子(徳富蘇峰･蘆花の母)･
つせ子(横井小楠妻)･梶子(女子教育･社会運動家)の母
E2962 鶴子(つるこ･梅廼屋うめのや/吉田)1802-64?*63?* 江後期;江戸秣屋待合茶屋/狂歌、
「狂歌一代男」著、26「略が職人尽」入
G2964 つる子(つるこ･八木やぎ、)1813-1869*57* 筑前博多の国学･歌人;大隈言道門
F2993 鶴子(つるこ･田中たなか)1845 - 1912*68* 信濃水内郡稲田の歌人、
和漢学･歌;岩下貞融門/歌;海上胤平･鈴木重嶺(翠園)門、
歌;石田長麿歌集[海野の花][海野の玉]に多数入集、
[山姫は花の衣をぬきかへてうすきみとりの袖にかへけり](海野の玉)
F2995 鶴子(つるこ･高島たかしま)1849- 1908*60* 安藝広島藩士高島訂の女、国学者;権中講義
鶴子(つるこ･日野/鍋島)→ *直与室*(なおとものしつ･鍋島、藩主妻/歌･香道)Ｂ３２８８
鶴五郎(つるごろう･高杉/田上)→ *宇平太*(うへいた･田上たがみ、藩士/蘭学)Ｄ１２３０
E2976 鶴沢蟻鳳(つるさわぎほう) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;
[一重二重さゞ波しがの御所ざくら双六盤に昔しりつつ]
(一重/二重/さゞ波/しが/御所は桜の種類、1～6の数え歌)
E2963 鶴重(つるしげ･渡辺わたなべ) ? - ? 尾張犬山の農鍛冶業、画を嗜み自著に挿絵を描く、
1804「犬山視聞図会」05「御影参宮内外霊験話」33「一向奇妙集尾張門徒の争」著、
[鶴重(;名)の通称/号]通称;新右衛門、号;長足/長足庵
鶴十郎(つるじゅうろう･坂東)→ *俵蔵*(2世ひょうぞう･勝、歌舞伎作者) Ｆ３７３１
鶴助(初世つるすけ･中村)→ *歌右衛門*(4世うたえもん･中村なかむら、歌舞伎役者)１２６５
E2964 鶴蔵(つるぞう･嶋田しまだ) ? - ? 上方歌舞伎作者;1788七五三助「義臣伝読切講釈」番付
鶴蔵(つるぞう･小川) → *安鶴*(あんつる、安寿軒、左官/巷談) Ｃ１０４３
鶴蔵(つるぞう･諏訪) → *頼庸*(よりつね･諏訪すわ、儒者) Ｊ４７１０
鶴太郎(つるたろう･松平) → *治郷*(はるさと･松平まつだいら、藩主/茶道) Ｇ３６３８
鶴太郎(つるたろう･秋良) → *貞温*(さだあつ･秋良あきら、藩士/国事) Ｈ２０７２

鶴太郎(つるたろう・木村) → *渫庵*(せつあん・木村きむら、医者/儒/詩文)Ｋ２４６７
鶴千代(つるちよ・徳川/松平)→ *頼常*(よりつね・松平/徳川、藩主/学問)Ｊ４７０８
鶴千代(つるちよ・鳥居) → *忠春*(ただはる・鳥居、藩主/乱行) Ｑ２６５１
鶴千代(つるちよ・伊東) → *重孝*(しげたか・伊東いとう、藩士/兵学/歌)Ｎ２１３２

E2965 **敦徳**(つるとく;号、通称;敦賀屋徳兵衛)?1720頃-?1803前 江中期大阪(?)俳人:二柳・五晴と交流、1789「安思貢弥有あしくやう」編、追善集「続あし供養」
鶴殿(つるどの) → *基家*(もといえ・藤原/九条、歌人) Ｃ４４１２
鶴友(つるとも) → *友鶴*(ともつる・千歳軒、狂歌) Ｐ３１８９

E2973 **鶴籠女**(つるのかごめ) ? - ? 女流狂歌作者;1785「後万載集」2首入;
[いつ人の手に入婿をとるやらとたれも思ひをかくる子宝]
鶴之丞(つるのじょう・池内)→ *信夫*(のぶお・池内いけうち、藩士/養蚕) Ｈ３５２８
鶴之助(つるのすけ・鳥居) → *忠春*(ただはる・鳥居、藩主/乱行) Ｑ２６５１
鶴の門雛亀(つるのとひなかめ)→ *仙塢*(せんう・細木ほそき/源、商家/狂歌)Ｌ２４６７
鶴廼友年(つるのともとし) → *友鶴*(ともつる・千歳軒、狂歌) Ｐ３１８９

E2974 **鶴羽重**(つるのはがさね) ? - ? 狂歌;1785「後万載集」/87「才蔵集」入
[櫛形にさすか影こそ見ゆるなれ二十三夜のあけがたの月](狂歌才蔵集;五214)
(江戸で唐櫛屋を十九四[とうくし]から二十三屋と言ったので掛けている)
鶴雛人(つるのひなんど) → *田鶴丸*(たづまろ・蘆辺あしべ、狂歌) ２６３９
鶴舎(つるのや) → *雅朗*(まさあきら・横浜よこはま/浦野、歌人) Ｔ４０６７
鶴廼屋(つるのや・乎佐丸)→ *乎佐丸*(おさまる・鶴廼屋、狂歌) Ｄ１４０７
鶴廼屋(2世つるのや・梅好)→ *梅好*(ばいこう・2世鶴廼屋、狂歌) Ｂ３６１９
鶴廼屋(つるのや・高崎) → *親義*(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) Ｃ２８２３
鶴廼舎(都留廼舎つるのや)→ *安都志*(あつし・可部かべ、医者/詩歌) Ｅ１０６３

E2966 **鶴彦**(つるひこ・三橋みつはし/みはし)1808-6255 下総埴生郡成田の歌人:神山魚貫なつら門、1857「麻葉集」著、「苔清水」(師魚貫と共編)、遺草「遊里乃屋集」(1867師魚貫の編)、
[鶴彦(;名)の通称/号]通称;重郎兵衛、号;ゆりのや(遊里乃屋)/松舎まつのや
鶴姫(つるひめ・松平) → *雅子*(まさこ・松平まつだいら/酒井、藩主妻/歌人)Ｐ４０１５

E2967 **鶴平**(つるへい・下山しもやま、喜左衛門)?-? 大阪書籍商、俳人;西鶴門/団水と誓願寺の西鶴墓碑建立
鶴松丸(つるまつまる・松平)→ *忠明*(ただあきら・松平まつだいら、藩主/幕政)Ｅ２６７９
鶴松丸(つるまつまる・松平)→ *忠冬*(ただふゆ・松平、幕臣/記録編纂) Ｆ２６８０
鶴松丸(つるまつまる・松平)→ *忠弘*(ただひろ・松平、忠明男/藩主) Ｑ２６６７
鶴丸(つるまる) → *鶴丸*(かくがん、連歌) Ｊ１５６４
鶴丸(つるまる・丹頂庵) → *玉蘭斎*(ぎょくらんさい、橋本貞秀、絵師) Ｄ１６１１
鶴丸(つるまる・植木/中島)→ *貴恒*(たかつね・中島/植木、国学/歌人)Ｍ２６３１
鶴丸(つるまる・松田) → *大直*(もとなお・松田まつだ、神道/国学) Ｌ４４３８
弦丸(つるまる・井上) → *眞澄*(ますみ・井上いのうえ、神職/国学) Ｎ４０２９

E2968 **鶴麿**(つるまろ・松川まつかわ、東山男/本姓;平)1791-1831*41* 陸中磐清水村の医者/京で医業/歌人、「日本古代医方」著、
[鶴麿(;名)の幼名/字]幼名;常太郎、字;理三
鶴村(つるむら・樽井) → *守城*(もりき・樽井たるい、兵法家/歌人) Ｆ４４３４
鶴や(つるや) → 句空(くくう、俳人) １７４４
鶴屋(つるや・中村) → *勘三郎*(2世・中村、歌伎役者) Ｄ１５６８
鶴屋(初世つるや) → *鶴右衛門*(つるえもん・小林、書肆) Ｅ２９５４
鶴屋(2世つるや) → *鶴右衛門*(つるえもん・小林、書肆) Ｅ２９５５
鶴屋(3世つるや) → *鶴右衛門*(つるえもん・小林、書肆) Ｅ２９５６
鶴屋南北(4代つるやなんぼく)→ *南北*(4世なんぼく・鶴屋、歌舞伎脚本)３２３５
鶴屋南北(5代つるやなんぼく)→ *南北*(5世なんぼく・鶴屋、歌舞伎脚本)３２３６
鶴山検校(つるやまけんぎょう)→ *鶴山勾当*(つるやまこうとう) Ｅ２９６９

E2969 **鶴山勾当**(つるやまこうとう) ? - ? 江中期大阪島の内の音曲家:野川流地唄の名手、

江戸吉原で活動;浄瑠璃繁太夫節を地唄に導入;鶴山節の祖/検校、1762刊「泉曲集」編

G2923 **鶴代子**(つるよこ・広田ひろた、)1778-1863*86*　筑後山門郡の広田八幡宮祠官の広田彦麿の妻、夫は勤王活動家

徒然庵(つれづれあん)　→　*祐海*(ゆうかい;法諱、僧/歌人)　４６９７
徒然庵(つれづれあん)　→　*魚坊*(ぎょぼう・中島、歌人/俳人)　Ｑ１６３０
徒然庵(つれづれあん)　→　*宗耋*(そうてつ・木村きむら、庄屋/国学)　Ｉ２５５６
徒然庵(つれづれあん)　→　*光精*(みつきよ・丹下たんげ、歌人)　Ｉ４１５８
津無坊早耳(つんぼのはやみみ)→　*津無坊早耳*(つむぼのはやみみ、狂歌)　Ｅ２９７２